

一 防共協定の加盟国拡大と強化問題

1 昭和11年11月25日 調印

日独防共協定

付記 昭和十一年十一月二十五日

右協定に関する外務省声明

共産「インターナショナル」ニ對スル協定

大日本帝國政府及

獨逸國政府ハ

共産「インターナショナル」(所謂「コミンテルン」)ノ目的ガ其ノ執リ得ル有ラユル手段ニ依ル現存國家ノ破壊及暴壓ニ在ルコトヲ認メ

共産「インターナショナル」ノ諸國ノ國內關係ニ對スル干涉ヲ看過スルコトハ其ノ國內ノ安寧及社會ノ福祉ヲ危殆ナラシムルノミナラズ世界平和全般ヲ脅スモノナルコトヲ確信シ

共産主義的破壊ニ對スル防衛ノ爲協力センコトヲ欲シ左ノ通協定セリ

第一條

締約國ハ共産「インターナショナル」ノ活動ニ付相互ニ通

報シ、必要ナル防衛措置ニ付協議シ且緊密ナル協力ニ依リ右ノ措置ヲ達成スルコトヲ約ス

第二條

締約國ハ共産「インターナショナル」ノ破壊工作ニ依リテ國內ノ安寧ヲ脅サル第三國ニ對シ本協定ノ趣旨ニ依ル防衛措置ヲ執リ又ハ本協定ニ參加センコトヲ共同ニ勧誘スベシ

第三條

本協定ハ日本語及獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベク且五年間效力ヲ有ス締約國ハ右期間滿了前適當ノ時期ニ於テ爾後ニ於ケル兩國協力ノ態樣ニ付了解ヲ遂ゲベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名調印セリ

昭和十一年十一月二十五日即チ千九百三十六年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ本書ニ通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共 (印)

獨逸國特命全權大使

Joachim von Ribbentrop (印)

共產「インターナショナル」ニ對スル協定ノ

附屬議定書

本日共產「インターナショナル」ニ對スル協定ニ署名スル
ニ當リ下名ノ全權委員ハ左ノ通協定セリ

(イ)兩締約國ノ當該官憲ハ共產「インターナショナル」ノ活
動ニ關スル情報ノ交換竝ニ共產「インターナショナル」

ニ對スル啓發及防衛ノ措置ニ付緊密ニ協力スベシ

(ロ)兩締約國ノ當該官憲ハ國內又ハ國外ニ於テ直接又ハ間接
ニ共產「インターナショナル」ノ勤務ニ服シ又ハ其ノ破
壞工作ヲ助長スル者ニ對シ現行法ノ範圍内ニ於テ嚴格ナ
ル措置ヲ執ルベシ

(ハ)前記(イ)ニ定メラレタル兩締約國ノ當該官憲ノ協力ヲ容易
ナラシムル爲常設委員會設置セラルベシ共產「インター
ナショナル」ノ破壞工作防遏ノ爲必要ナル爾餘ノ防衛措
置ハ右委員會ニ於テ考究且協議セラルベシ

昭和十一年十一月二十五日即チ千九百三十六年十一月二十
五日「ベルリン」ニ於テ

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共

獨逸國特命全權大使

Joachim von Ribbentrop

共產「インターナショナル」ニ對スル協定ノ

祕密附屬協定

大日本帝國政府及

獨逸國政府ハ

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ガ共產「インター
ナショナル」ノ目的ノ實現ニ努力シ且之ガ爲其ノ軍ヲ用ヒ
ントスルコトヲ認メ

右事實ハ締約國ノ存立ノミナラズ世界平和全般ヲ最深刻ニ
脅スモノナルコトヲ確信シ

共通ノ利益ヲ擁護スル爲左ノ通協定セリ

第一條

締約國ノ一方ガ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ヨリ挑
發ニ因ラザル攻撃ヲ受ケ又ハ挑發ニ因ラザル攻撃ノ脅威ヲ
受クル場合ニハ他ノ締約國ハ「ソヴィエト」社會主義共和

國聯邦ノ地位ニ付負擔ヲ輕カラシムルガ如キ效果ヲ生ズル
一切ノ措置ヲ講ゼザルコトヲ約ス

前項ニ掲グル場合ノ生ジタルトキハ締約國ハ共通ノ利益擁
護ノ爲執ルベキ措置ニ付直ニ協議スベシ

第二條

締約國ハ本協定ノ存續中相互ノ同意ナクシテ「ソヴィエ
ト」社會主義共和國聯邦トノ間ニ本協定ノ精神ト兩立セザ
ル一切ノ政治的條約ヲ締結スルコトナカルベシ

第三條

本協定ハ日本語及獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス本協定ハ本
日署名セラレタル共產「インターナショナル」ニ對スル協
定ト同時ニ實施セラルベク且之ト同一ノ有効期間ヲ有ス
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協
定ニ署名調印セリ

昭和十一年十一月二十五日即チ千九百三十六年十一月二十
五日「ベルリン」ニ於テ本書ニ通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共 (印)

獨逸國特命全權大使

Joachim von Ribbentrop(印)

附錄第一

以書翰啓上致候陳者本日共產「インターナショナル」ニ對
スル協定ノ祕密附屬協定ニ署名スルニ當リ大日本帝國政府
及獨逸國政府ハ左ノ點ニ關シ完全ニ一致セル旨閣下ニ通告
スルノ光榮ヲ有シ候

右祕密附屬協定第二條ニ記載セラルル「政治的條約」ハ
漁業條約及利權條約、大日本帝國、滿洲國及「ソヴィエ
ト」社會主義共和國聯邦間ニ於ケル國境問題ニ關スル條
約並ニ大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦
間ニ締結セラルベキ其ノ他ノ之ト同種ノ條約ヲ包含セズ
前記ノ見解ニ關スル獨逸國政府ノ同意ガ本使ニ確認セラル
ルヲ得バ幸甚ニ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十一年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共

獨逸國特命全權大使

ヨアヒム、フォン、リッペンントロップ閣下

(譯文)

附錄第二

以書翰啓上致候陳者共產「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定ニ關シ本日附貴翰ヲ以テ左ノ通御申越ノ趣敬承致候

以書翰啓上致候陳者本日共產「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定ニ署名スルニ當リ大日本帝國政府及獨逸國政府ハ左ノ點ニ關シ完全ニ一致セル旨閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

右祕密附屬協定第二條ニ記載セラルル「政治的條約」ハ漁業條約及利權條約、大日本帝國、滿洲國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ニ於ケル國境問題ニ關スル條約竝ニ大日本帝國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ニ締結セラルベキ其ノ他ノ之ト同種ノ條約ヲ包含セズ

本使ハ前記ノ見解ニ關スル獨逸國政府ノ同意ヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十六年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ

獨逸國特命全權大使

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共閣下

(譯文)

附錄第三

以書翰啓上致候陳者本日共產「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定ニ署名スルニ當リ獨逸國政府ハ獨逸國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ニ存スル千九百二十二年ノ「ラパロ」條約及千九百二十六年ノ中立條約ノ如キ政治的條約ノ條項ハ本協定ノ實施當時ノ事態ニ於テ客體ヲ缺如セザル限り本協定ノ精神及本協定ヨリ生ズル義務ニ牴觸セザルモノト認ムル旨閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十六年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ

獨逸國特命全權大使

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共閣下

附録第四

以書翰啓上致候陳者共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定ニ關シ本日附貴翰ヲ以テ左ノ通御申越ノ趣敬承致候

以書翰啓上致候陳者本日共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定ニ署名スルニ當リ獨逸國政府ハ獨逸國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ニ存スル千九百二十二年ノ「ラパロ」條約及千九百二十六年ノ中立條約ノ如キ政治的條約ノ條項ハ本協定ノ實施當時ノ事態ニ於テ客體ヲ缺如セザル限り本協定ノ精神及本協定ヨリ生ズル義務ニ牴觸セザルモノト認ムル旨閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ大日本帝國政府ガ右通告ヲ多大ノ満足ヲ以テ了承セル旨閣下ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十一年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共

獨逸國特命全權大使

ヨアヒム、フォン、リッペントロップ閣下

共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密

附屬協定及附録ノ祕密保持ニ關スル了解事項

兩締約國ハ共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定及附録第一乃至第四ヲ祕密ノモノト認ムルコトニ一致ス

祕密附屬協定ノ内容ヲ第三國ニ通告スルコトガ兩締約國ノ利益タリ得ベキ場合ニハ斯ル通告ハ相互ノ同意ニ基キテノミ爲サルルモノトス

昭和十一年十一月二十五日即チ千九百三十六年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ

大日本帝國特命全權大使

子爵 武者小路 公共

獨逸國特命全權大使

Joachim von Ribbentrop

(付記)

共產「インターナショナル」ニ對スル協定

ニ關スル外務省聲明

(十一月二十五日公表)

(一) 共產「インターナショナル」所謂「コミンテルン」ハ「モスコ」ニ本部ヲ構ヘ、其ノ創立以來世界革命ノ根本方針ノ下ニ各國ニ於ケル國家組織及社會組織ヲ破壊セシカ爲、各種ノ工作ヲ施シ世界平和ニ多大ノ脅威ヲ與ヘテ來タカ、昨年夏第七回世界大會ヲ開催シ「フアシズム」及帝國主義ニ對抗スル爲、第二「インターナショナル」等トノ統一戰線結成ニ邁進スルノ方針ヲ決議スルト共ニ、「コミンテルン」今後ノ活動ノ目標ハ日本、獨逸、波蘭等デアルコトヲ明ニシ、尙日本ト鬭爭スル爲支那共產軍ヲ援助スヘキ旨ヲ決議宣言シタ。

「コミンテルン」ノ實行方法ハ、右大會後著シク巧妙トナツタ爲其ノ危險性ハ益々増大シタ。而シテ「コミンテルン」カ如何ニ各國ノ内部關係ニ介入シ、現存國家ノ安寧及世界平和ニ對シ甚シキ害毒ヲ齎シタカハ、今次西班牙

牙ノ動亂ニ就テノミ之ヲ見ルモ其ノ深刻ナルニ驚カヌ者ハ無カラウ。又尠クトモ右「コミンテルン」大會ノ際「ソヴィエト」聯邦政府ニ抗議シタ國々ニ於テハ「コミンテルン」ノ活動ノ有害ニ付充分ナル認識ヲ有スル筈ナル。

(二) 赤化ノ侵犯ハ從來東洋方面就中支那ニ於テ特ニ著シク、外蒙古、新疆ノ如キハ既ニ其ノ慘禍ヲ嘗メ、支那本部ニ於テハ共產軍ノ甚シキ跋扈ヲ見ツツアリ、中國共產黨ヲ通シテ行ハルル「コミンテルン」ノ對支活動ハ前記第七回大會以後頓ニ活潑ヲ加ヘテ來タ。滿洲國ニ於テモ「コミンテルン」ハ中國共產黨滿洲省委員會ヲ指導シテ各地ノ細胞組織ノ扶植及匪賊ノ懷柔誘導ニ努メ、赤色「バルチザン」隊ヲ各地ニ出沒セシムル等其ノ暗躍甚シキモノカアル。我國ニ於テハ滿洲事變以後極左運動ハ一時衰微ノ兆カアツタカ「コミンテルン」大會後ハ其ノ決議ニ從ヒ合法場面ニ潛入シテ統一戰線運動ヲ展開シ、共產主義運動再興ノ素地ヲラシメントシ再ヒ該運動擡頭ノ勢カアル。

(三) 帝國政府トシテハ萬古不動ノ國體ヲ擁護シ、國家ノ安全

ヲ確保シ、進テ東亞永遠ノ平和ヲ維持スル爲、從來共共產主義的活動ニ對シテハ明確ナル方針ヲ堅持シテ來タ次第テアルカ、右ノ如キ「コミンテルン」ノ脅威ノ増大ニ鑑ミ、一層嚴重ナル防衛措置ヲ講スルノ必要ニ迫ラルルニ至ツタ。然ルニ「コミンテルン」ノ組織及活動ハ國際的テアルカラ、之ニ對抗スル爲ニハ國際的協力ニ俟ツコトカ肝要テアルカ、獨逸ニ於テハ昭和八年「ヒットラー」政權ノ成立以來峻烈ナル反共產主義的政策ヲ實行シ來ツタ、一方前述ノ如ク客年ノ「コミンテルン」大會ハ日本及獨逸等ヲ以テ今後ニ於ケル「コミンテルン」活動ノ主タル對象ト爲シテ居ルノテ、獨逸ハ對「コミンテルン」關係ニ於テ帝國ト著シク類似ノ立場ニ在ルノテアル。依テ帝國政府ニ於テハ「コミンテルン」ニ對スル防衛工作ノ第一歩トシテ、先ツ獨逸ト交渉ヲ重ネタ結果、遂ニ本日協定ノ調印ヲ了シ直ニ實施セラレタノテアル。

(四)本協定ハ「コミンテルン」ノ破壊工作ニ對スル共同防衛ヲ本旨トスルモノテ、締約國間ニ於ケル「コミンテルン」ノ活動ニ關スル情報ノ交換、防衛措置ニ關スル協議及實行並「コミンテルン」ノ脅威ヲ受クル第三國ニ對ス

ル共同勧誘ニ付規定シ、別ニ附屬議定書ニ於テ本協定ノ施行ニ必要ナル具體的方法ヲ定メテ居ル。

(五)帝國政府ニ於テハ今後「コミンテルン」ノ脅威ニ對スル防衛措置ノ完璧ヲ期シ成ルヘク多數ノ國家ト協力センコトヲ欲スル次第テアルカ、是レニ「コミンテルン」防衛ノ目的ニ出ツルモノニ他ナラスノテアツテ、本協定ニ關聯シ又ハ其ノ背後ニ何等ノ特殊協定ノナイコトハ勿論、右以外ノ目的ヲ以テ何等カ特殊ノ國際的「プロック」ヲ形成シ、又ハ之ニ參加セントスル意圖ヲ有スルモノテナイ。尙又本協定ハ「ソヴィエト」聯邦其ノ他如何ナル特定國ヲモ目的トスルモノテナイコトハ言フ迄モナイ。

2

昭和11年12月25日

在ベルギー來栖(三郎)大使より
有田(八郎)外務大臣宛(電報)

日独防共協定に対する欧州諸国の警戒心理について

ブリュッセル 12月25日発
本省 着

第一一七號

日獨協定ニ關シテハ蘇側ノ宣傳ハ別トシ當國等ニ於テモ本來アレタケノ事ニテ公表迄交渉進行ノ事實スラ嚴秘ニ附スル程ノ大袈裟ナル協定ヲナス筈ナシト見ル觀側^側及ヒ本協定ハ或ハ將來軍事同盟ニ發展スベキ段階ニアラスヤト爲ス觀測今以テ相當有識者間ニ行ハレ居ルヲ以テ東亞南洋等ニ廣キ領土ヲ有スル諸國及ヒ獨乙ノ壓力ヲ感シ居ル諸國ガ頗ル警戒心理ヲ強化セルハ想像ニ難カラズ伊太利ノ如キハ逸早く此機微ニ着眼シ十月末「チアノ」ノ伯林ヨリ歸來後直チニ日獨協議進行ヲ新聞ニ洩ラスト同時ニ伊モ亦參加スルカノ如ク宣傳セシメ對英地中海交渉ヲ自國ニ有利ニ促進スル爲巧ニ之ヲ利用シタルヤニ觀測セラレ獨乙モ亦對英工作及ヒ最近又復氣勢ヲ擧ケツツアル植民地獲得運動等ニ適宜右警戒心理ヲ利用シツツアルガ如キコトナキヲ保セズ蓋シ其邊ノ機微ナル關係ハ帝國政府トシテモ既ニ充分御承知ノ上各種工作ヲ進メラレツツアル次第ト拜察スルモ今回ノ協定ニ對スル我國民論力贊否何レモ徒ラニ民主々義諸國ノ誤解ヲ云々スルニ止マリ是等諸國從來ノ對日態度ニモ反省ノ余地アルヲ指摘スルモノ殆トナク一般ニ堂々タル氣魄ヲ缺キ居ルヤニ見受ケラルルハ出先トシテ甚心許ナキ次第ニシテ

或ハ一部諸國ヲシテ日本與シ易シノ感ヲ抱カシムルト共ニ獨乙ニ與フル印象モ亦面白カラサル結果トナリ我國ハ結局虻蜂取ラスニ陥ルナキヤヲ憂慮セサルヲ得サル次第ナリ勿論前述御工作上ノ必要限界ヲ越ヘテ徒ラニ各國ヲシテ行過キタル警戒心理ヲ抱カシメ置キ却而他國ヲシテ之ヲ利用セシムルガ如キハ我國ノ利益ト一致セサルヲ以テ累次御訓電ノ通り右警戒心理解消ニ努ムルノ要アルベキハ申迄モナキ所ナルモ我國ノ國內情勢及ビ武斷的對支對南洋政策力誇大ニ海外ニ傳ヘラレ居ル今日單ナル「コンミンテルン」ノ陰謀暴露祕密條項存在否定ノミニテ充分前記不安解消ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ聊カ疑ナキ能ハス然ルニ民主々義諸國中佛國ハ佛蘇協定ノ關係上日獨協定成立ニ當リテハ相當神經過敏トナリ一時ハ衝動的ニ在佛大使發往電第六三九號「レシェー」內話末段ノ如キ事態發生スベキモ本來眞ニ平和ヲ熱望スル佛國トシテハ次第第二判斷ノ冷靜ヲ回復スルニ至ラバ萬々一日蘇ノ衝突ガ延イテ獨蘇ニ波及スルガ如キ場合ニハ佛國ハ極メテ困難ナル立場ニ陥ルベキヲ豫想シ日蘇問題ノ將來ニ對シテハ相當關心ヲ抱クベシト推測セラルルヲ以テ我國トシテハ前記「レ」ノ內話ニ

モ鑑カミ適當ナル機會ニ日獨協定ノ成立ガ佛蘇協定ヲ以テ極東ニ無關係ナリトナス佛國屢次ノ言明ニ何等變化ヲ及ホスガ如キコトナシト承知シテ然ル可キヤヲ照會シ先方ノ希望ニヨリテハ例ヘバ我國ハ常ニ東亞ニ於ケル佛國ノ權益ヲ尊重スヘシ等ノ證言ヲ與ヘ協議ノ上適宜其經緯ヲ公表スルニ於テハ相當前述警戒心理ノ解消ニ資スルト共ニ或ハ延イテ對蘇局面打開ノ機縁トモナリ得可キヤニ思考ス右交渉ノ時期方法ニ關シテハ勿論慎重考慮ノ要アルヘキモ佐藤大使近々御歸朝ノ豫定ナルヤニ拜承シ居ルニツキ此際右卑見何分ノ御檢討ヲ得度シ

編 注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資

料」中の「来栖三郎関係文書」より採録。

~~~~~

3 昭和12年2月23日

在独国武者小路(公共)大使より  
林(銑十郎)外務大臣宛(電報)

独伊など全体主義国家の政治経済動向の特徴  
につき杉村駐伊大使と意見交換について

ベルリン 2月23日発  
本 省 3月16日着

郵第一號(極秘)

今次杉村大使來獨ヲ機ニ同大使ノ伊國ニ於ケル及本使ノ土國、獨逸ニ於ケル體驗トヲ基礎トシ所謂全體主義國ノ政治、經濟動向ニ付意見交換セルカ其ノ政治形式ニ對スル好キ嫌ヒハ別トシ左記諸點ハ是等諸國共通ノ現象トシテ今後歐洲政局判斷上重要ナルモノト認メラル

一、獨伊ニ於テハ爾餘諸國ノ如ク國內多數分子ノ異ナレル意見ノ出様ニ依リ中間的政策ノ生ルルコトナク常ニ國策ニ徹底味アルト同時ニ國策即チ人物ノ反映ナル結果トシテ國策中ニハ多分ニ一本調子ノ人間味ヲ露出シ居ルヲ常トス從テ之ヲ相手トスル外交交渉ニ當リテモ從來ノ自由主義國ニ對スルトハ全然別個ノ態度ヲ要ス即チ一度味方トシテノ意氣ヲ感セシムレハ一路目的ニ進ミ得ルニ反シ不徹底ナル態度ヲ執ルニ於テハ全然 dead lockニ逢着スルコトアリ右ハ日獨協定交渉當時ノ經緯ノ明カニ示ス所ナルト同時ニ今後ノ日伊交渉等ニ當リテモ特ニ留意ヲ要スヘシ

二、<sup>(2)</sup>

「ナチ」、「ファッシスト」政權ハ其ノ政權掌握當初コソ相當ノ無理乃至強力手段ニ出テタルモ右ヲ以テ彼等カ常ニ民衆ニ壓制ヲ加フルモノト爲シ惹イテハ右政權ノ基礎鞏固ヲ疑フカ如キハ當ヲ得ス「ヒ」、「ム」等ハ民衆ノ幸福、生活安定ヲ以テ立國ノ基礎トシ此ノ政綱ヲ徹底セシメ又現實ニ其ノ國ヲ破滅ノ域ヨリ救ヒタル絶大ノ功ニ依リ國民ノ感謝ト信賴トヲ一身ニ集メ居ルコトハ外部ノ想像以上ナルト共ニ貧民、失業救済其ノ他社會及教育事業ニ於ケル建設的活動目覺シキハ共通ノ現象ニシテ殊ニ政治當局者カ先ツ民心ノ動向ヲ事前ニ察シ次テ民衆ヲ率ユルノ態度ニ出テ以テ民心ヲ把握シツツアル點ハ兩國ノ將來ヲトスル上ニ重要ナル事實ナリ(曾テハ反對者アリシモ昨今ハ何レモ轉向セリ)

三、<sup>(3)</sup>伊獨兩國カ資源少ク經濟上不利ナル立場ニアルハ事實ナルモ國民ノ團結ト徹底セル政治ノ力トカ相當程度迄右困難ヲ克服シテ國力ヲ伸張セシメツツアルハ事實ニ徴シ動カスヘカラサル事實ニシテ執權當初ヨリ常ニ外部ノ悲觀論ヲ裏切り着々成功シ居ルコトハ兩國トモ同様ナリ所謂自由主義的財政家カ今度コソ行詰ルヘシト繰返し述ヘッ

ツアルニモ拘ラス何時モ巧ニ之ヲ切抜ケ次テ大ニ國力ヲ恢復シツツアリ從テ是等諸國ニ對スル同情トカ反感トカハ別トシテ右諸國擡頭ノ事實ハ之ヲ充分認識シテ歐洲政局ヲ判斷セサレハ非常ナル誤算ヲ生スヘシ

四、伊獨ニ於テハ新聞統制完全ニ行ハレ居ル結果トシテ重要外交交渉又ハ財政措置等ニ付機密保持ニ遺憾ナキヲ期シ得ル反面事前ノ觀測乃至想像ヲ基礎トスル報道ナク此ノ間ニ處シ英佛等ノ海外行電報カ伊獨兩國ノ政治經濟狀況ニ關スル限り虛報若ハ著シク事實ヲ枉ケタル報道ヲ爲スハ

日獨協定、日伊交渉又近クハ獨逸ノ「モロツコ」ニ對スル要求說等ノ電報ト其ノ後ニ現ハルル眞實ノ事態トヲ比較スレハ明カナル處一方伊獨ノ如ク半官通信以外ニ通信社存セサル國柄ニアリテハ一々之ニ有權の辯明ヲ加ヘ自ラ祕密ヲ洩ラスカ如キコトヲ避クル結果唯默殺ノ已ムヲ得サルニ至ルコト多ク結局海外ノ虛報ノ跳梁ニ委セルコトトナル實情ナルヲ以テ獨伊ニ關スル海外電報ニ接スルニ當ツテハ情報ノ大部分ハ惻巧ナル新聞記者ノ想像說トシテ充分濾過シテ判斷スルヲ要ス此ノ點ニ付我國新聞雜

誌力は等無價值ナル報道ヲ傳播シ一般ヲシテ歐洲政局ノ判斷ヲ誤ラシメ又在京獨伊大使等ヨリ本國ニ再報セラレ國交上面白カラサル結果ヲ來セルコト一再ニ止ラス此ノ件特ニ警戒ト指導トヲ加ヘラレンコトヲ希望ス

伊ヘ暗送セリ

4 昭和12年3月10日

在独国武者小路大使より  
佐藤尚武(外務大臣宛(電報))

イタリアの防共協定参加をめぐる独伊交渉の状況につきリッベントロップ大使説明について

ベルリン 3月10日発

本省 3月11日着

特第二號(館長符號扱)

在伊大使宛往電第一號ニ關シ

七日「リッペン」大使ト會見ノ際「リ」ハ防共協定ニ伊太利引込ノ爲獨逸側トシテハ伊皇帝ノ姪ノ婿ニ當ル「ヘッセン」公ヲ通シテ更ニ最近「ラウマー」ヲ「ヘッセン」ノ許ニ派シ且「チアノ」トモ會見セシメタリ是等結果ヲ綜合スルニ伊トシテモ防共協定參加ニ異存ナキカ如ク唯之カ實現

ノ時機及方法ニ付充分考慮ヲ要ストナシ居ルモノト認メラルル處他方獨伊間ニハ之ト併行シテ尙清算ヲ要スル問題多々存シ之ヲ無視シテ本問題ノミヲ推進ムルコトモ出來兼ヌル等ノ事情モアリ獨トシテハ極メテ機微ナルモノアルノミナラス前述ノ如ク目下折角努力中ノコトニモアリ旁此ノ際右一筋道ニテ推進メ度ク其ノ成行ハ遲滞ナク本使又ハ杉村大使ヘ報告スヘキ旨申出アリ本使ハ「チアノ」ト杉村大使トノ今後會見ニ於テ本問題ニ觸ルルコトアラハ杉村大使ニ於テ何等カノ形式ニ於テ之カ促進ニ努力スルコト當然ニシテ之ヲ冷カニ受流スコトハ日獨ノ爲不利ナリト應酬セルニ「リ」ハ今暫ク右「ヘッセン」、「ラウマー」、「チアノ」ノ道ヲ進メ度キ旨頻リニ懇願シ居タリ尙「チアノ」ハ「ラウマー」ニ確カナル筋ヨリ聞ク所ニ依レハ日獨協定ニハ密約附屬シ居ル由ナルカ如何ト問ヘルニ付全然存セサル旨答ヘタル由ナリ

伊ヘ轉電セリ

5 昭和12年4月(8)日

在独国武者小路大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

独ノ接近説を独国政府当局否定について

ベルリン 発

本 省 4月8日前着

特情伯林第七號

最近英佛諸新聞ニハ獨蘇兩國接近説カ頻リニ傳ヘラレテ居ルカ獨逸政府當局ハ右報道ヲ全的ニ否定七日左ノ如キ見解ヲ表明シテ

今回ノ獨蘇接近説ハ明カニ蘇聯當局ノ策動テアル蘇聯當局ハ獨蘇接近ヲ捏造シテ英佛新聞ヲ躍ラセタ上日本ニ反響ヲ起シ總選舉ニ當面スル日本ノ輿論ヲ攪亂延イテ日獨兩國政府ノ離間ヲ企圖シテ居ルノタ英佛新聞ノ一部カスル手品ニマンマト乗シラレルナト彼等ノ無定見ト非常識ハ笑フヘキテアル



6 昭和12年4月9日

在独国武者小路大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

ソ連の日独離間工作に対し注意方意見具申

ベルリン 4月9日後発

本 省 4月10日前着

第一〇四號

六日來英佛ノ新聞ハ獨ハ最近對蘇政策ヲ再吟味セントシツツアリトカ或ハ Rüdendorf ト Hitler トノ和解ノ事實乃至蘇聯外交委員ニ Potemkin 任命ノ事實ハ蘇獨接近ノ前兆ナリトカ眞シヤカニ傳ヘ居リ他方六日ノ瑞西 Basel Nachrichten 紙ハ佐藤外相ハ佛國離任前記者團ト會見ニ於テ日獨協定反對ノ意見ヲ發表シタリ云々ト掲載シ居ル處斯ノ如ク時ヲ同ウシテ同種ノ宣傳ノ行ハレツツアルハ主トシテ蘇聯ノ日獨離間工作ニ外ナラス我方トシテ充分注意ヲ要スヘシ

右ニ付七日海軍長官「レーダー」ハ本使ニ「ヒ」總統ノ反蘇態度カ確固不動ナルハ御承知ノ通りニテ獨逸軍部モ亦絶對ニ之ヲ支持シ居ル次第ナルカ又モヤスル離間の宣傳ノ行ハルハ實ニ苦々シト繰返シ説明セリ(尙獨逸側ハ六日 DNBヲシテ右風説否認<sup>トモ</sup>ノ取消ヲ發表セリ)

要スルニ日獨共其ノ對蘇態度ニ變改アリ得ヘカラサルハ勿論ナルカ本使カ協定成立當初ヨリ懸念シ居タル蘇側ノ離間策カ今日ニ至リ突如始マリタルハ蘇側ニ於テ我方選舉ヲ利用シ此ノ機ニ我國內不統一ヲ増シ協定ノ效力減殺ヲ計リ居

ルモノナルコト明カニシテ重光大使モ全然同シ觀測ナリ此ノ際我方トシテハ充分此ノ點ニ留意シ國論ノ啓發及統一ニ努ムルコト緊要ト存ス  
英、露、佛、伊ニ暗送セリ

7 昭和12年4月19日

在独国武者小路大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

### 独ソ接近説に対し独側反駁について

ベルリン 4月19日前発

本省 4月19日後着

第一一七號

最近外國新聞ニ獨、蘇接近説喧傳セラレタルモ獨側ハ之ヲ一笑ニ附シ來レルハ往電第一〇四號ノ通りナル處十七日外務省情報部長 Aschmann ハ本使ニ對シ前記風説ノ裏ニハ勿論莫斯科ノ策謀アルモ右ニ應シ佛國外務省情報部長モ「コメール」等ノ動キモアルト推セラルル節アルニ付獨側モ愈右ニ對シ暴露戰術ニ出テ相手ノ鼻ヲ明カスヘシト述ヘ又「リツベントロップ」事務所「ラウマー」部長モ同様語リタルカ尙同人ハ日本議會最近ノ議論及獨逸ノ原料難等ヨ

リ蘇側ニテハ此ノ際此ノ種宣傳ニ依リ兩國間ニ水ヲ注シ離間セントスルモノナリト述ヘ居レリ斯克テ十七日D・N・Bハ記者會議ニ於テ愈反對宣傳ヲ開始スルコトナリ十八日朝各紙一齊ニ大見出ヲ以テ論説ヲ掲ケタリ其ノ大要ハ同盟ニ依リ電報濟ナルカ要スルニ今次獨、蘇接近説ハ關係國對獨逸關係ノ離間中傷ヲ目的トスルモノナルコトヲ高調シ是等風説ノ目的ハ蘇側トシテハ(一)最近猶太系ノ舊「ゲ・ペ・ウ」隊長「ヤゴダ」ノ罷免(二)非反獨のナル在佛「ポテムキン」蘇大使ノ本國轉勤等ニ依リ獨ニ接近ヲ計リ又獨側ニ於テハ(一)最近「ヒ」總統及「ルーデンドルフ」將軍融和ノ結果獨蘇ノ軍部間接近ヲ策シ(二)國內重工業家ノ對蘇貿易増進ノ必要ニ基ク兩國ノ接近説有力トナリ(三)「シヤハト」藏相力數日前武府訪問ニ際シ外國記者トノ會談中蘇聯ヲ含ム國際經濟會議參加ノ用意アリト述ヘタル等ノ事實竝ニ風説ヲ捉ヘ獨蘇接近説ノ根據ト爲スカ如キモ何レモ見ヘ透キタル策謀ニテ一顧ノ價值ナシ獨ノ對蘇態度ハ客年「ニユーリンブルグ」黨大會及去ル一月三十日議會ニ於ケル「ヒ」總統演説中ニ直截簡明ニ聲明セラレ右ハ現政府不變ノ政策ニシテ獨ハ蘇聯ニ對スル如何ナル救援義務ヲ負ハサルト共

ニ又蘇ヨリ何等救援ヲ求ムルモノニアラスト言フニアリ  
尙往電第一一五號所報在獨「スーリツチ」蘇大使ハ過日巴  
里赴任ニ際シ親シク本使ヲ來訪君府以來ノ友人トシテ卒直  
ニ日蘇提携ノ必要ニシテ今日尙遲キニ非ス又獨蘇接近ハ漸  
ク有望トナリタルカ佛トシテモ蘇聯カ集團平和機構ヲ固持  
スル限り異存ナキ筈ナリト述ヘ本使ノ所見ヲ求メタルカ本  
使ハ右ハ日獨離間ノ底意アルモノト認メタルニ付今日所見  
ヲ披瀝スルノ境遇ニアラサルモ蘇側ニ於テ世界共產主義ト  
政府ト混同スル限り右ハ望ナシト述ヘ來レルカ彼此思合ハ  
セ益々往電第一〇四號ノ所信ヲ深ウス

8 昭和12年5月25日

在伊国杉村(陽太郎)大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

### 日伊間の防共協定締結は時期尚早である旨意

#### 見具申

ローマ 5月25日発

本省 5月26日着

第八五號(極秘、館長符號扱)

一、客年十二月拙電第一九四號ニ對シ貴電第一〇九號ノ御回

電ニ接シ當時御來訓ノ御趣旨ヲ伊外相ニ傳ヘタルニ「チ  
アノ」ハ日獨協定第二條ヲ指摘シテ日本ノ態度ヲ訝リタ  
ルニ依リ本使ハ此ノ際日伊間ニ防共協定ヲ結フ差迫レル  
必要ナシ日伊ノ親善關係ニ顧ミテ協定ナクトモ必要ナル  
協力ハ可能ニシテ又必要アラハ何時ニテモ協定ヲ結ビ得  
ヘシ差當リ日伊間ニ文化ノ交換事業ヲ完成シ次テ經濟協  
定ヲ結ヒタル後政治協定ニ進ムヲ順序トセント應酬シ有  
メ置キタリ爾後伊外相ハ本使ニ對シ間歇的ニ本問題ニ觸  
ルルコトアリシモ本使ハ在獨大使發貴大臣宛電報第五  
號及第六三號ノ見解ノ下ニ然ルヘク應酬シテ深入リスル  
ヲ避ケ來レリ

二、然ルニ五月十三日「チアノ」ハ議會ニ於テ防共ニ關シ日  
伊ハ共通ノ立場ニアル旨ヲ演說シ同夜外相主催本使送別  
宴ニ於テモ同趣旨ノ挨拶ヲ爲シ且宴後本使ニ對シ實ハ客  
冬以來貴大使ヲ信賴シテ防共協定締結ノ申入ヲ差控ヘ來  
レルカ貴大使ノ轉任ヲ見タル今日離任ニ先立ち文書文  
書ノ形式ニ付言及セスヲ以テ此ノ點ヲ明カニシ置キ度  
シ今日日伊間ニ文化交流ノ事業ハ圓滑ニ進行シ通商協定  
モ締結ノ瀬戸際ニ達セリ今ヤ政治協定ノ段取トナレルニ



アラスヤト言ヘルニ付本使ハ即答ヲ避ケ一考シ度キ旨ヲ告ケ會談ヲ打切りタリ

三、惟フニ防共ノ中心ハ日獨協定ニシテ日伊ノ協力ハ補足的ノモノナリ日伊協力ノ效果ヲ案スルニ我ヨリ見レハ伊ノ蘇聯邦ニ對スル武器ノ供給ヲ止メシムル等主トシテ對蘇工作ニ其ノ重點ヲ認ムヘク伊トシテハ蘇聯邦ニ對スル外或ハ對英關係ヲモ念頭ニ入レ居ルニアラスヤトモ觀取セラル假ニ伊ニ於テ對英政策ニ防共協定ヲ利用スルノ魂膽ナシトスルモ日獨協定ト同シク日伊ノ接近ハ多少トモ英ヲ刺戟スル副作用ナキヲ保シ難キ處問題ハ此ノ副作用ヲ最小限度ニ止メテ我方目的ヲ達成スル方策ヲ見出スニアリト思考ス

四、目下日英ノ間ニハ彼我ノ利害調節ニ付交渉中ナルヤニ聞ク日伊接近ヲ以テ日英交渉ノ障礙タラシムヘカラサルハ言ヲ俟タサル處又伊カ「ムツソリニー」出現以來稍信頼シ得ルニ至リ殊ニ防共問題ニ付相當明確ニ反對的態度ヲ持スルコトハ明カナルモ其ノ態度時ニ豹變スル惧アル點ニ想到スレハ日伊間ニ此ノ際嚴密ナル約定ヲ結フコトハ本使ニ於テ躊躇スル所ナリ本使ハ對伊工作ハ動キノ取レ

サル約定ノ形式ニテ爲スヨリモ成ルヘク伸縮性ヲ帶ハシメ主トシテ平素ニ於ケル外交工作換言スレハ在伊大使ト伊首相及外相トノ接觸ニ依リ時宜ニ應シ兩國ノ利害一致スル場合協力スルヲ可トス

之カ爲ニハ新大使ノ赴任ニ際シ閣下ヨリ伊外相ニ宛テ日伊ノ國交力親善ヲ加ヘタルヲ賀シ防共問題ニ付同一立場ニアルコトヲ指摘セラレ若シ出來得レハ右ニ加フルニ將來必要ニ應シ防共ニ協力スルノ希望又ハ意思アルコトヲ示サレタル書翰(茲ニ協力トハ單ニ主義上協力セントノ義ニシテ警察的又ハ軍事的協力等具體的ノモノヲ指スニアラス實體的協力ノ商議ヲ爲ス場合ニハ伊ト聯盟、蘇聯邦、獨、英、佛トノ政治的關係ニ付相當突込ミタル具體的説明ヲ徵スルノ要アリ)ヲ携行セシメラレ新大使ヲシテ之ヲ切懸ニ本使カ爲セルト同様伊外相ト折衝スルカ程良キ所ナルヤニ思考ス

之ヲ要スルニ本使ハ此ノ際日伊間ニ防共問題ニ關シ協定又ハ聲明ヲ爲スコトハ未タ其ノ時機ニアラスト信スルモ他方伊側ノ態度前述ノ如クナルニ本使ニ於テ相當ノ挨拶ナクシテ離任スルトキハ或ハ伊ノ失望ト誤解トヲ買ヒ例ヘハ伊空



軍力近來我ニ對シ示シツツアル特別ノ好意ノ如キヲ維持スルコト至難カト察セラルルノミナラス他日我ニ於テ伊ノ協力ヲ求ムルノ必要生シタル場合之ヲ求メ得サルカ如キ事態ニ導クコトアルヲ惧ル

前陳ノ卑見ハ現下諸般ノ情勢ヲ觀考シ深入リセサルト同時ニ伊ヲ我友邦トシテ保持シ行クニ付此ノ際差當リノ方策トシテ上申セルモノ右ニ對シ大體ノ御考ナリトモ御回示ニ接シ得ハ幸ナリ

編 注 『日本外交文書』 昭和期Ⅱ第二部第五卷第257文書。

9 昭和12年6月11日 在独国武者小路大使より  
広田(弘毅)外務大臣宛(電報)

日独兩國の對ソ關係は不變であるとのヒト

ラー總統の發言について

ベルリン 6月11日後發

本省 6月12日前着

第一八八號(極秘)

九日「ラウマー」ト會談ノ際同人ノ内話ニ依レハ「ヒ」總

統ハ「リ」大使ニ對シ大要左ノ如キ意見ヲ述ヘタル由

(一)日獨兩國ノ蘇聯ニ對スル關係ハ恰モ地球カ太陽ノ周圍ヲ運行スルカ如ク全ク天然ノ法則ニ依ルモノト言フヘク永ク聊ノ搖アル筈ナシト確信ス

(此ノ點ニ關シ「ラ」ハ「リ」大使ヨリ本使ヘノ傳言トシテ同大使トシテハ最近日英間ニ行ハレツツアル交渉ハ日獨兩國ノ對蘇關係ニ役立ツモノニシテ苟モ之ト扞格スルカ如キ性質ノモノニアラサルコトヲ確信スト述フ)

(二)對英關係ニ關シテハ獨伊兩國トシテハ英ト反對ノ立場ヲ持スルコトハ策ノ得タルモノニアラス獨ノ對外政策ハ何處迄モ東方ヲ目標トシ之ニ重點ヲ置クヘク從テ西方就中英ニ對シテハ此ノ際成ルヘク融和的關係ヲ招致スルノ要アリ

(三)尤モ對蘇關係ニ付テハ獨伊兩國共徒ニ聲ヲ大ニシテ事態ヲ緊張セシムル必要ナキハ勿論ナルカ絶エス蘇ニ重壓ヲ感セシメツツ徐々ニ其ノ方策ヲ實現スルニ努ムルヲ可トス

(四)當面ノ問題トシテ重要ナルハ對波蘭工作ニシテ獨トシテハ何トカシテ對波關係ヲ有利ニ導クノ要アリ

(此ノ點ニ關聯シ「ラ」ハ「リ」大使ハ對波工作ニ關シ  
日獨共同シテ何トカ有利ニ展開セシムルノ方法ナキヤト  
ノ意見ヲ有シ居ル旨述フ)

10

昭和12年9月8日

在仏国杉村大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日伊協定の調印間近との報道について

パリ 9月8日發

本省 9月9日着

第五一四號

八日「ウーブル」ノ「タブイ」カ日伊交渉トシテ論スル所  
左ノ通り何等御參考迄  
昨夜ノ羅馬情報ニ依レハ(i)數箇月來、日伊間ニ交渉中ナリ  
シ日伊協定ハ愈近ク調印ノ運ヒニ到ルヘク(ii)右ハ日獨協定  
ニ則リ反共產主義鬭爭、外交政策中一定事項ニ付事前ニ協  
議スルノ義務及軍事方面ニ於ケル技術的協力(尙之ハ論說  
外ナルモ此ノ點ニ關シ當地操觚界ニテハ伊國ハ對支飛行機  
輸出ヲ止メ日本ニ對シ一千臺供給方先ツ契約セラレタリト  
ノ風評アリ)ヲ規定スルモノナルカ(iii)日支事變勃發及夫レ

ニ對シ獨逸ノ曖昧冷淡ナル態度等ニ依リ日本ハ頻リニ急速  
締結方催促シ伊國亦國際情勢ニ押サレテ右様協定ノ一日モ  
早キ適用ヲ熱望セルモノノ如ク斯クテ日獨伊ノ提携益固ク  
(ii)「ヒットラー」カ「ニユーレンベルグ」大會ニ於テ獨伊  
ノ聲明ハ何レノ地ナルヲ問ハス共產主義脅威ニ對シ文明ヲ  
擁護スルニアリト揚言セシハ吾人ノ憂慮措ク能ハサル所ナ  
リ

在歐各大使、壽府ニ郵送ス

11 昭和12年9月30日

在独国武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

イタリアが滿州国承認交渉を開始との情報に  
対し真相回示方請訓

ベルリン 9月30日後發

本省 10月1日前着

第四〇六號(部外極秘、館長符號扱)

大島武官宛參謀本部總務部長電報ニ依レハ在滿伊國總領事  
ハ本國政府ノ訓令ニ基キ滿洲國政府トノ間ニ伊國ノ滿洲國  
承認及滿洲國ノ「エチオピア」承認ヲ中心トスル政治經濟

協定ニ關スル商議ヲ開始シ居ル趣ナル處右商議ニ於テハ伊國側ヨリ獨逸ノ滿洲國承認ヲ促進スル件モアル由ニモアリ右真相當方ヘモ御回電請フ

~~~~~

12 昭和12年10月18日

在伊國堀田(正昭)大使より
広田外務大臣宛(電報)

イタリアの好意的な対日態度に鑑み同国の防
共協定参加問題に関する対処方針を至急示
方請訓

付記 昭和十二年九月二十二日、陸軍省軍務局軍務

課作成

「日伊協定ニ關スル意見」

ローマ 10月18日発

本省 10月19日着

第二一七號(至急、極秘、館長符號扱)

貴電第一八四號ニ關シ

伊國政府ニ於テ徹底的ニ我國ニ對シ好意ヲ示ス態度ヲ執リ居ル此ノ際本件ニ關スル我方回答ヲ此ノ上遲延セシムルコトハ伊國側ニ疑心ヲ抱カシメ將來ニ面白カラサル影響ヲ殘

ス惧アリ又最近支那特使(蔣方震)羅馬ニ到着「ステファ
ニ」同道ニテ首相、外相、法王等ヲ歴訪シ政治的工作ヲ爲
サントスルト共ニ武器買入ニ付テモ奔走スルヤノ情報アリ
對支武器賣込ヲ抑制セラレ不滿ノ色アリト傳ヘラルル當國
實業界カ此ノ機會ニ支那側ト聯繫シテ何等運動ヲ爲スヤモ
保シ難キ情勢ナルニ付テハ此ノ際日獨協定參加ノ形式ヲ採
用スヘキヤ否ヤノ問題ハ獨逸トノ話合纏マル迄未決定ノ儘
ニ留保シ單純ナル防共協定ノミニ限ル點ニ付テ取急キ「チ
アノ」外相ニ申入ルルコトト致度ク右何分ノ儀至急御回訓
ヲ仰ク

獨ヘ轉電セリ

(付記)

日伊協定ニ關スル意見

(欄外記入)

昭和一二、九、一二
陸軍省軍務課

一、判決

帝國現下ノ情勢ト伊國ノ對日態度トニ鑑ミ急速ニ日伊提携
ノ爲ノ協定ヲ締結スルヲ要ス

二、要 領

一、協定締結ノ必要及反響

堀田大使ノ意見ニ全然同意ニシテ此際ハ不利ナル反響ヲ輕減スルノ處置ヲ講シツ、協定締結ニ邁進スルノ一途アルノミ

二、協定ノ種類

協定ノ種類ハ堀田大使ノ報告ノ如ク單ニ防共協定ノミノ締結ハ既ニ堀田大使ノ意見ノ如ク問題トナラス從テ左ノ二案トナル

(イ) 防共、中立

(イ) 案ハ中立ヲ守ルヘキ義務ヲ負フヘキモノナルヲ以テ他國ニ對スル反響刺戟ハ少ナル一利アルモ協定ノ魅力著シク減殺スルノミナラス伊國トシテモ十分満足セサルヘシ故ニ好シテ當方ヨリ提案スヘキモノナリト思考セラレス

(ロ) 防共、中立並協議

(ロ) 案ハ協定一方ノ締結國ト他國トノ戰爭ノ場合相手國カ兩國ト關係少キ國ナル時ハ他ノ一方ノ締結國ハ中立ヲ守リ、兩國ト關係深キ國ナル時ハ協議ノ上其態度ヲ

決定スルモノニシテ、問題ハ英、「ソ」兩國ナルヘシ、而シテ(ロ)案ハ歐洲ノ爭亂ニ捲込マル、虞アリトスル説ナキニ非サルモ義務的ノモノニ非サルヲ以テ其憂ナキノミナラス其時ノ情勢ニ依リ帝國ノ去就ヲ決定シ得ルノ融通性アリ伊國亦此案ヲ希望シアルヲ以テ最モ容易ニ協定締結ノ運ヒニ至ルヘシ

三、本協定ヲ秘密ニスヘキヤ否ヤニ關シテハ種々ノ利害アルヘシト雖、假令秘密ニスルモ必ラスヤ露ハル、ヘク而モ種々臆測附會セラル、ノ不利アルヲ以テ却テ明瞭ニ之ヲ公表シテ疑惑ナカラシムルコト却テ有利ナリト思考シアリ

(欄外記入)

九月二十四日受

13 昭和12年11月6日 調印

イタリアの日独防共協定参加に関する議定書

付記一 昭和十二年十一月六日

右議定書締結に関する外務当局談

二 昭和十二年十一月十九日、欧亜局第二課作成

満州国の防共協定参加問題に関する応答要領

議 定 書

大日本帝國政府

伊太利國政府及

獨逸國政府ハ

共產「インターナショナル」ガ絶エズ東西兩洋ニ於ケル文明世界ヲ危險ニ陷レ、其ノ平和及秩序ヲ攪亂シ且破壊シツツアルニ鑑ミ

平和及秩序ノ維持ヲ念トスル一切ノ國家間ニ於ケル密接ナル協力ノミガ右危險ヲ減殺シ且除去シ得ルコトヲ確信シ

「ファシスト」政治ノ創始以來不撓ノ決意ヲ以テ右危險ト闘ヒ共產「インターナショナル」ヲ其ノ領土ヨリ驅逐シタル伊太利國ハ共產「インターナショナル」ニ對シ同様ノ防衛ノ意思ヲ堅持スル日本國及獨逸國ト共ニ右共同ノ敵ニ當ルコトニ決シタルニ鑑ミ

千九百三十六年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ日本國及獨逸國間ニ締結セラレタル共產「インターナショナル」

ニ對スル協定第二條ノ規定ニ從ヒ左ノ通協定セリ

第一條

伊太利國ハ千九百三十六年十一月二十五日日本國及獨逸國間ニ締結セラレタル共產「インターナショナル」ニ對スル協定及附屬議定書ニ參加ス右協定及附屬議定書ノ本文ハ本議定書ノ附錄^{電送}トシテ添附セラル

第二條

本議定書ノ三署名國ハ伊太利國ガ前條ニ掲ゲラルル協定及附屬議定書ノ原署名國ト看做サルコトニ同意ス本議定書ノ署名ハ右協定及附屬議定書ノ原本ノ署名ニ相當スルモノトス

第三條

本議定書ハ前記協定及附屬議定書ト一體ヲ爲スモノトス

第四條

本議定書ハ日本語、伊太利語及獨逸語ヲ以テ作成セラレ其ノ各本文ヲ以テ正文トス本議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラレベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十二年十一月六日即チ千九百三十七年、「ファシスト」
曆十六年十一月六日「ローマ」ニ於テ本書三通ヲ作成ス

堀田 正昭 (印)

Ciano (印)

Jochim von Ribbentrop (印)

編 注 省略。本書第1文書「共產「インターナショナル」ニ

對スル協定」および同「附屬議定書」と同文。

(付記一)

日本國、獨逸國及伊太利國間議定書締結ニ關スル

外務當局談

(昭和十二年十一月六日)

本十一月六日午前十一時(日本時間午后七時)羅馬ニ於テ日
獨伊三國全權ノ間ニ伊國ノ日獨防共協定參加ニ關スル議定
書ヲ調印セラレ直ニ發效スルコトナツタ。

客年十一月二十五日伯林ニ於テ日獨間ニ締結セラレタル共
産「インターナショナル」ニ對スル協定第二條ハ日獨兩國
カ共同シテ第三國ノ參加ヲ勸誘スヘキ事ヲ規定シテ居ルノ

テアツテ今回右規定ニ基キ共產「インターナショナル」即
チ所謂「コミンテルン」ノ破壊工作ニ對シ日獨同様斷乎タ
ル決意ヲ有スル伊國ノ參加ヲ見ルニ至ツタノテアル。

近ク日獨防共協定締結一周年ヲ迎ヘントスルニ當リ同協定
ノ意義及效果ハ各方面ニ於テ益々痛感セラレテ居ル西ニ於
テハ一ケ年餘ニ亘ル西班牙ノ内亂、東ニ在リテハ東亞ノ安
定ヲ亂ス其共產黨及抗日人民戰線ノ暗躍ノ何レモカ「コミ
ンテルン」ノ策動ニ外ナラサル實證ヲ眼ノ當リニ見ル今日、
日獨ニ依リ結成セラレタル防共ノ戰線カ「ムソリニ」首相
ノ政治下ニ近年目覺シキ躍進振ヲ示シツツアル伊太利ノ參
加ニ依テ一層強化サルルニ至ツタコトハ眞ニ心強イコトテ
アツテ世界ノ平和及文化ノ擁護ノ爲ニモ衷心ヨリ慶賀スヘ
キコトト云ハネハナラナイ。

尙本議定書ノ成立ニ依テ日獨伊三國間ニ現存スル親善關係
ハ益増進セラルコト思ハレルカ右帝國政府カ從來執
リ來ツタ一貫セル反共政策ノ具現ニ外ナラナイノテアツテ
苟モ反共產主義ノ點ニ於テ一致スル限リ總ユル諸國ノ本取
極參加ヲ希望スル點ニ今後モ何等渝リナイノテアル。

(付記二)

一二、一一、一九 歐二

滿洲國ノ日獨伊防共協定參加問題ニ關シ

新聞記者ニ對スル應酬振ニ關スル件

本件ニ關シテハ左記要領ニ依リ應酬スルコトト致シタシ
滿洲國ハ我國ト共ニ東亞ヲ赤化ノ禍害ヨリ保全スルヲ以
テ立國ノ一大精神トスルモノニシテ現ニ兩國關係當局間
ニ於テハ共產運動取締ニ付相互ニ緊密ナル協力ヲ持シツ
ツアル次第ナルヲ以テ日滿兩國間ニハ日獨防共協定成立
前ヨリ事實上ノ防共協定ヲ存セリト云フヲ妨ケス、加之
日滿兩國ノ異體同心タル關係ヨリスレハ滿洲國ハ帝國ヲ
通シ間接ニ防共協定ニ參加シ居ルモノトモ見做シ得サル
ニ非ス從テ目下ノ事態ニ於テハ殊更滿洲國ヲ本協定ニ參
加セシムルノ形式ヲ採ルノ必要ハナカルヘシ

14 昭和12年11月12日

堀内(謙介)外務次官
在本邦アウリツチ伊國大使 會談

日独伊防共協定に対するソ連の対伊抗議について

「ソ」側ノ對伊抗議ニ關シ在京伊太利大使次官

來訪ノ件

在京伊太利大使十一月十二日堀内次官ヲ來訪ノ上左ノ通述
ヘタリ

『伊太利國ノ日獨防共協定參加ニ關スル議定書ノ發表ア
リタル後在伊「ソ」大使ハ「チアノ」外相ニ面會シ今次
ノ取極ハ伊「ソ」間友好不侵略條約ニ違反スルモノニシ
テ「ソ」ニ對スル伊側ノ非友誼的措置ト認ムル旨ヲ述ヘ
タル上右以外ニ何等申述フヘキコト無シト云ヘルニ付
「チアノ」外相ハ御申出ノ次第ハ早速「ムツソリニ」ニ
傳フヘク之以上自分トシテモ何等云フヘキコトナシト應
酬シ置キタル趣ナリ

尙先日「チアノ」外相伯國大使ト會談ノ際日獨伊防共
「バクト」ニ言及シタル處同外相ハ伯國ニ於テ同「バク
ト」ニ參加スルノ可能性アルヤノ印象ヲ得タル趣ナリ」
云云、

(在紐育若杉總領事發特情第二四六號ニ依レハ十一月十二
日ノ紐育「タイムス」ハ伯國外務省カ日獨伊防共協定ニ直
ニ參加スル意嚮ナキ旨言明シタリト報シ居ル由ナリ)

15

昭和12年11月15日

在独国武者小路大使より
広田外務大臣宛(電報)

ドイツ外交の基本は独伊樞軸と日独伊防共協
定にありとのヒトラー側近の論説について

ベルリン

発

本省 11月15日前着

特情伯林第七二號

「ハリファックス」卿ノ獨逸訪問ヲ目前ニ控ヘ各國新聞ハ
早クモ種々ノ臆測ヲ逞シウシ獨逸外交政策ノ轉換サヘ報道
サレテ居ルカ「ナチス」黨通信ハ十四日「ヒットラー」側
近者ノ筆ニナル「不適當ナ方法」ト題スル論説ヲ掲ケ「ナ
チス」外交ノ基本トシテ獨伊樞軸ト日獨伊防共協定ノ不變
不動ナル旨ヲ力説大要次ノ通り述ヘテ居ル

「ハリファックス」卿ハ獨逸訪問ノ上「ヒットラー」總統
以下黨國ノ首腦ト腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂ケルデアラウカ
英國初メ諸外國各紙カ事前ニ各種ノ臆測ヲ廻ラスコトハ不
穩當ト言ハネハナラスル臆測ハ一トシテ事實ト合致スル
モノナク全ク滑稽ト評スル外ハナイ

一、第一ニ獨逸政府カ日伊兩國政府ト結ンタ政治的親善關係

カ論議ノ中心ニナラウト言フ如キ觀測ハ全ク獨逸政府ノ
外交方針ニ盲目ナルモノテ伯林、羅馬樞軸竝ニ防共協定
コソ獨逸外交ノ基調テアルコトヲ知ラネハナラス

一、次ニ諸列強ノ關心事テアツテモ獨逸ノ關知シナイ事件ニ
付獨逸政府カ進ンテ盟邦ニ勸懸ケ仲介ノ勞ヲ執ルトノ想
像モ全ク事實ニ反スル

一、獨逸政府カ英佛獨伊四國會議ノ開催ヲ希望シテ居ルカ如
キ觀測モ誤ツテ居ル政府ハ現在開會中ノ國際會議失敗ヲ
新規ノ會議ヲ糊塗セントスル斯ル奸策ニ與シナイ

一、植民地問題ハ從來「ヒットラー」總理カ繰返シ世界ニ關
明シタ通りテ今更附加スヘキ點ヲ持タナイ植民地問題ノ
「十年間休戰案」等痴人ノ囁言ニ過キヌ

一、中歐問題ニ付テハ獨逸政府ハ調停ニ依リ解決スル自信ヲ
有スル從テ何等第三國ノ援助ヲ必要トシナイ

斯ク觀シ來レハ英國各紙カ非常識ナ憶説ヲ播布シテ居ル現
在「ハリファックス」卿ノ獨逸訪問カ果シテ時宜ニ適スル
ヤ否ヤ疑問トセサルヲ得ナイ寧ロ少クトモ新聞界カ冷靜ニ
歸スル迄一時訪獨ヲ延期スルノカ妥當テハナカラウカ敢テ
英國ノ朝野ニ借問スル所以テアル

16 昭和12年11月24日

在伊国堀田大使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国承認をめぐる独伊関係の機微につき

アノ伊国外相内話について

ローマ 11月24日後発

本省 11月25日前着

第三三五號(極秘、館長符號扱)

二十四日外相主催大倉男歡迎會ノ際「チ」ハ本使ニ對シ「ム」ハ滿洲國承認ニ異議ナク唯獨逸ト打合ノ要アリトシ在獨伊大使ヲシテ獨外務省側ノ意見ヲ叩カシメタルニ極メテ内密ニ申上クル次第ナルカ獨側ハ其ノ滿洲國承認ニ對シ代償ヲ求ムル意嚮ナル由ニテ右決定迄伊トシテハ本件承認ニ關スル最後の決定ヲ差控ヘ日本ニ公式ニ回答ヲ差上ケ兼ネ居ル次第ナリ伊側ニ於テハ日本ノ「エ」併合承認アリタル以上何等代償ヲ求ムル意嚮ナク本件回答遅延ハ全ク右獨逸側方針ニ因由スルニ外ナラスト内話セルニ依リ本使ハ伊側ノ好意アル態度ヲ謝シタル後本使ノ有スル報道ニ依レハ獨側ハ日獨防共協定成立記念一週年ヲ期シ本件承認ヲ行フヤニ内聞セリ何等貴大臣限りノ御參考迄ニ申上クト言ヘル

ニ「チ」ハ意外ノ面持ニテ獨逸側態度前述ノ如ケレハ御言葉ナレト右ノ如キコトナカルヘシト答ヘ本使ハ聞込ノ儘御參考迄ニ内報スルノミト應酬シ置ケリ

本電内容ハ御了解ニ難カラサルヘキ通り獨伊關係ノ極メテ機微ナル部分ニ及ヒ居リ從テ「チ」モ繰返シ外部ニ洩レサル様念ヲ押シ居リタルニ付絶對ニ外部ニ洩レサル様御注意願度シ

~~~~~

17 昭和12年11月28日

在伊国堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

イタリヤの満州国承認決定について

付記 昭和十二年十一月二十九日

右決定に関する外務当局談

ローマ 11月28日後発

本省 11月29日前着

第三四三號(大至急)

二十八日「チアノ」外相ノ求メニ依リ往訪シタル處同外相ハ伊國政府ハ滿洲國ヲ正式ニ承認スルニ決シ明日「ステファニ」ヲ通シ其ノ旨公表シ且同時ニ滿洲國政府外務大臣ニ

宛テ電信ヲ以テ同政府ヲ承認シ同國ニ在ル領事館ヲ公使館ニ改ムル旨公式ニ通告スル筈ナリト告ケ伊國政府トシテハ「アビシニヤ」併合ニ對スル日本側ノ承認ハ既ニ得タルモノト了解シ居リ更メテ布告ヲ發セラルル必要ナキモノト考フ從テ萬一日本政府ニ於テ此ノ際何等カノ宣言ニテモ發セラルルトセハ日本ハ既ニ「アビシニヤ」併合ヲ承認シ居レリトノ事實ヲ述ヘラルルコトト致度シト附言セリ  
獨ヘ轉電セリ

(付記)

伊太利國政府ノ滿洲國承認ニ關スル外務當局談

(十一月二十九日午後十二時)

伊太利國政府ハ客年十二月滿洲國政府ニ對スル正式ノ手續ヲ經テ在奉天伊國總領事館ヲ再開シ右ハ同國承認ノ第一歩ト見ラレテ居タカ今回正式承認ノ通告力行ハルル事トナツタノハ欣快ノ至テアル。

滿伊兩國間ノ正式外交關係ノ開始ハ舊ニ滿伊兩國間ノ親善關係促進ノ見地ヨリ望マシキ事テアルノミナラス其ノ有スル政治的意義ハ更ニ大ナルモノカアル、防共ノ大目的ノ爲

ニ堅ク握手シタル日伊兩國ノ關係ト日滿不可分ノ關係トヲ併セ考慮スル時伊國カ今回滿洲國ヲ承認スルニ至ツタ事ハ自然ノ趨勢トモ云ヒ得ルカ、右伊國ノ措置ハ現實ノ事態ヲ無視スル傾向アル國際聯盟等ニ對シテハ一大警鐘ヲ與ヘタモノト云ヘヨウ。

尙帝國政府ハ既ニ昨年十二月三日在「エチオピア」公使館ヲ廢シ領事館ヲ設置シタカ其ノ時カラ伊國ノ「エチオピア」併合ハ帝國ニ依リ承認セラレテ居ルノテアル。

18 昭和12年12月4日

在伊國堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日独伊防共協定の成立等に関する石井子爵と  
チアノとの会谈要旨報告

ローマ 12月4日前發

本省 12月4日夜着

第三五四號(極秘)

石井子爵ヨリ

二日「チアノ」外相トノ會談(約二十五分)要旨左ノ通り  
「先ツ當方ヨリ日獨伊三國協定ノ成立ニ對シ深甚ナル慶賀

ノ意ヲ表シタルニ「チ」ハ伊國側トシテハ慎重ニ熟慮ヲ重ネタル上ニテ日伊兩國間ニハ利害ノ衝突スル惧絶無ナリトノ結論ニ達シ安心シテ今次協定ニ參加セル次第ニシテ從テ一旦此ノ決意ヲ爲シタル以上日本トノ提携ニ付テハ何處迄モ邁進スルモノナリト答ヘタリ

二、英國ハ何事ニモ干渉カマシキ態度ニ出ツル國ニシテ自ラ高ク持シ恰モ歐洲ノ道德的支配權ヲ有シ居ルカノ様ニ振舞ヒ居ル處伊太利ハ之ニ承服スル能ハスト言ヒテ其ノ言辭概ネ「ム」首相ノ談話(往電第三五二號)ヲ裏書スルノ感アリタルカ當方ヨリ「ハリファクス」卿ノ訪獨ニ言及シ獨逸カ頻リニ英國トノ友誼ヲ溫メント努力スル風アルニ反シ伊國ハ寧ロ英國ニ拮抗スル風アリテ獨伊兩國ノ英國ニ對スル行方ニ多少相違アルヤノ印象ヲ與フルモノアル點ニ付探リヲ試ミタルニ「チ」ハ「ハ」卿ノ訪獨ニ依リテ

英獨關係カ好轉セリト見ルハ早計ニ失スヘク假リニ英獨間ニ若干ノ話合進展セリトスルモ佛蘭西カ文句ヲ言出スコト必定ナリ夫レハ兎ニ角英獨協調ニ關スル交渉ハ羅馬ヲ經由スルコト恰モ英伊間ニ於テ何等交渉行ハルル場合

ニ伯林ヲ經由スルカ如ク此ノ事態ハ今後ト雖永ク變ルコトナカルヘシト述ヘタリ

三、「チ」ハ尙支那事變ニ觸レ過日支那大使ニ對シ支那ノ爲ヲ計ル友人ノ言トシテ支那ハ速ニ和ヲ請フヘシト勸誘セルニ支那大使ハ和ヲ議スルトシテモ如何ナル條件ヲ申込マルルヤ解ラスト言ヘルニ付日本側條件ノ如何ニ拘ラス支那ハ速ニ之ヲ受諾スルヲ可トス例ヘハ「エチオピア」問題ニ於テハ「ネグス」カ當初伊太利ノ條件ヲ受諾シタランニハ併合ヲ免レ遙ニ現狀ヨリ優ル結果ヲ得タルヘキニ他國ノ助言ヲ聽キ無益ナル抵抗ヲ試ミタルカ爲遂ニ亡國ノ憂目ニ遭ヒタリ當時「ネグス」ヲ聲援セル列國モ遂ニ何等ノ援助ヲ與ヘサリシ例ヲ見レハ支那タルモノ亦思半ニ過クルモノアルヘシトノ趣旨ヲ直言シ置ケリト述ヘタリ

19

昭和13年2月9日

在独国東郷(茂徳)大使より  
広田外務大臣宛(電報)

独ソ接近説は英仏等による日独離間工作であるとの観測について

第六二號(館長符號扱)

英宛貴電第三六號二關シ

ベルリン 2月9日後発  
本省 2月9日夜着

獨蘇間互ニ相侵サストノ話合ハ英國側ノ氣持ハ別トシ獨政府カスル話合ニ乗ル如キハ到底考ヘ得サル所ナリ現ニ「ヒ」總統ハ客月十一日本使ニ對シ蘇聯ハ日獨共通ノ敵ナリト述ヘ其ノ後會談セル「ゲツベルス」、「ヘス」、「ローゼンベルグ」、「ヒムラー」等ノ要人ハ何レモ獨蘇關係ニ付明白ナル態度ヲ示シタルカ「リツベントロップ」ハ客月二十八日會談ノ際獨逸外交ハ日獨伊樞軸ヲ以テ基準トスヘキモノニシテ英獨關係ハ右ニ對シ第二義的ト考ヘ居レリト述ヘタルコトアリ前記ノ事情竝ニ「ヒ」總統ノ性格等ニ照シ獨蘇間ニ前記ノ如キ話合アリヤノ說ハ蓋シ英佛等ノ一部ニ於テ日獨離間ニ利用スル爲捏造セルモノト認ムル外ナキニ依リ我方トシテハ寧口是等流說ニ惑ハサルコトナキヲ必要ト思考ス

英ヘ轉電シ蘇ヘ暗送セリ

20 昭和13年2月21日

ドイツの満洲国承認に関する情報部長談

獨逸ノ滿洲國承認ニ關スル情報部長談

(二月二十一日)

昨二月二十日獨逸國議會ニ於テ「ヒットラー」宰相カ獨逸ハ滿洲國ヲ承認スル旨宣言シタル事ニ付テハ在獨東郷大使ヨリ公報カアツタ。抑々獨逸ト滿洲國トハ昭和十一年滿獨通商協定ノ成立ヲ見テ事實上密接ナル關係ニ在ツタノテ正式承認ハ時期ノ問題ト見ラレテ居タノテアルカ種々ノ事情ヨリ今日ニ及ンタノテアル。今回「ヒットラー」宰相カ英斷ヲ以テ承認ヲ斷行セラレタコトハ東亞延テ世界ノ大局ヲ明察シタルモノトシテ敬服ニ堪ヘヌ所テアルト共ニ現實ニ即セヌ國際聯盟ヤ沒落ノ蔣政權ノ受クル打撃ハ想像ニ餘リアル。

又嚮ニ伊太利、西班牙兩國ニ依リ承認セラレタル滿洲國カ今回更ニ獨逸ノ承認ヲ得テ其ノ國際的地位ヲ益々鞏固ニシタ事ハ衷心慶賀ニ堪ヘナイ。

今回ノ獨逸ノ舉ニ依リ防共ノ大精神ヲ以テ結ハルル日獨伊

滿ノ關係カ益々緊密化セラルコトヲ喜フト共ニ獨逸ノ滿洲國承認カ物質的利益ヲ超勢シタル友誼的精神ノ表現ナルコトヲ認識シテ充分感謝ノ意ヲ表スヘキテアルト思フ。

21 昭和13年3月9日

在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州国の正式承認は滿独修好条約の締結による旨独側より通報について

ベルリン 3月9日後発

本 省 3月10日前着

第一〇九號(大至急、極秘、館長符號扱)

往電第一〇四號ニ關シ

九日求ニ依リ柳井「ワイツゼツカー」政務局長ヲ往訪シタル處「ワ」ヨリ獨逸政府ノ滿洲國承認ハ過日ノ御話ノ通り二月二十日「ヒ」總統ノ議會演說アリタル歴史的ノ日トシテ取扱フコト政治的妙味アルモノト考ヘ種々協議シタルモ結局法律的手續トシテハ獨滿兩國間ニ修好條約ヲ締結シテ承認ノ手續ヲ完了スルコトニ決シ先刻「マツケンゼン」次官加藤在獨滿洲國通商代表ノ來訪ヲ求メ右條約案文(別電

第一一〇號<sup>(省略)</sup>ヲ手交シタル次第ナルカ日滿間ノ特殊關係ニ鑑シ右時ヲ移サス貴方へ通報スル次第ナリ尙加藤代表ハ右ノ趣ト共ニ本件獨滿條約案文ヲ本國ニ請訓シ四、五日中ニ回答ヲ得ラルヘキ旨答ヘタルニ依リ然ル上ハ遅クモ來週中ニハ條約調印ヲ見滿洲國承認ノ手續ヲ了スルノ見込トナルヘシト述ヘタリ

依テ柳井ヨリ然ラハ獨逸政府トシテハ滿洲國ノ承認ハ二月二十日ノ「ヒ」總統宣言ニ依リテ行ハレタルモノトセス獨滿間條約調印ノ方式ニ依ラントスル意嚮ナリヤト反問シタル處「ワ」ハ右ハ前述ノ通り種々研究シタルモ結局條約締結ナル方式ヲ以テスル方針ニ決シタル次第ナリト答ヘ更ニ柳井ノ問ニ應シ獨逸ハ新京ニ先ツ外交事務處理ノ權限ヲ有スル代理公使ヲ置キ次テ適當ノ時機ニ正式公使ヲ派遣スルコトトナルヘシト述ヘタリ

22 昭和13年3月25日

在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿独修好条約交渉の状況について

第一五七號(極秘、館長符號扱)

往電第一〇九號ニ關シ

ベルリン 3月25日後発  
本省 3月26日前着

其ノ後本使「マッケンゼン」次官ト或席上ニテ會談ノ際  
(十日)本件滿獨修交條約ノコト話頭ニ上リ同次官ハ右交渉  
ハ四、五日中ニモ纏ルヘシトノ印象ヲ得タリト述ヘタルニ  
付本使ハ二月二十日ノ「ヒ」總統宣言ニ依リ滿洲國承認ノ  
決意闡明セラレ日滿兩國ニ多大ノ好感ヲ與ヘタル次第ニシ  
テ承認手續トシテハ兩國間ニ直ニ公使館ヲ設置シ然ル上通  
商條約締結ノ交渉ニ入ルヲ適當ト思考シタルカ獨逸側ニ於  
テハ條約締結ニ依リ承認セントスルノ意嚮ナル旨ヲ承知シ  
日滿側ニ對スル影響モ面白カラサルモノアルニ至ルヘク又  
本件條約ノ締結モ御話ノ如ク短時日間ニ簡單ニ實施シ得ヘ  
キヤハ疑問ナリト注意シ置キタル經緯アル處其ノ後獨逸側  
ニテモ種々考慮セルモノノ如ク二十四日外務省通商局長  
「ウキルス」ハ加藤滿洲通商代表ノ來訪ヲ求メ獨逸トシテ  
ハ出來得ル限り速ニ獨滿間條約締結ノ運トシ度キ希望ナル  
ヲ以テ右交渉ヲ容易ナラシムル爲曩ノ獨逸側提案第三條カ

第一項ニ於テ將來獨滿間ニ一般的通商條約締結ノ交渉ヲ爲  
スヘキ旨ノ豫約ヲ爲スト共ニ同第二項ニ於テ右通商條約成  
立迄ハ居住、商工業、關稅其ノ他ノ事項ニ付最惠國待遇ヲ  
與フヘキ旨ヲ規定シタルヲ改メ獨滿兩國ハ將來最惠國待遇  
ノ基礎ノ上ニモ通商條約締結ノ交渉ヲ爲スヘキ旨ヲ豫約ス  
ルノミトシ第二項ノ最惠國約款ハ全部削除スルコト致ス  
ヘキニ付(別電第一五八號參照)此ノ際至急修交條約締結ヲ  
實行スルコトト致度シト申出テタル趣ナリ

23 昭和13年4月20日

在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿獨修好条約交渉にて独側が最惠國待遇条項  
の削除を提案について

ベルリン 4月20日後発  
本省 4月21日前着

第二一一號(館長符號扱)

往電第一五七號ニ關シ

滿獨修交條約案ニ關シテハ其ノ後モ加藤代表ト「ヴィー  
ル」通商局長トノ間ニ交渉行ハレツツアル處獨逸側ニ於テ

ハ政治的見地ヨリ本件條約ノ締結ヲ促進スルヲ可トシ之カ爲ニハ交渉中諸種ノ議論ヲ誘發スル惧アル最惠國待遇ニ關スル條項ハ一切之ヲ削除スヘシトノ結論ニ達シタル模様ニテ十九日同局長ヨリ加藤代表ニ對シ別電第二一二號<sup>(前略)</sup>ノ案文ヲ提示シ來レル處右ニ依レハ舊案第三條末尾ノ「最惠國待遇ノ基礎ニ於テ」ナル字句ヲ削除シ將來滿獨間通商條約交渉ニ當リテハ相互ニ相手方ノ要求ニ付能フ限りノ滿足ヲ與フル様爲スヘキ旨ヲ記スルニ止メ居レリ

尙獨逸側ニ於テハ今次締結セラルヘキ條約ハ滿獨兩國語ヲ以テ「テキスト」トシ度キ意嚮ナル趣ノ處當地滿洲國側ニテハ暗號ノ構成上獨逸文「テキスト」ヲ新京ニ打電シ能ハサル趣ニモアリ別電「テキスト」滿洲國政府へ轉達方然ルヘク御取計煩度シ

24 昭和13年4月30日

在伊國堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

欧州情勢に鑑み日伊關係の強化が急務である  
旨意見具申

第二〇〇號(極秘)

ローマ 4月30日後發  
本省 5月1日前着

一、獨逸ノ奧國併合及英伊協商ノ成立ヲ中心トスル歐洲政局ノ轉換期ニ際シ我國トシテモ之ニ適應シテ對策ヲ樹ツルコト緊要ノ儀ト思料セラルル處右ニ關聯シ主トシテ日伊關係ヲ眼中ニ置キ左ニ卑見ヲ開陳ス

二、獨伊樞軸ノ將來カ何ノ程度ノ緊密ヲ加フヘキヤハ素ヨリ豫知シ難キモ獨奧併合後ノ情勢ヲ觀察スルニ數段ノ強化ヲ見ルモノト推察セラレ又英伊關係ノ將來ニ付テモ種々ノ見解アルヘキカ今次ノ協定ニ依ル兩國友好關係ノ回復カ少クトモ日伊關係ノ實情ニ比シ稍實質的ナル條約上ノ根據ヲ得タルモノナルコトハ否定スヘカラス此ノ新事態ニ直面シ切實ニ感セラルルハ内容空虚ニ近キ防共協定ヲ唯一ノ連鎖トスル日伊提携ノ基礎カ如何ニモ<sup>(字々)</sup>弱ナル一事ナリ

三、「ム」首相ノ親日政策ハ「アビシニヤ」併合ヲ起點トスル伊國外交ノ轉換ニ照應シテ熟考ヲ經タル固キ決意ニ出テタルモノナルカ(客年往電第一六四號參照)本來伊國ノ



期待スル所ハ一層進ミタル政治的連結ニアルコト防共協  
定交渉ノ際ニ於ケル伊側提案(客年往電第一四九號)ニ見  
ルモ明カニシテ往電第一八〇號「チアノ」外相ノ言明ハ  
「ム」首相ノ決意ヲ傳ヘタルモノトシテ充分ニ信賴スル  
コトヲ得ヘシト雖此ノ伊國側ノ熱意アル態度ニ拘ラス我  
國ニ於テ防共協定以上ニ進ムコトヲ好マサル微溫的態度  
ヲ永ク持續スルニ於テハ伊國側ハ之ヲ友誼ニ冷淡ナルモ  
ノト解シ多血ナル南歐ノ國民性トシテ失望ヨリ一變シテ  
反感ニ移ルコトナキヲ保シ難シ斯カル急激ナル變化ヲ來  
ササル迄モ一方ニ於テ獨伊結束ノ強化ヲ見他方ニ於テ英  
伊協定ニ引續キテ佛伊協定ノ商議進捗シ歐洲ニ於ケル伊  
國ノ國際的地位安定ヲ増スニ從ヒ根底淺キ日伊ノ親善關  
係力著シク其ノ光彩ヲ失フニ至ルヘキコト自然ノ勢ナル  
ヘシ

四、伊國ヲ以テ信賴ヲ置クニ足ラサル國ト妄斷シ(例ヘハ歐  
洲大戰中三國同盟ヲ棄テテ聯合國側ニ加擔セル事例ヲ引  
證シ或ハ「ムツソリーニ」死後ノ伊國ノ變動ヲ豫想スル  
等)其ノ前提ノ下ニ日伊提携ニ反對スル議論アルカ如キ  
モ第一ニ伊國側ノ友誼的態度ニ變化ヲ見ル場合アリトセ

ハ恐ラク我國ノ消極的態度カ其ノ誘因タルヘキコト前項  
ニ詳述セル通りナルカ第二ニ百歩ヲ譲リ假ニ前掲反對論  
ノ斷定ヲ真ナリトシテ爲ニ空シク躊躇スルモノ何等實益ナ  
ク寧ロ我方ヨリ進ンテ兩國ノ結束強化ノ方法ヲ講スルヲ  
當然ノ對策トスヘク第三ニ提携強化ノ成立ニ拘ラス伊國  
側ノ態度ニ變化ヲ生スル場合ニハ我國モ亦之ニ對應シ態  
度ヲ變更スルニ何等支障アルコトナシ

五、對英關係ノ調整カ我外交上忽ニスルコトヲ許ササル重大  
問題タルハ何人モ異論ナキ所ナルヘシ然レトモ之カ成否  
ハ支那問題、海軍問題等ノ實質的妥結ニ懸ルモノニシテ  
日獨、日伊ノ結束ヲ弛緩シ若クハ破棄シタリトテ決シテ  
對英關係ノ改善ヲ期シ得ルモノニアラス之ニ反シ獨伊ト  
ノ提携ヲ緊密ニシ我地歩ヲ強化シテ而モ對英友好關係ノ  
回復ヲ計ルコトノ可能ナルハ伊國ノ對英協定ニ成功セル  
事例カ如實ニ示ス所ナリ(英伊關係緩和ノ空氣ハ一方ニ  
於テ兩國間紛爭ノ渦中ニ日本ヲ投スル危險ヲ著シク減殺  
スルト共ニ他方ニ於テ日伊提携ニ對スル英佛ノ輿論ノ反  
響ヲ中和スル效アルヘシ(客年往電第一八一號參照))

六、日獨關係ト日伊關係トノ間ニハ密接ナル相關性アリ(日



支事變動發當初在支將校ノ參戰禁止、對支武器輸出ノ抑制等ニ關スル伊國側ノ慫慂カ獨逸ノ態度決定ニ好影響ヲ與ヘタルハ其ノ適例ナリ)即チ日伊提携ノ強化ハ日獨關係ヲ補強スル所以ニシテ日獨ノ結束ト並行シテ日伊關係モ亦強化セラルルコトヲ要ス(同一ノ意味ニ於テ獨伊樞軸ノ強化ハ日獨、日伊ノ關係ヲ間接ニ強化スル效果アルヘク又一方萬一獨伊間ニ不和ヲ生スルカ如キ場合ニハ其ノ時ノ情勢ニ適應シテ我向背ヲ決スヘキノミ)

七、獨伊ニ對スル關係ニ於テ特ニ留意ヲ要スルハ兩國ニ對スル我態度ニ厚薄ヲ示ササルコトナリ(伊國側カ此ノ點ニ敏感ナルハ客年獨ノ日支講和斡旋ノ際ノ事例ニテ御了知ノ通りナリ)

尤モ對獨對伊ノ關係ハ前者ハ主トシテ蘇聯邦ヲ目標トシ後者ハ寧口對英牽制ヲ重點トスルモノニシテ(客年往電第一六〇號及第一六四號(三)參照)從テ其ノ連鎖ノ基礎タルヘキ條約關係自然内容ヲ異ニスルコトナルヘシト雖其ノ間ニ輕重ノ差ヲ設クルコトハ何等理由ナキノミナラス三國間ニ不快ナル空氣ヲ醸成スル危險アルヘシ

八、上述ノ如ク防共協定ノミニ依存スル日伊關係ノ現状ハ歐

洲政局ノ新事態ニ顧ミルモ到底長ク此ノ儘ニ放置スルヲ許ササルモノアリテ此ノ際之カ強化ヲ計ルコト急務ナリト思料セラルル處(政治的連鎖ノ強化ト並行シ文化及經濟ノ方面ニ於ケル提携協調ヲ促進スルコト緊要ナルハ申ス迄モナシ)其ノ實行方法ニ付テハ追テ別電ヲ以テ案ヲ具シ稟申ニ及フヘシ

在歐各大使(土ヲ除ク)、米、壽府へ轉電セリ

25 昭和13年5月12日

在独国東郷大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 満独修好条約の調印完了報告

ベルリン 5月12日後発

本省 5月13日前着

第二五九號

十二日午前十一時獨逸外務省ニ於テ加藤滿洲國代表及獨逸代表「ワイツゼツカー」外務次官ノ間ニ滿獨修好條約調印ヲ了シタリ右「テキスト」ハ十二日當地發我方「クリエ」便ニテ托送「チタ」ニテ滿洲國側ニ交付ノ筈

26

昭和13年6月3日

在伊国堀田大使より  
宇垣(一成)外務大臣宛(電報)

日本との協力重視に言及したチアノ外相の外

交方針演説要旨

ローマ 6月3日後発

本省 6月4日後着

第二四五號

「チアノ」外相ハ二日未蘭ニ於ケル外交政策研究所第二回總會開會式ニ臨ミ伊國外交方針ニ關シ演説ヲ爲シタルカ要領左ノ通り

一、伊國ハ獨伊樞軸ニ忠實ニシテ今後益々獨トノ密接ナル協力及親密ナル了解ヲ繼續スヘシ今日政治的理想及國民的利害ノ共通ト同時ニ國境ノ共通ハ兩國民ノ連帶性及相互尊敬ノ基礎ナリ、右獨伊連帶性ノ最初ノ表現ハ西班牙ニ歐洲破壊ノ足場ヲ作ラントスル「ボルシエビズム」ニ對スル共同ノ反撃ナリ、西國ニ於ケル我等ノ行動ハ赤色破壊力ニ對スル歐洲ノ抵抗ヲ代表スルモノナリ

二、「ボルシエビズム」排撃ノ行動ハ三國防共協定ニ基ク日本ノ獨伊ヘノ結合ニ依リ更ニ強化セリ、伊國ハ日本トノ

協力ヲ極メテ重要視ス、「フアシスト」使節ニ對スル日本ノ歡迎ハ兩國ノ感情ノ熱誠ナルヲ證ス、輝カシキ傳統ト愛國心及犠牲的精神ヲ同シク有スル日伊兩國民ハ將來其ノ友情ヲ一層密接且積極的ナラシムル運命ニアリト確信ス

三、日支事變ニ付テハ東亞ノ現事態ハ「ボルシエビズム」ノ破壊的活動ニ起因シ支那政府カ其ノ國民的要望ヲ赤色國際主義ノ標榜スル一國家ノ手中ニ委ネルノ愚ヲ覺ラス不用意ニモ「ボルシエビズム」ト結ヒタル結果ナリト斷言シ得ヘシ

四、巴爾幹ニ對スル伊國ノ關心ハ地理的及歴史的因縁ニ基ク伊國ハ同地方ニ利己的目的又ハ制覇ノ野心ナク友好的協力ヲ求ムルモノナリ

五、英伊協定ハ過去ノ誤解ヲ一掃シ現實ノ率直ナル認識ニ基キ兩國間ノ關係ヲ忠實且明瞭ニ確定シタルモノナリ、斯ノ如キハ國交調整ノ唯一ノ方法ニシテ裏面ニ他ノ意圖ヲ包藏シ乍ラ表面の一時ノ妥協ヲ爲スハ危険ナリ、伊太利ハ此ノ種ノ妥協ニ由來スル何等ノ結合ニモ參加スルノ意思ナシ

右演說ニ關シニ日夕刊及三日朝刊各紙ハ何レモ論說ヲ掲ケ「ゼノア」ニ於ケル「ム」首相ノ演說ト共ニ伊國外交方針ヲ明示スルモノトシテ敷衍説明ヲ加ヘ居レリ

~~~~~

27 昭和13年7月19日 五相會議決定

「日獨伊防共協定研究方針」

付記一 作成日不明、外務省作成

日独および日伊政治の提携強化方針要領

二 作成日、作成者不明

「防共協定ノ強化工作要領案」

日獨伊防共協定研究方針

昭和十三年七月十九日

五 相 會 議 決 定

日獨伊防共協定ヲ強化スル方針ノ下ニ研究ス

(付記一)

●日獨政治の提携關係ノ強化ハ我對蘇關係ノ見地ヨリ成ルヘク速ニ實現セシムルヲ可トス

但シ嚴ニ目標ヲ對蘇關係ニノミ局限シ獨逸カ蘇聯以外ノ歐洲諸國トノ關係ニ於テ戰爭ヲ起スカ如キ場合ニ於テモ蘇聯カ右戰爭ニ加入セサル限り我方ハ自由ニ態度ヲ決シ得ル裕リヲ取り置クト共ニ蘇聯ノ該戰爭加入ヲ牽制スルコトスルヲ要ス

協定ノ内容ニ付テハ攻守同盟ヲ避ケ防禦のナル相互援助條約ヲ可トス

日獨政治の提携強化方針要領

(イ)日獨間ニ蘇聯ヲ目標トセル相互援助協定ヲ締結ス

本協定ハ之ヲ公表スル建前トス

(ロ)協定ノ内容ハ概ネ左ノ通

一、締約國ノ一方カ挑發ニ因ラサル攻撃ヲ受ケ蘇聯ト交戦スルニ至リタル時ハ他方締約國ハ可能ナル一切ノ方法

ニ依リ援助ヲ與フヘキコトヲ約ス

二、締約國ノ一方カ蘇聯ヨリ挑發ニ因ラサル攻撃ノ脅威ヲ受クル場合ニハ兩締約國ハ共同シテ執ルヘキ措置ニ付

直チニ協議スヘシ

三、締約國ノ一方カ本條約ニ規定スル場合ニ際シ他ノ一方

一 防共協定の加盟国拡大と強化問題

ニ與フヘキ援助ノ中兵力的援助ノ實行方法ニ關シテハ
當該官憲ニ於テ豫メ協議ノ上協定スヘシ

但シ本協議條項ハ之ヲ祕密交換公文ニ規定ス

四、本協定ノ有効期間ハ五年トス

日伊政治的提携關係ノ強化ハ我對蘇對獨關係ノ見地ヨリ成
ルヘク速ニ實現セシムルヲ可トス右ハ提携ノ限度ヲ誤ラサ
ルニ於テハ對英關係上ヨリモ極メテ良結果ヲ齎スヘシ

協定ノ内容ニ付テハ中立及協議條約ノ程度ニ止ムルコト適
當ナリ

日伊政治的提携強化方針要領

(イ) 日伊間ニ現存ノ防共協定ニ依ル提携關係ヲ一步進メ中立
及協議ニ關スル協定ヲ締結ス

本協定ハ之ヲ公表スル建前トス

(ロ) 協定ノ内容ハ概ネ左ノ通

一、締約國ノ一方カ挑發スルコトナクシテ第三國ヨリ攻撃
ヲ受クル場合他ノ一方ハ右紛爭ノ全繼續期間中中立ヲ
維持スヘキコトヲ約ス

三、締約國双方ニ緊密ナル利害關係ヲ有スル國際問題發生
スル場合締約國ハ他ノ一方ノ申出ニ依リ直ニ協議スヘ
キコトヲ約ス

三、本協定ノ有効期間ハ五年トス

編 注 本文書は、昭和十三年八月十二日の五相會議に提出さ
れたものと思われる。

(付記二)

防共協定ノ強化工作要領案

防共協定ノ強化ニ關シテハ別冊「日獨及日伊樞軸強化ニ關
スル方策案」ニ依ル

(別冊)

日獨及日伊樞軸強化ニ關スル方策案

一、判 決

帝國ハ速ニ獨逸及伊太利ト各個ニ協定ヲ遂ケ相互ノ締盟關
係ヲ一層緊密化シ協定各國ノ對「ソ」威力及對英牽制力ヲ
強化シ以テ當面ノ支那事變解決ヲ迅速有利ニシ且我東亞經

論ノ進展ニ資セシムルヲ要ス

之カ爲獨逸ニ對シテハ防共協定祕密附屬協定ノ精神ヲ擴充シテ之ヲ對「ソ」同盟ニ導キ伊太利ニ對シテハ主トシテ對英牽制ニ利用シ得ル如ク祕密協定ヲ締結ス

二、對策

一、日獨同盟ノ締結

概ネ左記ノ内容ニ依ル

同盟内容案

(一)日獨兩國ハ現「ソ」聯政權ヲ以テ兩國々防上及世界平和保持上許容シ難キ存在タルコトニ關シ共通ノ觀念ヲ有スルコトヲ確認ス

(二)第一案

「締約國ノ一方カ「ソ」聯ト開戦ノ已ムナキニ至リシ場合ニ於テハ他ノ締約國ハ一方國ニ對シ爲シ得ル限りノ援助ヲ與フルモノトス

「ソ」聯ト紛争ヲ生シ又ハ之ヨリ脅威ヲ受ケタル場合亦同シ」

第二案

「締約國ノ一方カ「ソ」聯ト開戦ノ已ムナキニ至リ

シ場合ニ於テハ他ノ締約國ハ直チニ「ソ」聯ト開戦シ日獨協力シテ之ヲ處理ス

「ソ」聯ト紛争ヲ生シ又ハ之ヨリ脅威ヲ受ケル場合ニ於テハ相互爲シ得ル限りノ援助ヲ與フルモノトス」

之カ爲締約國ハ平時相互ニ「ソ」聯ニ關スル情報ヲ通報スルノミナラス締約國ノ何レカカ「ソ」聯ト戦争ノ危機又ハ紛争ヲ生シ或ハ之ヨリ脅威ヲ受ケルニ至リシ場合ニ於テハ相互協力又ハ援助ニ必要ナル一切ノ事象ニ關シ協議ス

(三)締約國ノ一方カ「ソ」聯及ヒ伊太利ヲ除ク第三國ト戦争又ハ紛争ヲ生シ又ハ之ヨリ脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ相互ニ他ニ好意アル態度ヲ保持ス

(四)本同盟ノ有効期間ハ五年トス

二、日伊協定ノ締結

概ネ左記ノ内容ニ依ル

協定内容案

(一)締約國ノ一方カ獨逸外ノ第三國ト交战スル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ相互ニ他方ニ最モ好意アル中立ヲ保持

28

昭和13年8月26日 五相會議決定

防共協定強化に関する日独伊協定案

付記一 昭和十三年八月二十九日發東条(英機)陸軍次

官、山本(五十六)海軍次官より在独国大島

(造)大使館付陸軍武官、在独国小島(秀雄)大

使館付海軍武官宛電報陸電二三三三

編注 本文書は、陸軍が作成したものと思われる。

- スルト共ニ爾他列強ノ第三國側參戰ヲ防止スルコトニ努ム
- 之カ爲締約國ノ何レカカ獨逸外ノ第三國ト戰爭ノ危險ヲ生スルニ至リシ場合ニ於テハ他ノ締約國ノ執ルヘキ處置ニ關シ兩締約國ハ相互ニ協議ス
- (二)締約國ノ一方カ獨逸外ノ第三國ト紛爭ヲ惹起シ又ハ之ニ依リ魯威ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ前項ノ趣旨ニ依リ相互ニ他ニ好意アル態度ヲ保持ス
- (三)本協定ノ有効期間ハ五年トス

右協定案と独側提案との相違点について

二 昭和十三年八月二十九日發東条陸軍次官より

在独国大島大使館付陸軍武官宛電報陸電二三

六号

右協定案に関する説明

八月二十六日五相會議決定案

前文案

共產「インターナショナル」ニ對スル日獨伊三國間ノ協力關係ニヨリ三國間ノ友好的關係ノ増進セラレタルニ鑑ミ共產「インターナショナル」ノ國際的活動力益々世界平和殊ニ歐洲及亞細亞ノ諸地域ニ於ケル平和ヲ脅カスニ至レル事實ニ鑑ミ

右協定ノ精神ニ基キ前記諸地域ニ於ケル共產主義的破壊ニ對スル防衛ヲ強固ニシ且三國ニ共通ナル利益ノ擁護ヲ確保スル爲左ノ通協定セリ

一、締約國ノ一方カ締約國以外ノ第三國ト外交上ノ困難ヲ生セシ場合ニ於テハ各締約國ハ執ルベキ協同動作ニ關シ直ニ評議ヲ行フ

二、締約國ノ一方カ締約國以外ノ第三國ヨリ挑發ニヨラサル脅

威ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ脅威ヲ排除スル爲他ノ締約國ハ凡ユル政治的且經濟的ノ支援ヲ行フ義務アルモノトス

三、締約國ノ一カ締約國以外ノ第三國ヨリ挑發ニヨラサル攻撃ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ之ニ對シ武力援助ニ就キ直チニ協議ニ入ル

備考

祕密協定ニ依リ與フベキ兵力の援助ノ條件、範圍、限度及實行方法ヲ明確且詳細ニ規定スルコトヲ要ス

(付記一)

陸電二三五號

昭和十三年八月廿九日發電

陸海軍次長發大島、小島兩武官宛電報寫

一、笠原少將持參ノ協定案ニ對シテハ陸海軍共其ノ趣旨ニ同意ナリ

左ノ條件ヲ以テ之ヲ採擇スルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ

(イ)前文トシテ左記要旨ヲ附加ス

(前文案略)

(ロ)第二條ノ「外交的」ヲ「經濟的」ニ改ム

(ハ)第三條末尾ノ「ヲ行フ義務アルモノトス」ヲ「ニ付キ直チニ協議ニ入ル」ニ改ム

(ニ)第二條第三條ノ脅威及攻撃ナル字句ニ「挑發ニヨラサル」ヲ冠ス

(ホ)本協定ニ附屬スヘキ祕密協定ニヨリ與フヘキ兵力の援助ノ條件範圍限度及實行方法ヲ明確且詳細ニ規定シ度キ意見ナリ

二、當方ハ本協定ヲナルヘク速ニ締結スルノ希望ヲ有スルニ付獨側ヨリ速ニ正式ニ提案セシムル如ク取計ハレ度

(付記二)

陸電二三六號

昭和十三年八月廿九日發電

陸軍次官發大島宛電報寫

陸電第二三五號ニ關スル說明

一、「前文案」ハ本協定カ現存防共協定ノ延長ニシテ主トシテ蘇聯ヲ目標トスル趣旨ヲ明確ナラシメントシタル一案ニシテ英米等ヲ正面ノ敵トスルカ如キ印象ヲ與ヘサル様用語上ニ注意セルモノナリ

二、「本文案」第三條ノ武力の援助ノ義務ヲ即時且無條件ナ

ラシメス又我方ノ意ニ反シテ純然タル歐洲問題ニ捲キ込マルル如キ危険ナカラシムル爲兵力の援助ニ入ルニ先チ協議ヲ行フヲ建前トシタルモノナリ

三、本協定ハ趣旨ニ於テ防禦的性質ヲ有セシムル爲脅威及攻撃ハ挑發ニヨラサル場合ニ限ルコトトセリ
四、尙案文ニ關シテハ目下更ニ鋭意研究中ナリ

~~~~~

29

昭和13年8月31日

宇垣外務大臣より  
在独国東郷大使宛(電報)

防共協定強化に関する独側の試案提示および

わが方の対応状況について

別電一

昭和十三年八月三十一日発宇垣外務大臣より

在独国東郷大使宛第三二七号

右試案

二

昭和十三年八月三十一日発宇垣外務大臣より

在独国東郷大使宛第三二八号

右試案への回答としてのわが方条件

本省 8月31日発

第三二六號(絶対極秘)

八月初旬陸軍大臣ヨリ本大臣ニ對シ七月十日前後「リ」外相ト大島武官トノ間ニ防共樞軸強化ニ關シ二三非公式意見ノ交換行ハレ其ノ際同外相ヨリ大要別電第三二七號ノ如キ試案ヲ提示シ右ニ關シ政府間ノ正式交渉ニ入ルニ先チ出來得レハ帝國陸海軍側ノ内意ヲ承知シ度キ旨ノ申出アリ仍テ偶々歸朝ノ豫定ニアリシ笠原少將ニ托シ之ヲ東京ニ持チ歸ラシメタルカ(八月五日東京着)本件ハ國策ノ根本ニ關係アル重大問題ナルニ付軍部ノ意向ヲ決定スルニ當リ本大臣ノ所見ヲモ承知シ度シトノ意味合ヲ以テ非公式ニ連絡アリ本大臣ニ於テハ右「リ」外相案ナルモノハ正式ノ外交徑路ニヨリ當方ニ達シタルモノニ非ルニ付單ナル情報ニ過キサラムノトシテ聽取シ只同案ノ趣旨ニ對シテハ別電第三二八號ノ如キ條件附キナラハ陸海軍トシテノ同意ヲ内示セラレ差支ナキ旨但シ本件ハ速ニ貴使ヲ通シ政府間ノ正式交渉ニ移ス様措置アリ度ク又大島ヨリ貴使ニ詳細報告セシメラレ度キ旨希望シ右一昨二十九日陸軍側ヨリ貴地武官宛電報セリ事情右ノ如クニテ本件ニ付テハ委曲大島ヨリ貴使ニ報告アルヘク又協定案自体ハ近ク「リ」外相ヨリ貴使ニ對シ正式ニ提示スルコトナルヘシト存セラルル處前述ノ通本件ハ



「リ」外相ニ於テ先ツ軍部ノ意向ヲ「サウンド」シ來リタルモノヲ陸軍大臣ヨリ本大臣ニ非公式ニ連絡シタルモノニテ本大臣トシテハ本件ハ何所迄モ一種ノ情報トシテ取扱ヒ何レ獨側ヨリ正式ニ外交交渉トシテ貴使ヲ通シ提案シ來ル迄ノ側面的ノモノト了解シ居ル次第ニ付右篤ト御了解ノ上「リ」ヨリ正式提案アリタル上ハ本件協定達成方十分御盡力相成度協定案文ハ目下當方ニ於テ鋭意研究中ニテ追テ電報ス

尙本件ハ獨逸側ニ於テハ「リ」外相ノミ承知シ居リ他ニ何人モ知ルモノナキ由ナルノミナラス獨伊間ニ於ケル内交渉ノ關係「リ」ハ伊國側ニモ働キカケ居ルモノノ如キ趣ナリモアルニ付「リ」ヨリ正式交渉アル迄ハ貴使限リ極秘ノ含ミニ止メ置カレ度爲念

### (別電一)

本省 8月31日發

### 第三二七號(絕對極秘)

一、締約國ノ一カ締約國以外ノ第三國ト外交上ノ困難ヲ生セシ場合ニ於テハ各締約國ハ執ルヘキ協同動作ニ關シ直ニ

評議ヲ行フ

二、締約國ノ一カ締約國以外ノ第三國ヨリ脅威ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ脅威ヲ排除スル爲他ノ締約國ハ凡ユル政治的且外交的ノ支援ヲ行フ義務アルモノトス

三、締約國ノ一カ締約國以外ノ第三國ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニ於テハ他ノ締約國ハ之ニ對シ武力援助ヲ行フ義務アルモノトス

### (別電二)

本省 8月31日發

### 第三二八號(絕對極秘)

一、蘇聯及其產「インターナシヨナル」ノ破壊工作ニ對スル防衛ヲ主眼トシ英米等ヲ正面ノ敵トスルモノニ非ル趣旨(米ニ付テハ特ニ地域の制限ヲ加フルコトニ依リ明トス)ヲ前文ニ於テ明瞭ナラシムルコトヲ要ス

二、協定ノ字句ハ研究ノ上相當ノ變更ヲナスコトヲ要ス(例ハハ本協定カ純然タル防禦的協定ニシテ安全保障ヲ第一義トスルニ鑑ミ「脅威」又ハ「攻撃」ニ「挑發ニヨラサル」ノ字句ヲ冠スル要アルコト及「政治的且外交的支

援」トアル處外交の支援ハ政治的支援ノ中ニ含マレ居ルノミナラス我方ハ經濟的支援ヲモ重視シ居ルニ鑑ミ之ヲ「政治的及經濟的支援」ト修正スルノ要アルコト等其ノ一二ノ例ナリ）

三、本協定ニヨリテ負フ兵力的援助ノ義務ノ自動的トセス且我方ノ意ニ反シテ純然タル歐洲問題ニ捲込マルルカ如キ危険ナカラシムル爲第三條ノ場合ノ兵力的援助ニ付テハ「直ニ協議ニ入ル」コトトシ且秘密附屬協定ニ依リ我方ノ與フヘキ兵力的援助ノ條件範圍限度及之カ實行方法ヲ明確且詳細ニ規定スルコトヲ要ス

~~~~~

30

昭和13年9月17日

在ベルギー來栖大使より
宇垣外務大臣宛（電報）

欧州情勢に鑑みわが方の対独態度は慎重を要すべしとの意見具申

ブリュッセル 9月17日發

本 省 着

第二一五號

一、歐洲刻下ノ危機ニ關聯シ我國ガ利害關係錯綜セル東亞ニ

強大ナル實力ヲ擁シ且ツ背後ヨリ蘇聯ヲ制スルノ外無言ノ間ニ米國ノ向背ヲ牽制シ得ル地位ヲ保有シツツアル事實ハ今回ノ時局處理ニ當リテモ獨逸側ハ勿論英佛其他ノ歐洲諸國ニ於テ暗々裡ニ充分考慮シツツアル所ナリト觀測セラレ旁々此際我國トシテハ特ニ威嚴アル自重ノ態度ヲ嚴守スヘキ次第ナリト思考ス

三、我國ノ外交政策上日獨關係ノ重要ナルハ申迄モナキ處元來日獨協定締結ニ當リテハ獨逸側ニ於テモ前項我國ノ地位ヲ充分考慮シタル次第ト觀測セラルルヲ以テ同協定ノ運用ニ關シテモ我國トシテハ盟邦トシテノ信義ヲ嚴守スルト同時ニ飽迄兩國對等ノ地位ヲ堅守スベキ筋合ト思考セラレ從テ事態今日ノ階梯ニ於テハ我國トシテ張鼓峰事件ノ當時獨逸ノ執リタル態度以上ニ出ルノ要ナカル可キハ勿論盟邦ノ肚裡和戰何レトモ見透シ難キ際我國ノ態度ハ特ニ慎重ヲ要スベク我國トシテハ常ニ東亞ノ安定勢力タル地位ニヨリ終始スルヲ要締トスベキ次第ナリト思考ス

右最近情報部長聲明ノ次第モ有之此際卑見敢テ具申ス

編注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資

料」中の「来栖三郎関係文書」より採録。

31 昭和13年11月11日 五相會議決定

「日獨伊防共協定強化ニ關スル件」

日獨伊防共協定強化ニ關スル件

昭和十三年十一月十一日

五 相 會 議 決 定

一、昭和十三年七月十九日及八月二十六日ノ五相會議決定ニ基ク日獨伊三國協定ノ速カナル締結ヲ促進スルヲ要ス
之カ爲先ツ至急大島大使電報ノ獨逸案ヲモ參酌シテ我政府案ヲ決定シ促進ノ基礎ヲ確立スルヲ要ス
二、協定ハ當然日獨伊三國間ニ於テ速ニ締結スルヲ方針トス
但其交渉遲延シタル場合ハ日獨、日伊平行的ニ協定ヲ締結シ將來機ヲ見テ此兩協定ヲ日獨伊三國協定ニ合一
ヲ期ス

(付箋)

外務大臣ヨリ本協定ニツキ質問アリ

「問」本協定ハ「ソ」ニ對スルヲ主トシ英佛等ハ「ソ」側ニ參加スル場合ニ於テ對象トナルモノニシテ英佛等ノミニテ對象トナルモノニ非ス、勿論佛カ赤色化シタル場合ノ如キハ對象タルヘシ

「答」外務大臣見解ノ通り(全員)

(昭和十三年十一月十一日五相會議)

32 昭和13年11月23日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

信任状捧呈時におけるヒトラーとの会談報告

ベルリン 11月23日前発
本 省 11月23日後着

第七二一號(極秘)

廿一日「ベルヒテスガーデン」ニ於テ御信任狀捧呈ヲ了シタル後引續キ「ヒットラー」總統ハ本使ト對座シテ談話ヲ交シタルカ其ノ要旨左ノ通り
總統ハ先ツ最近日本軍ノ支那ニ於ケル赫々タル勝利ハ寔ニ慶賀ノ至リナリ自分ハ當初ヨリ日本ノ終局ノ勝利ヲ確信シ

居ル處日本ノ戰勝ハ一ニ國民ノ旺盛ナル精神力ノ結果ニ外ナラス自分ハ是非共此ノ事業ノ完成ヲ期セラレンコトヲ切望スル次第ナリト述ヘタルニ付本使ヨリ總統ノ支那事變ニ對スル明確ナル御方針ハ日本ノ深ク感謝シ居ル所ナリ日本ハ飽迄終局ノ目的ヲ達成セントノ固キ決意ヲ有シ決シテ不完全ナル解決ヲ以テ満足シ得ス日本國民ハ支那事變ノ解決ニ依リ新亞細亞ヲ作りテ東洋平和ヲ確立スル固キ信念ヲ有ス之カ爲東亞ニ於ケル共產ノ危險ヲ根絶セシムルコトハ必要ニシテ又英國ノ如キカ支那ニ於テ政治上特殊ノ地位ヲ占メ東亞ノ安定ヲ妨クルカ如キハ斷シテ容認シ得サル所ナリト述ヘタル處「ヒ」總統ハ「デモクラシー」諸國ノ態度ハ自分モ了解シ能ハサル所ニシテ歐亞ニ於テ各種ノ害毒ヲ流シツツアリ然レトモ是等國民ノ精神力ハ遙ニ我々國民ノ下位ニ在リ自分ハ一九一八年當時ノ獨逸國民ノ精神狀態ヲ憂ヒ爾來國民ノ強キ精神力涵養ニ多大ノ努力ヲ傾注シ來リタルカ本年ニ入り重大ナル局面ニ遭遇シ略此ノ目的ヲ達成シ得タルコトヲ知りタリト語レリ依テ本使ハ本年ニ於ケル大事業ノ成功ヲ祝シタルニ總統ハ之カ爲自分ハ豫テヨリ極メテ周到ナル準備ヲ爲セシヲ以テ目的ヲ達シタリ而シテ自分

ハ「勝ツテ兜ノ緒ヲ締メヨ」トノ日本ノ格言ヲ見出シ深ク感セルカ今日ノ獨逸ノ爲ニハ此ノ精神最モ必要ナリト信シ居レリ之カ爲日獨伊三國ノ提携ヲ益々緊密ナラシメントスル希望ナリト述ヘタリ

~~~~~

33

昭和13年12月5日

在独国外務大臣宛(電報)

防共協定強化問題に関する根本方針への疑義  
に対し政府の真意回示方請訓

ベルリン 12月5日夜発

本省 12月6日前着

第七五九號(絶対極秘)

貴電第四六四號中「英佛等ノミニテ對象トナルモノニ非ス」トノ點ニ關シ本使武官在職中陸軍ヨリ接受セル累次ノ電報ト對照シ充分ノ研究ヲ加ヘタルガ八月下旬五相會議ノ決議ト大ナル相違アル如キ重要國策力僅々二三ヶ月ノ間ニ變更セラレタリトハ信ズル能ハザル所ニシテ或ハ本使ガ前回ノ五相會議ノ決議ヲ誤解シ居リタルヤヲ惧ル就テハ陸軍大臣ト御聯絡相成リ且陸軍從來ノ電報等ヲモ査覈セラレ此

點ニ付至急明確ナル御回訓ヲ請フ

若シ果シテ變更ヲ加ヘラレタルモノトセバ非公式ノ交渉ナリトハ謂ヘ獨側ニ申入濟ニシテ且之ニ基キ獨側ヨリ伊太利側ヘモ通告濟ナルヲ以テ今更斯ノ如キ變更ヲ申入ルルハ我が威信ニ關スルモノト信ズ尙貴電ノ如クンバ實質ニ於テ蘇聯ノミヲ對象トスル三國協定トナリ實現困難ニシテ又日獨、日伊別箇ノ協定ヲ結ブコト現在ノ歐洲情勢特ニ獨伊ノ緊密ナル關係ニ鑑ミ其實現性極メテ少キモノト觀察ス從テ此ノ際八月下旬ノ五相會議ノ決議ニ基キ爾後ノ交渉ヲ行ヒ補足協定ニ於テ定ムベキ援助ノ範圍條件等ニ於テ加減スルヲ得策トスベク此ノ點御研究ヲ請フ

34 昭和13年12月13日

外務省作成の五相會議決定案「滿洲國及洪牙利ノ防共協定參加方ニ關スル件」

滿洲國及洪牙利ノ防共協定參加方ニ關スル件

昭和十三年十二月十三日

五相會議決定案

一、昭和十三年十一月十一日五相會議ニ於テ日獨伊防共協定

強化方ニ關スル方針決定セラレタルニ鑑ミ豫ネテ表明セラレ居タル希望ニ基キ滿洲國ヲ防共協定ニ參加セシムルコト

但シ右實現ノ方法殊ニ參加ノ形式ニ關シテハ外務省ニ一任スルコト

二、今般獨逸側ヨリ洪牙利ノ防共協定參加希望申出ニ基キ我國ノ意向ヲ照會シ來リ(伊國側ハ贊成ナル由)タル處右ニ對シテハ前記滿洲國參加方ノ件モアリ歐洲ニ於テ洪牙利ト密接ノ關係ニアル獨伊兩國ニ於テ同意ナルニ於テハ我國モ贊成ナル旨回答スルコト

35 昭和13年12月22日

在英國重光(葵大使より有田外務大臣宛(電報))

ハンガリーの独伊接近に関する報道報告

ロンドン 12月22日後発

本省 12月23日前着

第一〇五〇號

一般的情報

二十一日羅馬發「タイムス」特電ハ「チアノ」外相ノ「ブ  
タベスト」訪問ニ關聯シ洪牙利ハ近ク獨伊樞軸ニ参加スヘ  
ク伊側ニ於テハ同國ノ聯盟脱退ヲ勸奨シツツアリ又同國ハ  
獨伊ノ例ニ倣ヒ猶太人排斥ノ措置ヲ執ル模様ノ處「ユーゴ  
ースラヴ」ト洪牙利トノ接近ノ機運濃厚ナリト報ス  
獨、伊、洪へ轉電シ其ノ他ノ在歐各大使、壽府へ郵送セリ

~~~~~

36

昭和14年1月10日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

滿州国およびハンガリーの防共協定参加に関

する議定書案を独側提示について

別電

昭和十四年一月十日發在独国大島大使より有

田外務大臣宛第二九号

右議定書案

ベルリン

1月10日前發

本省

1月10日後着

☆
第二八號(大至急、極秘)

客年往電第七九七號ニ關シ

一、滿洲國及洪牙利ノ防共協定参加ノ形式ニ關シテハ其ノ後

引續キ獨逸側ハ聯絡研究中ノ處七日獨逸側ヨリ別紙譯文
ノ案ヲ送付越シ右ハ日本側ノ申分ヲモ出來得ル限り取入
レ起草シタルモノナルカ伊太利側ニ於テモ大體異議ナシ
トテ意見ヲ求メ來レリ

二、同案ハ前述ノ如ク當方ノ主張ヲモ取入レタルモノニシテ
大體客年貴電第五一二號本省ノ御意嚮ニモ合致シ居ル無
事ナル案ナリト認メラルルヲ以テ至急御詮議ノ上何分ノ
儀御回電アリタシ(滿洲國ノ場合ハ同案中洪牙利ノ字句
ヲ滿洲國ト改メ日獨伊三國ト滿洲國トノ間ニ新京ニテ締
結スルモノトス)

三、尙同案中第二項「右附屬議定書ニ於テ豫メ定メラレタル
右加入國ノ共同工作」云々ノ規定ハ將來多數國家ノ加入
スル場合ヲ考慮シ原調印國ト他ノ加入國トノ間ニ常設委
員會加入ニ關シ若干ノ區別ヲ設ケントスル趣旨ナリ右爲
念

伊、洪へ轉電セリ

(別電)

ベルリン 1月10日前発
本省 1月10日後着

☆
第二九號(極秘)

議定書案

獨逸國政府

伊太利王國政府

大日本帝國政府及

洪牙利王國政府ハ左ノ通り協定セリ

洪牙利ハ一九三六年十一月二十五日獨逸國政府及大日本帝

國政府ノ名ニ於テ調印セラレ伊太利國カ一九三七年十一月

六日附議定書ニ依リ原調印國トシテ加入セル共產「インタ

ーナシヨナル」ニ對スル協定(附屬議定書ヲ含ム)ニ加入ス

右附屬議定書ニ於テ豫メ定メラレタル右加入國政府間ノ共

同工作ヲ容易ナラシムヘキ形式ニ關シテハ留保セラルルモ

ノトシ右ハ將來協定セラルヘキモノトス

一九三六年十一月二十三日附協定及同附屬書竝ニ一九三七

年十一月六日附議定書ハ附屬文書トシテ本議定書ニ添付セ

ラル

本議定書ノ獨逸語、伊太利語、日本語及洪牙利語ノ内容ハ

同様ニ拘束力ヲ有スルモノニシテ調印ノ日ヨリ效力ヲ發生
ス

右證據トシテ下名ハ本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定

書ニ署名調印セリ

何年何月 二於テ

~~~~~

37 昭和14年1月10日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ハンガリーの早期防共協定参加を独伊希望に

つきわが方対処振り請訓

ベルリン 1月10日後発

本省 1月10日後着

☆  
第三〇號(大至急、極秘)

往電第二八號ニ關シ

ハ九日伊太利側ヨリ往電第二九號議定書案ニ付至急日本側

ノ意見ヲ承知シタク日本側ニテ賛成ナルニ於テハ洪牙利

ヲシテ防共協定加入ノ意思ヲ本月日同國議會ニ於テ(議

員ノ質問及外務大臣ノ答辯ノ形式ニ於テ)發表セシメタ

シトノ意見ヲ申越シ更ニ「ワイスセツカー」外務次官ノ

許ニ於テ本使及在當地伊太利ト三人本件ニ付會談セルカ  
獨逸側モ右伊太利側ノ希望ヲ支持セリ(右ノ如ク伊太利  
及洪牙利カ急キ出シタル理由トシテ獨逸側ノ極秘ニ洩ラ  
ス所ニ依レハ右ハ洪牙利ノ内政及歐洲ノ政情ニ依ル次第  
ナルカ殊ニ伊太利トシテハ「チエンバレン」首相ノ羅馬  
訪問ニ當リ洪牙利ノ加入ノ既成事實ヲ突付ケルコトヲ特  
ニ希望スルニ出ツル模様ナリ)

二、右ニ對シ本使ヨリ歐洲ノ特殊ノ情勢ニ基ク獨伊ノ希望ハ  
諒トスルモ本件ニ付テハ日本政府ノ意嚮ヲ承知セス又洪  
牙利カ聲明スル以上滿洲國ノ聲明スルコトヲ欲スルヤモ  
知レス議定書案決定ノ手續上ヨリ言フモ十二日迄ニハ到  
底間ニ合ハサルヲ以テ右期日ハ延期セラレタシト述ベタ  
ルニ獨伊側ハ本件ハ歐洲政治ノ現實ノ發展ヨリ出テタル  
モノナルニ付特ニ日本側ニ於テモ同情的ノミナラス(脱)  
了解セラレタク是非一應東京ニ請訓セラレタシ又議定書  
ノ調印ハ多少ノ日數遅レテ滿洲國ト同時ニ調印スルコト  
勿論ナルモ議定書案ノ趣旨ハ右洪牙利發表前ニ決定シ洪  
牙利ニ内示シ置クコト後日ノ面倒ヲ避クル上ヨリモ必要  
ナリト説明セリ

三、右獨伊申入ハ甚タ突然ノコトナルカ右ハ上述ノ如ク歐洲  
特殊ノ政情ヨリ出ツルモノニシテ我方トシテ差支ナキニ  
於テハ好意的ニ取扱フコト然ルヘシト認メラルル處我方  
(及滿洲國)ニ於テ冒頭往電ノ議定書案ニ大體賛成ナルニ  
於テハ此ノ旨ヲ獨伊(及洪牙利)ニ通報シテ洪牙利ノ參加  
ノ聲明ヲ行ハシメ(滿洲國モ聲明スルコト可ナル場合ニ  
ハ之ヲ行フ)調印ハ其ノ後成ルヘク速ニ新京及「プタベ  
スト」ニ於テ同時ニ行フ様手續ヲ進ムルコトトシテハ如  
何カト存ス就テハ獨伊ニ對スル回答ノ都合モアリ日時切  
迫シ居ルニ付折返シ何分ノ御回電アリタシ

四、又同案ニ依ル場合將來他ノ國ノ加入ニ付テハ同様ノ趣旨  
ノ議定書ヲ既加入國ヲ加ヘタル締約國全部ト新加入國ト  
ノ間ニ締結セントスル大體ノ考ナリ(尤モ議定書用語ハ  
日獨伊ト新加入國ノ言葉ニ限ルコト然ルヘシ)

伊、洪へ轉電セリ

~~~~~

38 昭和14年1月16日

滿州国およびハンガリーの防共協定への参加

表明に関する情報部長談

(昭和十四年一月十六日)

滿洲國及洪牙利國ノ防共協定參加ニ關スル

外務省情報部長談

新春劈頭防共協定原署名國タル日獨伊三國ノ共同勸誘ニ從ヒ滿洲國及洪牙利國カ相繼イテ新タニ本協定ニ參加ノ意向ヲ表明シタコトハ特筆スヘキ國際情勢ノ一發展テアル抑モ「コミンテルン」ハ各國ノ歴史ト文化トヲ抹殺シ秩序ノ破壞ヲ企圖スル人類共同ノ敵ト謂フヘク夫レ故ニ世界ノ孰レノ地域ニ於テモ其存在ヲ許容サレサルモノテアツテ各國カ相携ヘテ其絶滅ヲ期スルノハ當然ノコトテアル

「コミンテルン」ハ曩ニ西班牙及中部歐羅巴ノ赤化ヲ企テタカ獨伊ノタメ擊攘セラレ又英佛等ニ於テモ民主主義ヲ擬裝シ國內ノ左翼分子ヲ煽動シテ全國の赤化ヲ陰謀シタルタメ最近是等國家ノ強キ嫌惡ヲ買ヒ今ヤ反共機運ハ全歐ニ鬱然トシテ起リ茲ニ洪牙利國カ卒先防共ノ一翼トシテ參加ヲ見ルコトトナツタ次第テアル

又一方東亞ニ於ケル赤化ノ脅威ニ對シテハ我國ハ先ツ起ツテ防止ノ任ニ膺リ居ルコト言フ迄モナク今ヤ滿洲國ノ加盟

ヲ迎ヘントシ歐亞ニ亘ル防共陣營ハ新タニ強化サレタノテアル

東亞新秩序建設ノ巨歩ヲ歩ミ出シタ我國トシテハ「コミンテルン」清掃ノタメ防共ノ兩翼ヲ東西ニ加ヘタコトヲ深ク慶賀スル次第テアツテ之ヲ第一段階トシテ今後世界各地域ニ於テ續々志ヲ同フスル參加國ノ現ハルルコトヲ信シテ疑ハナイ



39 昭和14年1月22日

防共協定強化問題に関する有田外相内奏要旨

●昭和十四年一月二十二日日獨伊防共協定

強化ニ關スル有田大臣内奏要旨

日獨伊防共協定強化ノ問題ハ客年五相會議ニ於テ蘇聯ニ對スルヲ主トシ英佛等ハ蘇側ニ參加スル場合ニ於テ對象トナルモノニシテ英佛等ノミニテ對象トナルモノニ非サル主旨ヲ決定シ宇垣外務大臣ヨリ内奏ヲ經タリ然ルニ五相會議決定ノ主旨充分ニ出先ニ徹底セサリシ結果今回獨伊側ヨリ日獨伊三國同盟案ヲ正式ニ提案(提案内容内奏ス)シ來リタル

ニ依リ先般來關係各大臣ニ於テ熟議ヲ重ネタル結果本月十九日別紙^{編注}ノ通り政府ノ方針ヲ決定セリ(方針内容内奏ス)

抑モ今次ノ日本案ハ前回ノ五相會議決定ノ主旨ニ變更ヲ加ヘ「コミンテルン」ノ破壊工作ト關係ナキ場合ニモ共同ノ利益ヲ擁護スル必要アル場合ニハ蘇聯以外ノ第三國ヲモ對象トスルコトトシタルモノナルガ若シ前回ノ五相會議決定ノ主旨ヲ貫徹セントスレハ從來ノ經緯ニ鑑ミ獨伊側ニ對スル日本ノ不信行爲トモナルヘク其ノ結果ハ折角樹立サレ居ル右兩國トノ親交關係ニモ惡影響ヲ及ホスヘキコトヲモ考慮シ獨伊案ノ主旨ヲ取入レタルモ實質的ニ出來得ル限り我國ノ蒙ルコトアルヘキ不利ヲ少ナカラシムルコトニ努ムル一方外部ニ對シテハ防共協定ノ強化ニ外ナラサル様説明シテ第三國ヨリ來ルコトアルヘキ惡影響ヲ少カラシメタルモノナリ

尙蘇聯以外ノ第三國ト「コミンテルン」ノ破壊工作ニ對スル以外ノ理由ニテ獨伊カ交戦スル場合ニ於テハ現在ハ勿論近キ將來ニ於テモ武力的援助ハ實際ニ於テ之レヲ與ヘサル方針ナリ

編注 別紙は見当らない。本書第40文書別紙甲号と同文。

40

昭和14年1月26日

有田外務大臣より
在伊国白鳥(敏夫)大使、在独国大島大使宛

協議および相互援助に関する日独伊協定の締結に関する訓令

昭* 昭和十四年一月二十六日

外務大臣 有田 八郎

在伊

特命全權大使 白鳥 敏夫殿

在獨

特命全權大使 大島 浩殿

協議及相互援助ニ關スル日獨伊間協定締結方ニ

關スル訓令

一、客年八月二十六日五相會議ニ於テ本件協定締結方ニ關スル方針ヲ決定スルニ當リテハ新協定ハ飽ク迄防共協定ノ延長ニシテ其ノ趣旨ヲ逸脱スヘカラストノ建前ノ下ニ強化方ヲ考慮シ從テ新協定ハ蘇聯邦ト關係ナキ場合ニ於テ

英佛等ノミヲ對象トシテ適用セラルルカ如キモノニ非スト爲セリ蓋シ東亞ノ安定力タル帝國ノ地位ヲ確立シ且帝國ノ企圖シツアル東亞ノ新秩序建設ニ對スル諸施策ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルカ爲ニハ一方帝國ニ直接關係ナキ歐洲問題ニ介入スルコトヲ避クルト共ニ他方英米等ヲ此ノ上帝國ノ敵方ニ廻ラシムルカ如キ事態ノ釀成ヲ避クルコト極メテ必要ナルカ故ニ日獨伊三國提携ノ強化ハ茲暫ク防共ノ範圍ニ止ムヘク全面的同盟條約ハ帝國ノ立場ヨリ見テ不得策ナリトセルモノナリ

二、然ルニ上述ノ如キ五相會議ノ意圖ガ明瞭ニ出先ニ徹底セラレサリシ結果獨伊側ヨリ三國同盟ノ提出ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ政府ニ於テハ前回五相會議ノ決定ヲ變更スルコトニ付一方ナラサル困難ヲ感シタルモ假令行違ニ基クトハ云ヘ苟モ獨伊側ヲシテ日本ノ方針ヲ誤解セシメタルモノナル以上前回ノ五相會議案ヲ其ノ儘主張スルコトハ穩當ナラスト云フニ決シ關係各大臣ニ於テ熟慮ヲ重ネタル結果本月十九日漸クニシテ別紙甲號政府方針ヲ決定シ右ニ基キ帝國政府案別紙乙號ノ通立案セリ

三、今次ノ日本案ハ「コミンテルン」ノ破壞工作ト關係ナキ

第三國ヲモ對象トスルコトトシテ獨伊案ノ主旨ヲ取入ルト共ニ實質的ニ出來得ル限り我方ニトリ有利ナラシメタル一方外部ニ對シテハ防共協定ノ強化ニ外ナラサル様説明シテ第三國ヨリ來ルコトアルヘキ惡影響ヲ少ナカラシメムトスル折衷案ニシテ甲號決定ハ諸般ノ關係上絕對ニ變更ヲ許ササル事情ニアルモノナリ依テ貴大使ハ右ノ事情ヲ諒トセラレ別紙ニヨリ獨伊側ト接衝ヲ遂ケラレ協定締結ノ運ヒトナル様御努力相成度シ

四、尙現存日獨防共協定ハ表面反「コミンテルン」政策ヲ標榜シツツ裏面蘇聯邦ニ對スル日獨共同ノ壓力ヲ覘ヒ締結セラレタルモノナルモ其ノ實際上ノ運用ニ於テハ條約ノ文言ニ關係ナク日獨間各種ノ問題ニ付兩國協力ノ實ヲ擧ケ來レルモノニシテ此ノ點ハ伊國ノ參加ニヨリテ一層強力ノモノトナリタルコト御承知ノ通ナリ申ス迄モナク此種協定ノ重要性ハ協定面ノ文言ニ非スシテ協定締結ニヨリテ進メラルル締約國間政治の提携關係ノ緊密化ニアリ現ニ日獨伊三國共現存防共協定ノ運用ニヨリ夫々充分ナル政治の效果ヲ擧ケ第三國ニ對シ相當ノ睨ミヲ效カシ居ル實情ナリ從テ今次協定ヲ表面上防共ノ範圍内ニ於ケル

強化ノ程度ニ止ムルトスルモ右ノ運用ニヨリ對英佛關係ニ於テモ充分ナル政治的壓力トナリ得ルモノト確信スルモノナリ然レトモ同盟關係ノ強ク現レ居ル條約ヲ以テ歐洲外交ノ懸引ニ利用セント考ヘ居ルヤニ認メラルル獨伊トシテハ今更表面ヲ防共協定ニ「カモフラージュ」セントスル案ニハ同意ヲ盡ルヘキハ想像スルニ難カラサル所ナルモ前述ノ如ク運用ニヨル政治的妙味ヲ充分期待シ得ルモノナルニ付テハ説明ノ仕様次第竝ニ努力如何ニテハ先方ヲ納得セシムルコト決シテ不可能ニアラスト思考スルモノナリ

五、別紙乙號協定案ニ關シテハ委細別添説明書ニヨリテ承知セラレ度キ處

(イ)了解事項ニ及ニハ帝國政府ニ於テ絶對緊要ト思考スル所ニシテ形式ハ了解事項ナルモ性質上議定書ト何等輕重ニ差異ナキモノナリ

(ロ)本協定發表ノ時期ニ關シテハ帝國ハ帝國獨自ノ立場ヨリ見たル内外ノ情勢ヲ篤ト考慮シ獨伊側ト協議ノ上其時期ヲ決定シ度キ意嚮ナリ(御承知ノ通帝國ハ現ニ蘇聯邦トノ間ニ漁業條約締結ノ交渉ヲ行ヒツツアル處此

關係ニ於テモ現存日獨防共協定締結當時ニ於ケル經驗ニ鑑ミ本協定發表ノ時期ハ右漁業條約又ハ暫定取極調印後若ハ全然其見込ツカサルニ至リタル後トスルコト萬事好都合ナリト思考ス)此點ニ關シテハ追テ何分ノ儀改メテ訓令スヘシ

別紙甲號

日獨伊三國協定方針

一、對象 象「ソ」ヲ主タル對象トスルコトハ固ヨリナル

モ狀況ニ依リ第三國ヲモ對象トスルコトアルヘシ

二、武力援助 「ソ」ヲ對象トスル場合ハ之ヲ行フコト勿論

ナリ

第三國ヲ對象トスル場合ハ之ヲ行フヤ否ヤ

及其ノ程度ハ一二情況ニ依ル

一、締結時期 成ルヘク早キヲ要ス

二、發表時期 協議ノ上適當ノ時期ヲ選フ

三、有効期間 五年

四、第三國ヘノ説明 「コミンテルン」ヲ對象トスト説明ス

別紙乙號

協議及相互援助ニ關スル日本國、伊太利國及獨逸國

間協定(案)

大日本帝國政府

伊太利國政府及

獨逸國政府ハ

日本國、伊太利國及獨逸國間ノ友好關係ガ千九百三十六年

十一月二十五日ノ共產「インターナシヨナル」ニ對スル協

定締結後一層増進セラレタル事實ニ鑑ミ

共產「インターナシヨナル」ノ國際的活動ガ「ヨーロッパ」及「アジア」ニ於ケル平和ヲ脅威スルモノナルコトヲ

確信シ

前記協定ノ精神ニ從ヒ、「ヨーロッパ」及「アジア」ニ於

ケル共產主義的破壊ニ對スル防衛ヲ鞏固ニシ且三締約國ノ

共通利益ヲ擁護センコトヲ決意シ

左ノ通協定セリ

第一條

締約國ノ一ガ締約國ニ非ザル一又ハ多數ノ第三國ノ態度ニ

依リ困難ニ遭遇スルニ至リタル場合締約國ハ共同シテ執ルベキ措置ニ付直ニ協議ニ入ルモノトス

第二條

締約國ノ一ガ締約國ニ非ザル一又ハ多數ノ第三國ヨリ挑發

ニ因ラザル脅威ヲ受ケタル場合他ノ締約國ハ右脅威ヲ受ケ

タル國ニ對シ右脅威ヲ排除スル爲政治的及經濟的支持ヲ與

フベキコトヲ約ス

第三條

締約國ノ一ガ締約國ニ非ザル一又ハ多數ノ第三國ヨリ挑發

ニ因ラザル攻撃ヲ受ケタル場合他ノ締約國ハ之ニ助力及援

助ヲ與フベキコトヲ約ス

三締約國ハ右ノ場合ニ於テ前項ノ規定ニ基ク義務履行ノ爲

必要ナル措置ニ付直ニ協議決定スベシ

第四條

本協定ハ日本語、伊太利語及獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス

本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベク且五年間效力ヲ有ス

締約國ハ右期間滿了前適當ノ時期ニ於テ爾後ニ於ケル協力

ノ態樣ニ付了解ヲ遂ゲベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協

定ニ署名調印セリ

年 月 日

ニ於テ本書三通ヲ作成ス

署名議定書

本日、、、、、協定ニ署名スルニ當リ下名ノ全權委員ハ
左ノ通り意見一致セリ

(イ)協定第二條及第三條ニ關シ

千九百三十二年九月十五日日本國及滿洲國間ニ締結セラ
レタル議定書第二項ノ規定ニ鑑ミ滿洲國ノ受クルコトア
ルベキ脅威又ハ攻撃ハ日本國ニ對スル脅威又ハ攻撃ト見
做サルベキモノトス

(ロ)協定第四條第二項ニ關シ

協定ノ期間滿了ニ當リ協定第二條又ハ第三條ニ基ク支持
又ハ助力及援助ノ與ヘラレ居ル場合ニ於テハ協定ハ右支
持又ハ助力及援助ヲ必要トセル事態ノ終熄スル迄引續キ
效力ヲ有スルモノトス

年 月 日

ニ於テ

祕密附屬議定書

本日、、、、、協定ニ署名スルニ當リ下名ノ全權委員ハ
左ノ通協定セリ

(イ)協定第二條及第三條ニ關シ協定ノ效力發生後成ルベク速

ニ三國當該官憲間ニ於テ豫メ箇々ノ紛争ノ可能性ト共ニ

締約國ガ各其ノ地理的狀態ニ應ジ如何ナル性質及如何ナ

ル範圍ノ支持又ハ助力及援助ヲ與フベキカヲ審議スベシ

(ロ)締約國ガ共同シテ戦争ヲ爲ス場合ハ締約國ハ單獨ニ休戰

又ハ講和ヲ爲サザルベキコトヲ約ス

(ハ)締約國ハ締約國ニ非ザル第三國トノ間ニ現存スル條約ニ

基ク義務ニシテ協定ノ條文ニ牴觸スルガ如キモノアル場

合ハ右義務ニ拘束セラレザルモノトス

(ニ)本祕密附屬議定書ハ締約國ノ合意ナキ限り公表セラレ又

ハ第三國ニ對シ通告セラレザルモノトス

(ホ)本祕密附屬議定書ハ協定及署名議定書ト同一ノ期間效力

ヲ有シ且之ト不可分ノ一體ヲ爲スモノトス

祕密了解事項(案)

本日、、、、、協定ニ署名スルニ當リ下名ノ全權委員ハ
左ノ通一致セリ

- 細亞ニ於ケル三締約國ノ共同利益保護ノ爲ニ同盟條約ヲ締結スル」ヲ目的トスルノ趣旨ヲ宣明スルニ對シ日本案ハ本協定ガ「防共協定ノ精神ニ從ヒ共產主義的破壊防衛並ニ三締約國ノ共通利益ヲ擁護セントスル」モノナルコトヲ明ナラシムルモノナリ。即チ日本案ハ本協定ガ何處迄モ防共協定ノ延長ナリトノ建前ヲ執ルモノニシテ固ヨリ協定條文ハ蘇聯以外ニモ適用アルモ表面ハ飽迄防共トナスコトヲ明ニスルモノナリ
- 此ノ點ニ關シ獨伊側ヨリ修正意見出ヅベキコト豫想セラルルモ公表説明ニ關スル祕密了解事項(九)(四)ト相俟テ我方トシテハ諸般ノ關係上本案ヲ飽迄堅持スルモノナリ
- (三) 第一條
日獨兩案トモ同ジ
- (四) 第二條
獨案ニハ單ニ「脅威ヲ受ケタル場合」トアルニ對シ日本案ハ「挑發ニ因ラザル」ノ字句ヲ冠シ飽迄防守的ナル點ヲ闡明ニス
- (五) 第三條

- (イ) 第一項ハ獨案ニハ「有ラユル使用シ得ル手段ヲ以テ」ナル字句アル以外日本案モ同一趣旨ナル^(リカ)
- 日本案中ニハ「有ラユル使用シ得ル手段」ナル字句ヲ使用セザル理由ハ右字句ハ一見一層意味ヲ強ムル字句ナルガ如キモ他面ニ於テ「使用シ得ルヤ」否ヤハ援助ヲ與フル國自体ノ判斷ニ係ルヲ以テ寧ロ制限のニモ解シ得ラルルモノナルニ依ル。斯ル字句ヲ用ヒズ總括的ニ義務ヲ定メ置クヲ以テ充分ト認ムル次第ナリ
- (ロ) 第二項ニ關シテハ第一項ノ義務發生スル場合右義務ヲ履行スルニ必要ナル措置ニ付協議決定スルノ趣旨ニシテ日獨兩案トモ同趣旨ナルガ獨案中ニハ「協議決定」ノ代リニ「共同ニ確定」ト云ヘリ。日本案ニ「協議」ノ字句ヲ使用スルハ三國ガ「直ニ」接觸ヲ保チ決定ニ達スベシ意ヲ表ス爲ナリ。尙本項ハ一面ニ於テ祕密議定書(イ)項ニ於テ事前ニ支持又ハ助力及援助ノ實行方法ヲ審議決定シ置クコトトナリ居ルヲ「カムフラージユ」セントスルノ意味モアル次第ナリ
- (六) 第四條
- (イ) 獨案第五條ハ協定ノ效力ニ關シ期間ヲ十年トシ滿了前

一年ノ豫告ヲ以テ廢棄ノ通告ナキ時ハ更ニ五年間效力ヲ存續スルコトトナリ居ル處今日ノ國際情勢ニ鑑ミ十年間ノ期間ハ長キニ失スルノ懸念アリ日本案ハ有效期間ヲ五年トシ防共協定ノ例ニ倣ヒテ期間滿了前了解ヲ遂グルコトトセリ

(ロ) 尙本協定ヲ獨案ノ如ク批准條項付トナス場合ハ調印時期ヲ早メ且ツ我方國內手續上正確ヲ期シ得ル點等ニ於テ有利ナルガ如キモ他方獨伊側ノ主トシテ期待シ居ル點ガ條約ノ公表ニヨル政治的效果ナルベキコトヨリ考フレバ何カノ都合ニテ批准ノ遅ルルコト等モ考慮セラレ我方トシテ好マシカラザル事態トナルノ惧レモアリ諸般ノ事情ヲ考慮シ調印ト同時ニ發效セシムルヲ必要ト認メタルモノナリ

又調印ト發表トノ關係ニ關シ漁業交渉トノ關係等ヨリ我方トシテハ發表時期ニ付希望アリ、然ルニ調印シタル後發表ヲ差控ヘ居ル時ニ外部ニ漏洩スル惧大ナルヲ以テ結局調印直後發表ノコトトスルヲ得策トスヘキニ鑑ミ我方國內手續ニ要スル期間等ヲモ見込ミ調印前御裁可ヲ求ムル形式ガ我方ヨリ見テ最モ好都合ナル次第

ナリ

其ノ他例文ハ成ルベク防共協定ノ例ニ據ル。

(七) 署名議定書

(イ) (イ) 項ノ規定ハ帝國ノ蘇聯邦ヨリ受クルコトアルヘキ攻撃及脅威ハ蘇滿國境方面ニ最モ可能性多キ次第ナルニ鑑ミ將來ノ誤解ヲ避クル爲設クルコトヲ適當ト認メタルモノナリ

(ロ) (ロ) 項ノ規定ハ協定效力ノ問題ト關連シ祕密議定書中ニ單獨不講和ニ關スル條項ヲ設クルニモ鑑ミ戰爭以外ノ場合ヲモ考慮シ存置ヲ適當ト認メタルモノナリ

(ハ) 尙本署名議定書ハ協定ト共ニ公表セラルルモノナルカ獨伊兩國側ニ於テ例ヘバ(イ) 項日滿關係ニ類似スルガ如キ問題アリテ本署名議定書中ニ何等カノ條項設置ヲ希望スル場合ニハ之ヲ排除セントスルモノニ非ズ獨伊側ヨリ申出アル場合ハ理由ノ如何ニ依リ考慮ノ餘地アル次第ナリ

又本議定書ハ祕密議定書ノ存在ヲ幾分「カムフラージュ」セントスル意味ヲモ有ス

(ハ) 祕密附屬議定書

(イ) 項ハ協定成立后三國當該官憲間ニ於テ協定第二條ニ規定スル政治的及經濟的支持、第三條ニ於テ規定スル助力及援助ニ關シ豫メ審議シ置クノ趣旨ニシテ獨側提案ノ趣旨トモ合致スルモノナリ、尙我方ニ於テハ助力及援助ノ中兵力的援助ノ義務ハ蘇聯ガ單獨ニ又ハ第三國ト共同シテ締結國ヲ攻撃シタル場合ニ限ルノ方針ニシテ右ノ點ヲ祕密了解事項中ニ明ニシ置クノ方針ナルコト後述(九)ノ通ナリ

尙獨側提案ハ外務大臣又ハ其ノ代表者ノ常設委員會ヲ設置スルノ案ナルガ我方トシテハ大体外務大臣ノ參加ヲ不可能トスル以上常ニ代表者ノ出席トナルベク外務大臣ノ代表者ナル資格ニ疑義アルノミナラズ獨伊ハ常ニ外務大臣ノ出席ヲ見ルコトトナルベク本協定ノ實施以外ノ點特ニ急速ヲ要スル事項ニ於テ常ニ獨伊側ノ意圖ニ引摺ラルルノ危險モナキニ非ズ、當該官憲間ノ協議ヲ以テ充分ト認ムル次第ナリ

又通信統制ニ關スル委員會設置モ獨伊ト事情ヲ異ニスル我方ニ於テハ多大ノ困難アルト共ニ其ノ必要ヲ認め居ラズ

(ロ) 項ハ獨案中ニハ公表セラルベキ條項トシテ基本協定中ニ之ヲ存スルモ右ハ協定ノ宣傳的效果ヲ偏重スル見地ヨリスレバ三國ノ共同戰爭ヲ豫見セシメ如何ニモ強力ナルコトヲ誇示スルモノトシテ有效ナリトモ考ヘラルベキモ我方トシテハ本協定ヲ表面飽迄防守のナル協定トスルノ建前ナルヲ以テ積極の二戰爭ヲ豫想スル條文ハ面白カラズト認め祕密議定書中ニ存置セシメ其ノ實質の内容ニ重キヲ置クコトトシタルモノナリ

獨案中ニハ「本條約ニ基キ共同ニ遂行セラルル戰爭」トアル處日本案ニハ單ニ「共同シテ戰爭ヲナス」トアリ右ハ特ニ大ナル意味アル次第ニハ非ルモ本協定ノ直接效果トシテ豫見セラルルハ蘇聯ヲ含ム戰爭ノミナルモ蘇聯ヲ含マザル場合ニモ間接ノ效果トシテ共同ニ戰爭スル場合モアリ得ベキニ依リ「本條約云々」ヲ削除セルモノナリ

(ハ) 項ハ伊蘇及獨蘇中立條約、「ラツパロ」條約等ヲ考慮セル規定ニシテ日獨防共協定附屬交換公文ト同様ノ趣旨ニ出ヅ

(ニ) 項及(ホ) 項ハ特ニ説明ヲ要セサルベキモ夫々存置ヲ適

當ト認ムルモノナリ

(九) 祕密了解事項

(イ) 了解事項(一) 第一項ハ兵力の援助ノ義務ヲ負フハ蘇聯ガ單獨ニ又ハ第三國ト共同シテ締約國ノ一ヲ攻撃シタル場合ニ限ルノ趣旨ヲ明トスルモノニシテ我方ノ最重要視スル條項ナリ

本了解ハ二個ノ重要ナル意義ヲ有ス第一ニ我方ハ本協定締結ニ當リ飽迄蘇聯ヲ主タル目標トスルヲ必要ト認ムルモノナルガ本協定ノ建前上協定ノ各條項ハ蘇聯ト蘇聯以外ノ第三國トヲ區別シ居ラズ從テ協定第一條、第二條ハ何レモ英佛等ヲ對象トスル場合ニモ適用アル次第ナルガ第三條ノ助力及援助ノ中兵力の援助ノ義務ニ關シテハ我方ハ蘇聯又ハ蘇聯ノ參加アル場合ニ留保シ置カントスルモノナリ。第二ニ從來獨逸側ヨリ提示セラレタル案ハ協定ノ公表ガ世界ニ與フル影響ヲ以テ最大ナル效果トナシ協定ノ實施自体ヨリ來ル效果ハ之ヲ稍閑却シ居レルノ感アリ即チ獨逸側第一次案ハ援助義務ヲ公表セラルル基本協定中ニ規定シ置キツツ裏面ノ議定書中ニ於テ委員會ノ合意成立迄何等ノ援助義務發

生セザル建前トナリ居リ又今次提案ニ於テハ此ノ點ヲ改メタルモ批准條項附トナリ居ル等我方ガ日獨伊三國協定ヨリ期待スル所ト相距ルコト遠キモノアリ、我方トシテハ少クトモ對蘇聯關係ニ於テ獨逸側ヲ兵力の援助ニ付テモ拘束シ置クノ必要アリ從テ前記第一ノ點ト併セ本條項ヲ絕對必要トスル次第ナリ、本項ノ設置ニ關シテハ獨伊側ノ反對存スベキコト豫測ニ難カラザルモ我方トシテハ蘇聯ノ關係スル場合以外ニ付テハ兵力の援助ノ義務ヲ負ハザル方針ヲ決定シ居ル以上之ヲ獨伊ニ明ニセズシテ協定ヲ締結スル事ハ將來ノ禍根ヲ遺スモノトシテ採リ得ザル所ナリ、將又右ノ點ハ祕密議定書(イ)項ニ豫見セラルル當該官憲間ノ協議ノ際ニ讓ルモ可ナルベシトノ論モ立チ得ベキ處右ノ不可ナルハ基本トナル協定中ニ標準ヲ明示セズシテ細目協定ニ入り得ザルコトヨリ明ナリ且ツ右了解ナキ限り獨伊側ヨリ各種ノ注文ヲ付ケ來ル間隙ヲ與フベシ

尤モ本了解事項ニ關シ例ハバ伊國側ヨリ蘇聯ガ單獨ニ對象トナル場合ハ兵力の援助ノ義務ヲ負ハザル趣旨ノ留保ヲナスコトモ有り得ベク我方トシテハ此種申出ア

ル場合考慮ノ餘地アルモノト認メ居レリ

尙第二項ハ蘇聯ノ参加ナキ場合ニ於テモ狀況ニ依リテハ兵力的援助ヲ與フル可能性アルコトヲ明ニスル爲一項ヲ設ケタルモノナリ

(ロ)了解事項(二)モ(一)ト同様ニ我方ノ最重視スル所ニシテ當初防共協定ノ延長トシテ日獨伊間ニ協定ヲ締結スルヲ企圖シ居タル我方トシテハ協定ガ實質的ニハ蘇聯邦以外ノ國家ヲモ對象トナスコトニ決定シタル今日ニ於テモ尙外部ニ對スル説明ニ當リテハ防共協定ノ延長トシテ説明シ以テ英、米、佛等ヲ不當ニ刺戟セザル様措置スルヲ必要ト認ムルモノナリ(基本協定前文ヲ防共ノ範圍ニ限リタルモ亦此主旨ニ出ヅ)、本了解事項ニ付テハ獨伊側ニ多大ノ難色アルベキモ假令防共ヲ目標トスルモ英佛等ニ對スル示威ハ十分其目的ヲ達シ居ル事今日迄ノ例ニヨリテモ明ナル次第ニ鑑ミ獨伊側ニシテ右ヲ納得セシムルコト可能ナルベク我方トシテハ右以上ニ進ンデ英佛等ヲモ對象トスルコトヲ明ニスルコトニハ同意シ得ズ

編注 本訓令は伊藤述史公使が携行して訪独し、白鳥・大島

両大使へ手交した。

~~~~~

41 昭和14年1月28日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 独ソ接近に関する英国紙報道について

ロンドン 1月28日後発

本省 1月29日前着

第八九號

一般的情報

往電第七二號ニ關シ

二十八日「クロニクル」(「バーノン、バートレット」)ハ致國問題以來英佛兩政府ニ於テ蘇聯ヲ冷遇シ最近ノ英佛、英伊會談等ノ内容モ何等蘇聯ニ通報セラレス右ハ痛ク蘇聯ヲ失望セシメタルカ他方獨逸ハ東歐進出ノ野心ヲ有シ西部國境ノ安全ヲ計ル爲蘇聯ノ好意的中立ヲ買ハント欲シ居ルニ付獨蘇通商交渉ノ成行ハ深甚ナル注意ヲ要スル處獨逸ハ蘇聯ノ觀心ヲ得ル爲防共協定軍事化ヲ延期スルモ可ナリト申入レタリト仄聞ス右ハ「ヒトラー」ノ反共思想根強キモノ

アルニ鑑ミ一見信シ難キヤニ想像サレ勝チナルモ蘇聯ノ肅清ニ依リ反獨分子既ニ除去セラレタリト言フカ如キ理由ノ下ニ蘇獨ノ握手スルコトハ必スシモ不可能事ニアラス獨逸軍部カ獨蘇同盟ヲ希望シ居ルハ周知ノ事實ニシテ此ノ點ニ關聯シ最近「フエルキシア、ベオバハター」ニ著名ナル獨逸將校カ蘇聯陸軍ヲ稱讃セル論文ヲ寄稿セルハ注意ニ値スト報シ尙社説ヲ掲ケ英、佛ハ蘇聯ヲ輕視シ過キタル爲今ヤ蘇獨ノ接近ヲ齎スニ至レリトテ政府ノ對蘇政策ヲ攻撃セリ尙「タイムス」ノ「ワルソー」通信ハ蘇聯報道ニ依レハ今次交渉ハ獨逸側ヨリ提議セルモノノ由ナリト報ス

在歐各大使、壽府へ郵送セリ

42 昭和14年1月31日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

## 日伊兩國との友邦關係を強調したヒトラーの

### 演説要旨

ベルリン 1月31日前発  
本省 1月31日後着

第八六號

「ナチ」政權獲得六週年記念國會ニ於ケル演説ニ於テ「ヒ」<sup>(1)</sup>總統ハ大獨逸國完成ニ至ル經過ヲ述ヘ「デモクラシー」諸國ノ反獨態度反獨宣傳ニ對シ痛烈ナル反駁ヲ與ヘ植民地問題力依然獨逸國ノ生活ニ關スル問題ナルコトヲ強調シタル後國內ノ經濟宗教猶太人諸問題ニ關スル所見ヲ發表シ最後ニ外交ニ關シ先ツ日伊兩國力獨逸ニ取り極メテ心強キ友邦ナルコトヲ強調シ要旨左ノ通り述ヘタリ

「歴史的文化的ニ結付クヘキ運命ニアリタル「ヂャーマン」及羅馬民族ハ「ファッショ」及「ナチ」ノ治下ニ於テ完全ニ結付キタリ今日世界ハ一九三八年伊太利力獨逸ニ對シ示シタル好意ニ對シ獨逸ハ今後伊太利力如何ナル理由動機カラニセヨ攻撃セラレタル場合斷然伊太利側ニ立ツヘキコトヲ決心セルコトヲ知ルヘキナリ獨逸ノ軍備ノ優秀ナルト同様伊太利軍備ノ優秀ナルコトハ既ニ「アビシニア」及西班牙紛爭ニ於テ明瞭ニ示サレタリ伊太利及獨逸力共同スルニ於テハ如何ナル紛爭モ恐ルル必要ナク平和ヲ保障スルニ最モ有效ナルヘシ獨逸ハ決シテ戰爭ヲ望ムモノニハアラスモ今日世界資源ニ對シ獨逸ノ國力ニ相應スル參加ヲ要求シ獨伊共同ノ利益ヲ共同ニ擁護

セントスルモノニシテ如何ナル脅威ヲモ恐レス

二、<sup>(2)</sup>日本トノ關係ハ「ボルシエヴィズム」ノ脅威ヲ除カントスル決心ニ依リ結ハレタリ防共協定ハ平和ト文化ノ脅威ヲ殲滅セントスル國家聯合ノ結合點トナルヘシ既ニ二箇年ニ亘ル聖戰ニ於テ輝カシキ戰績ヲ殘シタル日本國民ハ東洋ニ於ケル文化ノ擁護者ニシテ其ノ敗北ハ東洋ノ共產化ヲ意味シ歐洲及他ノ國家ニ取ツテモ有益ナルコトニアラス

三、英佛ニ對シテハ植民地返還ノ要求アルノミニシテ外ニ何等領土的ノ要求ヲ有セス

四、其ノ他波蘭、洪牙利、勃牙利、羅馬尼、希臘、土耳其ニ對スル關係及西方諸國瑞西、白耳義、和蘭、丁抹、瑞典、芬蘭、「バルト」諸國ニ對スル關係モ頗ル良好ナリ

五、洪牙利、滿洲國ノ防共協定參加ハ世界平和ノ維持ニ鑑ミ頗ル喜フヘキ事實ナリ

六、南米ニ對スル關係モ良好ナリ北米ノ昨今ノ反獨宣傳ハ極メテ遺憾トスル所ナルモ斯ル傾向ハ決シテ米國民ノ全般ノ意思ト一致スルモノニハアラス



43 昭和14年1月31日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

フランコ政権の防共協定参加につきドイツ側  
よりわが方意向を打診について

ベルリン 1月31日後発

本省 2月1日前着

●第九二號(極秘)

三十一日「スターマー」「リツペントロツプ」外相ノ命ヲ受ケ本使ヲ來訪シ獨トシテハ「フランコ」政府ノ防共協定參加ニ關シ大體該政府ノ勝利確實ナル見込立チタル時期ヲ目度ト見テ注意シ居リタルカ「バルセロナ」ノ陷落ニ依リ「フランコ」ノ西班牙統一確實トナリ且英國カ經濟援助等ノ方法ニテ「フランコ」ニ接近ヲ試ミ「フランコ」政府ノ防共協定參加ヲ妨害スル惧ナシトセサルヲ以テ現在コソ「フランコ」政府ノ防共協定參加ヲ勸誘スヘキ絶好ノ機會ト思考ス本件ニ關シ伊國側ニハ正式ニハ申入レ居ラサルモ大體贊成ノ模様ナリ就テハ日本側ニテモ右ニ御贊成ナラハ獨側ニ於テ「フランコ」側ノ意嚮ヲ確メタク先ツ日本政府ノ内意ヲ伺ヒタシト述ヘタリ

本使トシテハ「フランコ」ノ西班牙統一ノ見込ハ立チタル  
モノト認メ居リ又英國ノ妨害ニ關シテモ「リ」ト同様ノ意  
見ヲ有シ西班牙ニ政治的竝ニ軍事的勢力ヲ扶植セントスル  
獨伊ノ希望ヲ支持スルハ對英牽制上ニモ有效ナルモノト認  
メラルルヲ以テ此ノ際我方トシテモ獨側ノ提案ニ贊成スル  
コト適當ト思考シ居ル次第ナリ就テハ本件ニ關スル政府ノ  
御内意至急御回電相煩度シ  
伊ニ轉電シ西ニハ別ニ要旨電報ス

44 昭和14年2月13日

在ハンガリー松宮(順)公使より  
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢に鑑みハンガリーの防共協定参加議  
定書の調印は早期完了が望ましい旨具申

ブダペスト 2月13日後発

本省 2月14日前着

第三〇號

獨發貴大臣宛電報第一二〇號ニ關シ

獨文議定書洪牙利側異議無シ洪牙利文正文ハ決定次第電報  
スヘシ最近「バルカン」方面ノ政情動搖シ此ノ間英蘇ノ工

作頻リニ傳ヘラルル折柄議定書調印ハ出來得ル限り速ニ完  
了スルコト最モ望マシキ次第第二付我方國內手續ハ一日モ早  
ク之ヲ終了二十日前後ニハ調印シ得ル様特ニ御配慮願度シ

45 昭和14年2月18日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

フランコ政権に対するドイツの要望等に関する  
諜報報告

ロンドン 2月18日後発

本省 2月19日前着

第一六二號

過般佛外相ノ密使「プリノン」ノ訪獨ニ關シ「プ」ト昵懇  
ナル諜報者ノ内話ニ依レハ「プ」ハ「リツベントロップ」  
「ヒトラー」ト會見ヲ希望シタルモ果サスト會談ノ結果  
獨逸ハ西班牙ニ關シテハ(一)内亂終了後通商關係増進ヲ計ル  
コト及(二)「フランコ」ノ防共協定加入(「リ」ハ此ノ點ハ獨  
ノ格別重要視スル所ナリト語レル由)ヲ實現セシムルコト  
ノ外差當リ特ニ要求ナク伊太利ノ對佛要求ニ關シテハ「チ  
アノ」カ未タ正式ニ要求限度ヲ内示セサル爲獨逸トシテモ



的確ナル態度ニ出スル能ハサルモ伊太利ノ要求カ法外ノモノトナリ爲ニ危機ヲ醸成スルカ如キコトナキ様獨ヨリモ幹旋スヘキニ付佛側ニ於テモ合理的ナル希望ノ開陳ニ對シテハ妥協的態度ニ出テラレタシト爲スモノナリトノ印象ヲ得タル趣ナリ何等御參考迄佛、獨、西へ暗送セリ



46 昭和14年2月24日

満洲国およびハンガリーの防共協定参加に関する情報部長談

満洲國、洪牙利國ノ防共協定參加ニ關スル情報部長談

(二月二十四日)

本日滿洲國及洪牙利國ハ新京及「ブタペスト」ニ於テ夫々日獨伊三國トノ間ニ防共協定參加議定書ノ調印ヲ行ヒ曩ニ兩國政府ニ依テ聲明セラレタル防共協定參加ノ手續ヲ完了シタ。

滿洲國ハ其建國以來夙ニ反共主義ヲ以テ其國是トナシ帝國ト協同シテ共產主義殲滅ニ當ツテ來タモノテアルカ同國カ

今回防共協定ニ參加スルニ至ツタコトハ極メテ自然ノ成行トイフヘキテアル。曩ニハ「サルバドル」、獨、伊、西等ヨリ又最近ハ洪牙利ヨリ正式承認ヲ受ケ愈々其ノ國際的地位ヲ固メタ滿洲國カ今日防共協定ニ參加ノ運ヒトナツタコトハ東亞ニ新秩序ノ建設セラレントスルニ當リ誠ニ意義深イモノト言フヘキテアル。

又洪牙利國ハ一九一九年世界大戰後ノ混亂ニ乘シ一時「バラカン」ノ率ル共產過激派カ政權ヲ掌握シ蘇聯トノ間ニ軍事同盟ヲ締結シ社會主義聯盟ヲ建設セントシタコトカアツタカ洪牙利ハ右共產革命鎮壓ニ成功シテ以來防共ノ爲不斷ノ努力ヲ續ケ來ツタコトハ衆知ノ事實ニ屬シ現攝政「ホルテイ」提督ハ當時國民軍ノ總司令官トシテ共產革命鎮壓ノ最大殊勲者テアラレタコトヲ想起スルナラハ感慨深キモノカアル洪牙利國カ先般日獨伊ト志ヲ同シウシ防共協定參加ノ意嚮ヲ宣言スルヤ蘇聯ハ之ニ對シ「ブタペスト」駐劄ノ同國公使ヲ召還スルノ舉ニ出ツルト共ニ在蘇洪國公使館ノ閉鎖ヲ求メ洪牙利ノ防共協定參加ヲ牽制シヨウトシタニモ拘ラス其參加ヲ見タノハ洪牙利ノ防共協定ニ參加ノ決意ノ如何ニ堅カリシカヲ窺フコトカ出來ル。吾人ハ茲ニ新タナ



ル盟邦ヲ得益々一致協力共同目的ニ邁進セムトスル決意ヲ固クスル次第アル。

日獨防共協定締結以來幾何モ無クシテ曩ニハ伊國ノ參加アリ今日又滿洲國及洪牙利國ノ參加ヲ見ルニ至リ防共勢力カ東西兩洋ニ互リ着々擴大セラレツアルノ狀勢ハ眞ニ慶賀ニ堪ヘヌ次第テアル。



47 昭和14年3月4日

在独国外務大臣宛(電報)

日獨伊協定の締結に関する訓令で示されたわ  
が方条件に独伊は絶対同意不可能であり政府  
の再考方意見具申

ベルリン 3月4日前発

本省 3月4日夜着

第一七六號(絶対極秘)

一月二十六日附貴信御訓令ノ趣了悉且伊藤公使一行ヨリ詳細ノ説明ヲモ聴取シタルガ右御訓令ニ對スル本使等兩人ノ意見左ノ通申進ス

一、今回御訓令ノ要點ハ「日獨伊三國協定方針」ノ第一、第

二及第六項即チ祕密了解事項ニ規定セラルル二點ニ存スト認メラレ政府ハ之ニ依リ英、米、佛ヲ向フニ廻スコトヲ回避セムトセラルル御趣旨ナリト認メラルル處、本協定ヲ公表スル場合苟クモ第一條乃至第三條ノ規定カ現存スル以上之ヲ前文ノ文句等ヲ利用シテ「コミンテルン」ノミヲ對象トスト説明スルモ之ヲ信ズル者ナカルベキヲ以テ御所期ノ目的ハ毫モ達成セラレザルベク、若シ夫レ祕密了解事項第一項ヲ英米等ニ通報シ或ハ漏洩セシムルガ如キコトニ依リ右目的ヲ達成セムトスルニ至ツテハ不信義ノ極ト云フベク苟クモ政府ニ於テ斯ノ如キ御意圖アルベシトハ到底本使等ノ想像シ得ザル所ナルガ、日本方面ヨリノ情報特ニ二月十七日貴族院ノ祕密會ニ於テ首相ガ述ベラレタル處ハ同盟岩永社長ノ口ヨリ漏レタリトシテ獨逸政府ハ既ニ入手シ「スターマー」大島ニ訊ネ來リタル有様ニシテ獨伊トシテハ本祕密事項ニ右ノ如キ魂膽アルベシトハ直チニ想像スル所ナルベク而シテ從來ノ例ニ見ルモ結果ハ正ニ右ノ如クナルベキハ疑ナシ

三、次ニ政府ガ本祕密了解事項第一項ヲ規定セラレタル理由ハ歐洲ノ紛争ニ捲込マルルヲ欲セザルニ在リトノコトナ

ルガ帝國ノ東洋ニ於ケル地位ハ米國ノ孤立主義ノ立場トハ異リ現ニ蘇聯ト境ヲ接シ且英、米、佛等何レモ現在東洋ノ事態ニ介入シ居リ我ニ於テ欲スルト否ト二拘ラズ歐洲ノ情勢ト深キ關聯ヲ有スル次第ニシテ既ニ協定第一條第二條ニ於テ英佛ヲ相手トシ且第三條ニ關シテモ兵力使用以外ノ點ニ於テ之ヲ對象トセムトスル限り或程度歐洲ノ紛爭ニ干與セザルヲ得ザルハ當然ナリ、他方兵力使用ト謂フモ獨伊ノ我ニ求ムル所ハ我ガ東洋ニ於テ獨伊ニ求ムル所ト同ジク全實力ヲ舉ゲテ歐洲ノ戰爭ニ參加スベシト云フニアラズシテ要ハ三國各其ノ實力ニ應ジ主トシテ其ノ立場ニ於テ敵國ノ勢力ニ對抗スルニ在ル次第ナルヲ以テ若シ政府ニシテ此點ニ危惧ヲ抱カルルニ於テハ豫メ三國間ニ此ノ點ニ關スル了解ヲ明ニシ置キ以テ兵力使用ノ條件、程度、方法等ヲ當該官憲間ノ話合ニ依リ決定シ得ベク此レ即チ獨伊側ヨリ累次提案シ來レル祕密議定書案ノ目的トセル所ニ外ナラズ

三、尙政府ハ了解事項第一項ノ如キ規定ニ依リ蘇聯ノ參加セザル攻撃ノ場合ニハ我方ニ於テ兵力援助ノ義務ヲ負ハザルモ日蘇開戰ニ當リテハ獨伊ノ兵力的援助ヲ確保セムコ

トヲ絕對不變ノ方針ナリトセラルルモ斯ノ如キ片務的條件ニ對シ伊ガ贊同セザルベキコトハ御訓令附屬説明書ニ於テモ既ニ豫想セラレ居ル通ニシテ斯ル規定ヲ突付クルニ於テハ獨モ現存獨伊ノ緊密關係ニ鑑ミ伊ヲ離スコトヲ欲セザル實狀ニ鑑ミ到底受諾ヲ肯ゼザルベシト

四、又今回ノ協定ノ趣旨ヲ「コミンテルン」ニ對スルモノナリト説明セムトノ御方針ハ元來獨伊殊ニ伊ニ對シテハ本協定ノ宣傳的價值ヲ強調シテ之ニ參同セシメムトスル御趣旨ト矛盾スルモノニシテ伊ガ絕對ニ之ヲ受容レザルベキハ明カナリ、又協定ニシテ公表セラルル以上何人モ右ノ如キ説明ヲ信ズルモノナカルベク斯ル方針ハ日本ガ協定其者ニ於テ我國ノミニ有利ナル條件ヲ要求スルノミナラズ其ノ説明ニ於テ迄我方ノミニ都合良キ虚偽ヲ用キ且獨伊ニモ之ヲ押付ケムトスルモノニテ斯ノ如キコトヲ提議スルハ徒ラニ獨伊ノ輕侮ヲ買ヒ帝國ノ道義外交ニ汚點ヲ印スベキコトヲ處ル

五、之ヲ要スルニ今回ノ御訓令中協定案ノ字句等ノ細目ハ之ヲ別トシ以上ノ諸點即チ祕密了解事項規定ノ點ハ本使等トシテ政府ノ御趣旨ヲ全ク了解シ得ザル處ニシテ本使等

從來ノ獨伊側トノ接觸及一般狀勢ヨリ判斷シ先方ノ同意ヲ取付ケ得ル見込全ク無キト共ニ之ヲ其ノ儘提案スルニ於テハ帝國ノ威信ヲ失墜セシムベキハ勿論獨伊ヲシテ我方ノ誠意竝ニ精神ヲモ疑ハシメ將來久シキニ亘リテ此ノ種協定ノ成立ヲ絶望ナラシムベキハ素ヨリ現ニ存スル日獨伊樞軸ノ弱化乃至ハ崩壞ヲモ招來スルコトナキヤヲ深憂スル次第ナリ

六、政府ニ於テハ今次御訓令ノ案ヲ以テ本使等ノ努力次第ニ依リテハ獨伊側ニ於テ受諾シ得ベキモノト斷定セラルルモ本使等トシテハ累次ノ電報ニテモ御承知ノ通此ノ儘ノ案ニテハ兩國ノ同意絶對不可能ナルコトヲ確信ス加之以上各項具申ノ通斯ノ如キ案ヲ以テ彼等ニ臨ムコトハ帝國ニ對スル獨伊兩國ノ信賴ヲ裏切り特ニ「ヒツトラー」「ムツソリーニ」兩氏ヲシテ皇道日本ノ眞意ニ關シ深甚ナル疑惑ヲ抱カシムル所以ニシテ其ノ三國間今後ノ關係ニ及ボス惡影響計リ知ル可カラザルモノアリ  
本使等トシテ御訓令ノ趣旨ヲ取次グハ何分ニモ良心ノ許サザル所ナルノミナラズ帝國永遠ノ利益及目前ノ國際環境ニ於ケル我方立場ヲ考慮スルトキハ到底御趣旨ニ副フ

コトヲ得ザル次第ナリ就テハ政府ニ於カレ如上縷述セル本使等ノ苦衷ヲ御洞察ノ上此ノ際御訓令ノ案ニ對シ御再考アラムコトヲ切望ス尙今日迄既ニ遷延ヲ重ネタル本件ニ付此ノ上更ニ貴我ノ間ニクドクドシク往復ヲ重ヌルコトハ諸般ノ關係上甚ダ面白カラズト思考セラルルニ付根本ノ精神主義ノ點ニ關シ政府御詮議ノ結果ニ付出來得ル限リ至急且明確ニ御回示相成様致度シ

白鳥、大島

48

昭和14年3月6日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日独伊協定の締結に関する訓令に再考を求め  
る大島・白鳥両大使の現地情勢判断につき伊  
藤公使報告

ベルリン 3月6日夜発

本省 3月7日前着

● 第一九〇號(絶對極秘)

伊藤公使ヨリ

本使等二十四日羅馬到着以來同地及伯林ニ於テ連日二亘リ

白鳥、大島兩大使及陸海軍兩武官ト會談シ政府ノ意圖ヲ詳細傳達シ之カ説明ニ努力シ且現地ノ狀勢判斷ニ關シ意見ヲ聽取シタルガ

第二條約案ノ根本ニ於テ中央ノ觀察ト現地ノ意見トノ間ニ大ナル懸隔アルヲ知リタリ其ノ主ナル點左ノ通

一、兩大使ノ説明ニ依ル獨伊兩國ハ現在ノ狀勢ニ於テ「コミンテルン」ヲ主タル對象トスル條約ニ多大ナル關心ヲ有セス英佛ヲモ含ム第三國ヲ對象トシ日獨伊三國ノ相互信賴等ニ基ク強固ナル結合ヲ希望シアリテ英佛對象ノ場合原則トシテ兵力的援助ヲ忌避シ或ハ英佛ヲ對象トスルコトヲ第三國ニ「カムフラージュ」セントスルカ如キ方策ハ獨伊特ニ伊ノ受諾シ得ザル所ニシテ伊ノ參加ナキ協定ハ獨モ今ヤ成立ノ意思ナシト言フニアリ

二、斯ル建前ヲ取リタル場合大島大使ノ歐洲情勢觀察及白鳥大使ノ「ムツソリーニ」首相トノ會談ニ關スル電報ニアル通獨伊兩國共現在ノ處置ニ武力ニ訴フル意圖ヲ有セス然レトモ政策遂行上必要トアレハ武力ヲ使用シ得ル決意無キ限り三國協定締結ノ意義ナク基本條約ニ

於テ表面ヲ強ク表スモ祕密了解事項ニ依リ獨伊側ノ最重要視スル點ヲ掣肘セムトスル思想ハ到底彼等ノ共ニ應諾シ得サル所ナリトノ見解ナリ

三、尙兩大使ノ説明ニ依ルニ英佛ノミヲ對象トスル場合獨伊兩國ハ日本ヨリ可能ナル範圍ニ於ケル武力使用ヲ期待シ居ル次第ニシテ今次協定ノ話合モ此ノ「ライン」ニテ進ミ居ルモノナリ從テ日本カ英佛ノミヲ對象トシテ兵力使用ノ義務ヲ負フモ其ノ範圍實行方法ノ限定ニ依リ蘇聯ニ對スル獨伊ノ義務ヲモ考察シ我方カ欲セザル程度以上ニ純歐洲戰爭ニ捲込マルルノ危險無シトノ意見ナリ

第三御訓令ノ取計ニ關シ本使等ハ本案カ帝國政府トシテハ熟議ヲ重ネタル最後案ナルコトヲ繰返シ説明シ其ノ方法ハ大使裁量ニ任ズベキモ兎モ角一應ハ獨伊側ニ傳ヘ其ノ意嚮ヲ打診スベク極力慫慂シタルガ、兩大使共ニ從來ノ交渉特ニ最近ニ於ケル獨伊ノ態度ニ徴シ受諾ノ意無キハ明白ナルノミナラズ之ヲ提示スルコトニ依リ却テ帝國ノ威信ヲ傷ケ且將來獨伊トノ關係ニ惡影響ヲ及ホスモノトシ個人ノ立場ハ全ク別トシ外交國策遂行ノ大局上本案ヲ

獨伊側ニ示スコトハ良心ノ許サザル所ナリトノ確信ヲ有シアリ

第三、兩大使ノ意見ハ大要右ノ通ニシテ兩大使ハ今次政府案ニ關シ慎重熟慮ノ結果政府ノ再考ノ餘地ヲ切望シ往電第一七六號ノ請訓ヲ發スルコトトナレル次第ナリ  
本使等特使トシテ説得ノ任ヲ盡シ得ザリシハ甚タ遺憾トスル所ナルモ現地ノ情勢右ノ次第ナリ不取敢報告ス

49 昭和14年3月23日

### 日独伊協定の締結に関する訓令の方針變更に

#### 反対する井上欧亜局長意見書

今次日獨伊三國提携鞏化ノ議アリ非才乏シキヲ歐亜局長ノ要職ニ承ケ頭初ヨリ之ガ事務ノ執掌ヲ委セラレタルハ恩顧洵ニ淺カラサルモノアリ日夜廻勉謬ナカラムコトヲ期シ終始研鑽以テ斯案ノ成立ヲ冀ヘリ然ルニ這般在獨在伊兩帝國使臣ニ授ケラレタル訓令ニ對シ兩大使ヨリ意見具申アリ五省會議ハ更ニ議ヲ重ネ新シク案ヲ得テ今將ニ訓電ヲ發出セラレントス

惟フニ白鳥大島兩大使カ言フ所ハ客年來數閱月ノ長キニ亘リ具サニ論議ヲ重ネ慎重考究セラレタル所ニ係リ縱令豫想セラレタルカ如キ兩使ノ稟申アルモ之カ爲ニ既定ノ方針ヲ左右スベキモノニ非ス、然ルニ今遽ニ再議ヲ行ヒ協定事項中蘇聯邦ノ參加セザル場合ノ英佛兩國等ヲ對象トスル兵力の援助ニ付一度訂立シタル方針ニ一大變革ヲ加ヘ曩ニハ之ヲ行フヤ否ヤハ一二當時ノ情況ニ因ルベキモノトシ而モ現在及近キ將來ニ於テ之ヲ行フ意志ナキ旨確立シタルニモ不拘今次回訓ニ於テハ右兵力の援助ヲ行フベキコトヲ原則トシ但ダ例外トシテ當分ノ間之ヲ行ハサル旨ヲ獨伊ニ傳達シ了解ヲ取付ケ置カムトス、之ヲ換言セハ英佛ノミヲ對象トスル兵力の援助ヲ爲スベキヤ否ヤヲ帝國獨自ノ立場ヨリ決定セムトシタル方針ヲ變シテ原則のニハ豫メ獨伊ニ對シ帝國ノ行動ヲ束縛セムトスルモノナリ、勿論當分ノ間之ガ適用ナキコトニ付保留スベシト雖モ右ハ「當分ノ間」ノコトニシテ協定全期間ヲ通ジテ然リトナスコトヲ得ザルベシ、若シ全期間ニ亘リ此保留ヲ一貫セムトセバ徒ラニ信義ヲ獨伊ニ失シ帝國ノ威信ヲ墮スモノト謂フベシ、或ハ僅少ノ援助モ援助タルニ於テハ即チ一ナルヲ以テ帝國々力ノ許ス以

上ニ援助ヲ行フコトトハナラズトノ論アルベキモ一旦英佛ヲ對象トシテ兵力ヲ行使セムカ如何ニ小規模ナリト雖モ敵對行爲タルハ明カナルノミナラズ規模範圍自ラ擴大シ欲セザルニ大規模ノ敵對行爲トナルナキヲ誰カ保スベキ、殷鑑遠カラズ今次事變ニ在リ、殊ニ獨外相ノ言ニヨレバ彼レガ帝國ニ求ムル所ハ歐洲ニ對スル派兵ニ非ザルモ東洋ニ於テ英佛ノ根據地ヲ攻撃シ且極東ヨリスル兩國通商路ノ破壊ニ在リ加之帝國海軍ニヨル米國ノ牽制スラ之ヲ欲シ居レリ、誰カ之ヲ小規模且限局セル援助ヲ以テ満足スルモノナリトセムヤ

大島大使ハ獨國ノ強大ヲ知ルガ故ニ速キニ迫ンデ之ト合縱セムトス白鳥大使ハ英國ヲ東亞ヨリ驅逐スルヲ以テ帝國ノ使命ナリトス兩使ガ獨伊ノ意向ヲ酌ミ我方案ヲ以テ非ナリトナスハ理ナキニ非ズ、何レモ熱誠人ニ勝レ賢良他ニ劣ラザルコト吾人ノ疑ハザル所ナリト雖モ恨ムラクハ其企圖スル所直ニ之ヲ容ル可ラズ蓋シ夫ノ英タリ佛タルモノ前世紀白人文明ノ潮流ニ棹シテ東亞ノ天地ニ越俎干涉ヲ事トス、素ヨリ惡ムベシト雖モ蘇狼朔北ニ吼エテ北邊ノ守リ更ニ急ヲ告グルモノアリ此重壓ヲ除キ日滿兩國ヲ磐石ノ泰キニ置

カムトセバ姑ク隱忍自重シテ英佛各國ヲ操縱シ有事ノ日我ニ左<sup>袒</sup>瞻セザルマデモ敵ニ與セザルベキヲ保セサル可ラザレバナリ、若シ夫レ我ニ充實セル力アリ後顧ノ憂ナキニ至ラバ英佛ヲ討チテ東亞ノ肅正ヲ計ルニ毫毛憚ル所ナシ、今ヤ歐洲政局ハ愈々出デテ愈々變轉極マル所ヲ知ラズ、宜シク我ニ於テ能フ限リ行動ノ自由ヲ確保シ置キ一朝有事ノ際國策ノ命ズル所ニ向ヒテ進退スベシ豈今ヨリ之ヲ獨伊ニ約シ異日桎梏ノ重キヲ啣ツノ要アラムヤ

斯ノ獨伊ノ欲スル所ハ協定ヲ天下ニ公示シ日獨伊三國提携ノ威力ヲ以テ各自ノ意圖スル政策ヲ實施セムトスルニ在リ、今次我ノ提案セムトスル基本協定ハ假令之ヲ防共協定ノ延長ナリト聲明スルモ第一條乃至第三條定ムル所ニ依リ世人ヲシテ鞏固ナル三國樞軸ノ確立ヲ認識セシムルニ足ルベキコト、現今ノ單純ナル協定ニシテ既ニ十分ナル效果ヲ擧ゲ居ルニ徴シ歷然タリト曰フベシ、即チ帝國原案ヲ其儘ニ獨伊側ニ提示セムカ之ニ依リ妥結ニ到達スルコト必ズシモ不可能ナラズ要ハ之ヲ示シテ接衝大ニ努ムルニ在リ、然ルニ今茲ニ出デズ徒ラニ前議ヲ齟<sup>そ</sup>ヘシテ兩大使及獨伊ノ意ヲ逆ヘムトス惟フニ此膝一ビ屈スレバ復タ信ブ可ラズ耿々

トシテ事ノ易キニ就クヲ敢テセバ狂瀾ハ終ニ既倒ニ還スノ  
日ナシ、君恩ノ鴻遠ナルヲ浴シ大事ヲ托セラルルノ眷顧ヲ  
懷ヘバ盍ゾ今ニシテ直ニ兩大使ニ命ズルニ我方原案ニ依ル  
獨伊トノ接洽開始ヲ以テシ兩使ニシテ肯カズムバ斷然之ヲ  
召還スルノ舉ニ出デザルヤ、忠誠ノ士其人ニ乏シカラズ堪  
能ノ才豈他ニ之レナシト言ハムヤ、正ヲ履ンデ懼レザルハ  
士ノ道ニシテ又閣下ノ常ニ諭ヘラルル所ナリ今此封事ヲ錄  
シテ特ニ之ヲ想起セズムバ非ズ渺タル小官ヲモ顧ミズ敢テ  
此言ヲ爲スモノ唯々社稷ノ安泰ヲ希フノ微衷ニ出ヅ而シテ  
閣下ノ赤誠ヲ信ズレバナリ庶幾クハ明鑒ヲ垂レ青史ニ汚點  
ヲ殘サザラムコトヲ

昭和十四年三月二十三日

井上 庚二郎(印)

内閣總理大臣

男爵 平沼 騏一郎閣下

~~~~~

50

昭和14年3月25日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

日独伊協定の締結に関する訓令で示したわが

方条件に独伊が同意しなかった場合の交渉方
針につき回訓

本省 3月25日後3時発

●^(編注)
第一七六號(館長符號)

貴電第一七六號ニ關シ

第一、帝國政府訓令案ニ對スル貴兩大使意見具申ニ關シテハ
當方ニ於テ慎重研究熟議ヲ重ネタル處結局祕密了解事項
ノ内容(兵力援助及本協定ニ關スル第三國ヘノ説明)ニ關
シ貴方トハ重大ナル意見ノ相違アルコト明瞭トナレリ
帝國政府トシテハ各種ノ觀點ヨリ右二項ヲ祕密了解事項
トシテ取極メ置クコトハ必要ニシテ而モ之ヲ附帶セシム
ルモ本協定ノ成立不可能ニアラサルヘシト思考シタル次
第ナリ

右了解事項ヲ附帶セシメタル場合ニ於ケル本協定成立ノ
見込ニ於テ不幸貴大使ト見解ヲ異ニシタル次第ニシテ貴
大使ニ於テハ固ヨリ政府案ニ就テ先方ノ意見ヲ打診セラ
レタル結果ノ意見具申ナリトハ存スルモ今日ニ於テハ我
政府決定案ニ對スル獨伊側ノ意見ヲ正式ニ確ムルコトナ
クシテ之ニ變更ヲ加フルコト能ハサル狀態ニ在リ

貴大使ノ意見ニ依レハ先方ノ受諾スル見込少シト推定セラルル我政府案ヲ正式ニ提出スルコトハ獨伊ノ感情ヲ著シク惡化シ本協定ノ成立ヲ阻害スヘキハ勿論現存防共協定ニ迄惡影響ヲ及ホスヘシトノコトナルモ帝國ノ立場ハ獨伊トハ稍々其趣ヲ異ニシ困難ナル支那事變處理ノ途上ニ於テ英佛等ト各種ノ摩擦ヲ惹起シ而モ未解決ノ狀態ニ在リ、本事變ノ處理及次期國際情勢ノ轉機ニ備フヘキ軍備ノ充實竝ニ生産擴充ノ中途ニアリ、之カ完整ヲ喫緊ノ急務トスル帝國ノ狀態ヲ率直且詳細ニ披瀝シ之ニ對スル先方ノ應答ヲ求メ兩者意見ノ相違ハ今後ノ折衝ニヨリ妥協點ヲ見出スノ餘地アルモノト思考シアル次第ナリ

第三帝國ノ現在及近キ將來ニ於ケル外交方針獨伊トノ關係緊密化ヲ以テ其根幹トスヘキハ既定ノ事實ニシテ右方針ハ今日ニ於テ何等變更ヲ見サル次第ナルヲ以テ帝國トシテハ本協定カ速ニ締結セラルルコトハ衷心ヨリ希望スルモノナリ

從テ先般ノ訓令案ヲ先方ニ傳達シ先方之二應セサル場合我方トシテハ早急ニ本協定ヲ斷念スル如キ意志ハ毛頭之無ク飽迄兩者間ニ妥協點ヲ見出スコトニ依リ之カ成立ニ

努力スヘキハ帝國政府トシテ執ルヘキ當然ノ措置ナリト堅ク信スルモノナリ

即チ先方トノ意見一致セサル場合考慮シ得ヘキ妥協案左ノ如シ

1、祕密諒解事項第一項ニ就テ

第一案

祕密諒解事項一應^(ヲモ)左ノ通改ム

「協定第三條及祕密附屬議定書第一項ニ關シ兵力の援助ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦カ單獨ニ又ハ第三國ト共同シテ締約國ノ一ヲ攻撃シタル場合ニ行ハルルモノトス但シ伊太利國ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦カ單獨ニ他ノ締約國ヲ攻撃シタル場合ニ於ケル自國ノ兵力的援助義務ニ付テハ之ヲ保留ス前項ノ規定ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ參加セサル攻撃ノ場合ニ於テモ締約國カ狀況ニ依リ兵力的援助ニ關シ協議決定スルコトアルヘキヲ以テ妨クルモノニ非ス」

第二案

祕密諒解事項一ハ之ヲ撤回シ下記精神ニ基キ細目協定ヲ

作成ス即チ(イ)蘇聯ヲ對象トスル場合ハ武力援助ヲ行フコト勿論ナリ(ロ)其他ノ第三國ヲ對象トスル場合ニ於テハ條約文ノ趣旨ハ武力援助ヲ行フヲ原則トスルモ帝國諸般ノ情勢ヨリ見テ現在及近キ將來ニ於テ之ヲ有効ニ實施スルコトヲ得ス(祕密諒解事項第一項ニ關スル説明(訓令別紙丙號第九項)ハ之ヲ削除ス)

2、祕密諒解事項第二項ノ件ニ關シテハ之ヲ祕密諒解事項ヨリ削除シ左記ニ案中何レカニ依ル

第一案

締結ハ成ルヘク之ヲ速カナラシムルモ條約全部ヲ祕密トス

第二案

條約ハ公表スルコトトシ次ノ如ク説明スルコトニ關シ豫メ獨伊ノ了解ヲ求メ置クモノトス

「條約ハ條約文通りナルモ現在ノ世界情勢ニ於テ帝國ニ實際脅威ヲ與ヘツツアルモノハ共産「インターナショナル」ノ破壞工作ナルヲ以テ帝國ニ關スル限り右以外ハ協定ノ對象トシテ念頭ニ置キ居ラス」

3、左記兩項ハ條約トセサルモ協定ノ成立迄ノ間ニ何等

カノ文書ノ形式ニ於テ相互ノ間ニ之ヲ明ニシ置クコト
一、ノ第二案ヲ採用シタル場合ハ

武力援助ハ「ソ」以外ノ第三國ニ對シテモ之ヲ行フヲ原則トスルモ帝國諸般ノ情勢ヨリ見テ現在及近キ將來ニ於テ有効ニ實施スルコトヲ得サルコト

二、ノ第二案ヲ採用シタル場合ハ

其第二項即チ條約ハ條約文通り、
頭ニ置キ居ラザルコト

第三、本條約ヲ速カニ圓滿締結ニ導カントスル貴兩大使從來ノ御努力ニ關シテハ當方ノ深ク之ヲ感謝シアル處ニシテ今後ノ折衝ニ伴フ貴方ノ苦衷モ亦充分之ヲ諒トスル處ナルモ以上政府ノ方針ニ基キ此上共一層ノ御努力アランコトヲ切望スル次第ナリ

編 注 本文書は電報番号が欠落しているが、他の史料から第

一七六号と推測し補った。

51 昭和14年3月28日

防共協定強化交渉に関し政府方針の更なる変

更に行わない旨首相・外相・陸相・海相・蔵

相が署名した昭和天皇宛念書

昭和十四年三月二十八日

(華押) 平沼(首) 板垣(陸) 米内(海)

有田(外) 石渡(藏)

一、防共協定強化ニ關スル大島白鳥兩大使宛昭和十四年三月二十五日付外務大臣訓令ハ兩大使具申ノ次第二モ顧ミ前回ノ訓令執行前ナルニ拘ラス特ニ考慮ヲ加ヘ新ニ妥協案ヲ添ヘテ再ヒ訓令スルニ至リタルモノナルヲ以テ萬一兩大使ニ於テ今次ノ訓令ニ兎角ノ意見ヲ挾ミ其ノ執行ヲ肯セサルカ如キコトアルニ於テハ政府ハ兩大使ヲ召喚シ餘人ヲシテ代ツテ交渉ニ當ラシムル等適當措置ヲ講シ交渉ニ支障無カラシムヘシ

二、昭和十四年一月二十六日付及同三月二十五日付外務大臣訓令ノ範圍内ニ於テ交渉ヲ重ヌルモ我方針ヲ變改セサル限リ獨伊側トノ間ニ本件妥結ノ見込無キニ至リタル場合ハ結局本交渉ハ之ヲ打切ルノ外無シ

編注 本文書は、終戦後、堀田元駐伊大使が宮内省で書き写

したものである。本書〈参考〉「防共協定を中心とした日独関係座談会記録」中の「第三回懇談会」を

参照。

~~~~~

52 昭和14年3月31日

在伊国白鳥大使より  
有田外務大臣宛(電報)

新たな訓令を踏まえた防共協定強化に関する

現地交渉方針について

ローマ 3月31日後発

本省 4月1日前着

●第七九號(絶対極秘)

貴電第一七六號ニ關シ

大島白鳥ヨリ

一、曩ニ特使持參ノ御訓令案ハ祕密了解事項ニ重キヲ置カレ然カモ右了解事項ハ條約本文ニ於テ一旦與ヘタルモノヲ再ヒ奪フノ結果トナリ帝國政府ニ於テハ本條約ノ成立ヲ欲セサルヤノ印象ヲ與ヘ本使等トシテ御訓令ヲ其儘執行スルコトハ國家ノ利益ニアラスト思考シタル儀ナルカ今

次御訓令ハ先ツ何ヲ措キテモ條約ノ成立ヲ絕對必要トセラレ之カ爲ニハ難キヲ忍ビ種々讓歩ヲモ辭セサルノ御趣旨ト拜シ邦家ノ爲誠ニ欣幸トスル所ナリ斯ル上ハ本使等トシテモ全努力ヲ傾倒シテ出來得ル限り御趣旨ノ貫徹ヲ期スヘキ處折衝ノ順序方法ニ關シテハ固ヨリ當方ニ御一任アルヘキ儀ト存ス

三、而シテ本使等合議研究ノ結果大體ノ順序ハ次ノ如ク取運フコトトセリ

(イ) 先ツ獨伊兩國ニ對シ文書ヲ以テ特使持參ノ條約本文竝ニ議定書案ヲ提示シテ先方ノ檢討ヲ求ムルコト

(ロ) 其際口頭ヲ以テ帝國政府ニ於テ別ニ二、三了解ヲ得置キ度キ點アルコトヲ通告スルコト

三、條約本文ニ關シテモ帝國政府案ト獨伊側ノ最近案トハ相當ノ距リアリ妥結ハ必スシモ簡單ニ行カサルヘク條約ノ成立ヲ絕對ニ必要トスル以上先ツ此根本問題ニ付彼我ノ意見ヲ一致セシムルコトカ第一ノ急務ナルハ申迄モナシ最近本使等カ獨伊當局トノ接觸ニ於テ得タル印象ニ依レハ「チエツコ」問題等ニテ獨伊樞軸カ著シク強化セラレ西班牙ノ問題モ獨伊側ニ有利ニ展開シツツアリ獨伊西三

國ノミノ結束ヲ以テ英佛ニ對抗セントスルノ形勢ナキニシモ非ス而シテ獨伊兩國トモ蘇聯トハ最近通商關係ノ改善ヲ試ミ蘇聯ニ對スル言動ヲ慎ムノ風アル等ニ顧ミ日本ノ都合ニ依リ協定不成立トモナレハ右情勢ハ更ニ顯著トナルヘシ我方トシテハ時日ノ遷延ニ依リテ生シタル此面白カラサル傾向ヲ是正スルノ要アリ夫カ爲ニハ比較的獨伊ノ受諾シ易キ條約本文及議定書案ヲ示シテ一ト先ツ撚リヲ戻スヲ得策ト信スルノミナラス條約ノ成立ヲ促進スル所以ナリト信ス

四、政府ノ欲セラルル了解事項ノ二點中兵力援助ノ問題ニ付テハ獨伊側ニ於テモ決シテ多クヲ期待シ居ルモノニ非ルハ本使等ノ繰返シ報告セル通ニシテ此點御趣旨ノ貫徹ハ何等困難無シト存ス唯帝國政府ニ於テ蘇聯ノ加入無キ場合ノ援助義務輕減ニ重キヲ置カレ餘リニ念ヲ押サルルコトハ他方蘇聯加入ノ場合ニ於ケル兵力援助義務(歐洲ニ於ケル)ヲ加重スル結果トナルノ嫌ヒ無キヤ今日ノ歐洲情勢ニ於テハ英佛ヲ相手トスル戰爭ニハ自然蘇聯ノ參加ヲ見ルヘキニ顧ミ此點特ニ御考慮ノ要アリ又我方ニ於テ正式ニ兵力援助ヲ局限スレハ當然伊太利ノミナラス獨逸

ニ於テモ同様ノ留保ヲ申出スヘキコトヲモ覺悟セラルルノ要アリト思料ス

五、支那問題未解決ノ今日我方ニ於テ不必要ニ英佛等ノ感情ヲ損スルヲ欲セサル次第ヲ獨伊側ニ説明スルモ彼等ヨリ見レハ斯ノ如キ留保ハ條約ノ價值竝ニ效用ヲ多分ニ減殺スル次第ニシテ我方ヨリ極メテ有力ナル論據ヲ示スノ要アリ御訓令ニモ詳細ニ説明ヲ與フヘシトアル處從來此點ニ關シ政府ヨリ適確ナル御垂示ニ接シ居ラス本使等トシテハ先方ヲ納得セシムルニ足ル適切ナル材料ヲ有セサルニ付右論據トナルヘキ資料ヲ御電示相成度

六、以上ノ如キ諸般ノ理由ニ依リ先ツ以テ條約本文ヲ先方ニ提示シ本件正式交渉ヲ一日モ速ニ軌道ニ上スヲ得策ト認メタル次第ナリ御承知置アリタシ

編 注 「貴電第一七六號」は本書第50文書を指すと思われる。

~~~~~

53

昭和14年3月31日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日独伊軍事同盟説への米国政府当局の観測に

関する報道報告

ワシントン 3月31日 発

本 省 4月1日後3時着

米國政府ハ日獨伊防共軍事同盟説ニ多大ノ關心ヲ示シテキルガUP通信ハ日本ガ結局頗ル廣汎ナ軍事同盟ニハ參加セヌ事ニナツタトノ報道ニ接シ政府當局ガ左ノ如キ觀測ヲ洩シタト報ジテ居ル

日本ハ全体主義國家トノ拔キ差シナラヌ盟約ハ廻避スル様決意シタト傳ヘラレルガコレハ日米關係ノ惡化ヲ窮極ニ於テ平和裡ニ解決セントスル余裕ヲ殘シタモノデアル日本ガ全体主義諸國トノ同盟ニ參加スル事ハ事實上日米間ノ諸問題解決ノ途ヲ塞グモノデアルト云フノハ米國ハスル全体主義國ノ聯繫ハソレ等諸國ニ隣接スル地域ヲ遙ニ隔テタル遠隔ノ地ニマデ手ヲ延バシテ現狀ヲ打破センコトヲ窮極目的トスル攻撃的團結ト見做スデアラウカラデアル米國トシテハスル場合ニハ太平洋ノ防備ヲ増勢スルノミナラズ英佛蘇ノ共同戰線ニ接近セザルヲ得ナクナルガラウ曾テノ日英同盟ニ於テハ英國ガ民主主義國デアリ米國トハ頗ル友好的デアッタニモ拘ラズ米國ハコノ同盟ヲ相當重大視シタノデア

ルガ現在ノ日本ノ獨伊トノ同盟ニ於テハ相手ガ獨裁國デア
ルダケニ特ニドイツトノ同盟ハ會テノ日英同盟ニ比シ遙ニ
重視セラレルデアラウ

米國ハ事實上ニ於テ敵對行爲ガ開始セラレザル限り右全体
主義同盟ニ對抗スル同盟ニハ參加シナイデアラウガ全体主
義同盟ニヨリ起リ得ベキ日本ノ太平洋進出、獨伊ノ西半球
ヘノ勢力伸長ヲ阻止スル爲ニハ英、ソ聯其他ノ諸國ト緊密
ニ協同スルデアラウ米國ハ主トシテ太平洋ノ防衛問題ニ注
意ヲ向ケテキルガ歐洲ニ於テ獨伊トノ均衡ヲ圖ルモノト豫
測サレル英佛ニ對シテハ通商上乃至經濟上之ト協力スルデ
アラウ又最近ソヴェト聯邦ガソノ海軍擴張ニ對シ米國ヨリ
援助ヲ得ヨウト米蘇接近策ヲ講ジテ媚態ヲ示シテキルニ對
シテ米國ハ今ノトコロ冷淡ナ態度ヲ持シテキルガ若シ日本
ガ全体主義國家ノ盟約トナルナラバ米國ハコノ態度ヲモ亦
變更スルニ至ルデアラウ

編 注 本電報は電報番号不明。

54

昭和14年4月1日

在スペイン矢野(真)公使より
有田外務大臣宛(電報)

対仏關係に鑑みフランコ政權は防共協定參加
の公表に氣乗りせずとの在スペイン独国外使
内話について

サンセバステイアン 4月1日後発
本 省 4月2日後着

第八六號(極秘、館長符號拔)

貴電第三三號ニ關シ(西國ノ防共協定參加ノ件)

一、三十一日外務大臣ト談合セル獨大使内話

外務大臣ハ目下佛國ト軍艦武器金塊等ノ引渡商議中ナル
ニ顧ミ此ノ際ノ發表ニ氣乗セス西國ハ既ニ署名ニ依リ防
共諸國ト事實上緊密ノ關係ニ入リタル次第ニモアリ旁西
國ノ立場モ了解サレタキ旨繰返シ何レ「フランコ」ニ相
談追テ回答ノ旨ヲ約セリ尙獨逸政府ノ特使(獨發貴大臣
宛電報第一六三號御參照)今明日中ニ「フランコ」ニ直
接交渉ノ筈ナルカ本件ハ對佛交渉ノ進展如何ニ係リ即時
發表ハ今ノ所九分通り見込ナキヤニ印象サル
二、伊大使目下馬德里ニ在リ聯絡困難ナルカ獨大使ノ希望モ

アリ本使今明日中ニ外相ト面談ノ筈
獨ヘ轉電セリ

55 昭和14年4月4日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

フランコ政権による速やかな防共協定参加の公
表をリッペントロップ独国外相希望について

ベルリン 4月4日前発

本省 4月4日後着

第三一四號(大至急、極秘、館長符號扱)

三日「リ」外相ト會見ノ際獨逸トシテハ西國ノ防共加入ニ
付テハ馬德里モ既ニ陷落シタルコトトテ當初ノ約束ノ通り
速ニ公表セシメタキ希望ヲ有シ先方ノ意嚮ヲ探リタル處西
國外相ハ尙氣兼ねシテ躊躇ノ模様ナルモ加入ノ事實ハ既ニ
外國新聞ニモ報道セラレ祕密トスルモ益ナキ次第ナルヲ以
テ早速在西獨大使ニ訓令ヲ發シ「フランコ」自身ヲ説得セ
シメ出來得レハ水曜新聞朝刊ヲ以テ公表セシムル様工作ス
ル考ナリ右ニ付伊側ハ勿論日本トシテモ別段異議ナキコト
ト了解スル處日本モ在西公使ニ對シ獨伊ト歩調ヲ合セ共同

措置方訓令セラレンコトヲ御願ヒスト申述ヘタリ
本件ニ關シテハ貴大臣發在西公使宛電報第三三號ノ次第モ
アル處御參考迄電報ス
西、伊ヘ轉電セリ

56 昭和14年4月7日

在スペイン矢野公使より
有田外務大臣宛(電報)

フランコ政権の防共協定参加公表日に関する
独伊大使との協議結果について

付記 昭和十四年四月八日

右参加に関する情報部長談

サンセバスティアン 4月7日後発

本省 4月7日後着

第一〇〇號(大至急、極秘、館長符號扱)

往電第九八號ニ關シ

「ブルゴス」ニ於ケル打合ノ結果ニ付更ニ獨伊大使ト談
合セリ

獨伊西ハ西國加入ノ事實ヲ八日朝刊ニテ公表スヘク我方
モ時差ニ關係ナク八日朝刊又ハ夕刊ニテ公表差支ナシ

三、西國側ハ左記要旨ノ「コミユニケ」ヲ發表スル筈

「西國政府ハ西班牙ニ内亂ヲ點火セル共產主義ヲ戰場ニ於テ決定の二撃滅シ共產主義ノ包藏スル危險ニ對スル其ノ防衛の態度ヲ確認スル爲ニ防共協定ニ加入セリ

右加入ニ關スル議定書ハ外相獨伊兩大使及日本公使本國政府ヨリ正當ニ委任サレ「ブルゴス」ニ於テ署名セリ」

三、西國側ハ議定書ヲ右「コミユニケ」ト同時ニ發表スルカ又ハ數日後トスルカ未定ナルカ三國カ西國加入ノ事實公表ト同時ニ議定書ヲ發表スルニ異議ナシ

四、西國民ハ本件公表後先ツ「フランコ」執政ヨリ三國元首ニ對シ親電發送ノコトニ考慮スヘシト言ヘルカ滿洲國洪牙利ニ付テハ先ツ先方ヨリ祝電ヲ受ケタキ意嚮ヲ洩ラセ
ル由

獨、伊へ轉電セリ

(付記)

西班牙ノ防共協定參加ニ關スル情報部長談

(四月八日)

今回「フランコ」將軍ヲ首班トスル更生「スペイン」國ハ

正式ニ日獨伊ヲ原署名國トスル防共協定ニ參加シタ。渾沌タル歐洲政局ノ眞只中ニ「スペイン」カ防共陣營ニ加ハリタルコトハ眞ニ意義深キモノカアル。

先年獨伊赤化運動ニ完全ニ失敗セル「コミンターン」ハ歐洲赤化ノ第一線ヲ「スペイン」ニ張ツタ。之カ爲「スペイン」國內ハ赤白ノ二勢力ニ分レ骨肉相食ミ同胞相殺スノ慘劇ヲ演シタ寔ニ人生ノ悲惨事テアル。血涙ヲ揮ツテ立上ツタ「フランコ」將軍ノ一派ハ幾多ノ困難ヲ超克シテ遂ニ本年早々「バルセローナ」ヲ占領シ「カタロニヤ」地方ノ平定ニ成功スルニ及ンテ赤色政權ハ全ク崩壞シ去リ去三月二十八日「マドリッド」モ陷落シテ過去二年有半ニ亘ル「スペイン」内亂モ「フランコ」將軍ノ決定の勝利ヲ以テ終結シタ。

防共陣營ノ諸國ハ夙ニ「フランコ」政權ヲ承認シ赤色調伏ノ大業ニ十二分ノ支持ヲ與ヘテ來タカ帝國政府ハ更生「スペイン」ノ此ノ輝カシキ業績ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表スルト共ニ今後倍加ノ協力ニ依リ兩國關係ノ愈々緊密ナランコトヲ望ンテ已マヌモノテアル。

編注 フランコ政権は、昭和十四年三月二十七日、防共協定に参加した。

57 昭和14年4月8日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛（電報）

武力援助の対象および参戦の解釈等に関する

わが方立場につき回訓

別電 昭和十四年四月八日発有田外務大臣より在独

国大島大使宛第二一五号

対英仏関係に関するわが方立場

本省 4月8日発

●
第二一四號

貴電第三二四號等ニ關シ

貴使等ノ御努力ニ依リ我方提案ヲ「ヒトラー」總統ニ於テ
鵜呑ニセル趣右ハ大ニ多トスル所ナルカ我方ニ於テ帝國ノ
眞意ヲ貫徹スル爲重キヲ置ケル點カ祕密了解事項ニ掲ケタ
ル二點ニアルコト御承知ノ通りニシテ即チ

(一)武力援助ニ關シ蘇聯ヲ相手トスル場合ハ相互ニ全幅的援
助ヲナスコトヲ期待スルト共ニ其他ノ第三國ヲ對照トス

ル場合ニ於テハ條約文ノ趣旨ハ武力援助ヲ行フヲ原則ト
スルモ帝國諸般ノ情勢ヨリ見テハ現在及近キ將來ニ於テ
有效ニ之レヲ實施スルコトヲ得ス（況ンヤ獨伊ノ外相カ
希望ヲ表明セル東洋ニ於ケル英佛ノ兵力ノ處分ノ如キ現
在及ヒ近キ將來ニ於テ之ヲ實行シ得サル實情ナリ）此點
ニ關シ獨伊ヲシテ誤解ヲ懷カシメサルコトハ我方ノ特ニ
重視スル次第ナルヲ以テ之ヲ何等カノ文書ノ形式ニ於テ
相互ノ間ニ明ニスル様訓令セルコトモ要スルニ獨伊ヲシ
テ誤解ヲ懷カシメ後日我方カ兩國ヲ欺キタルカ如キ結果
トナルコトヲ避ケントノ誠意ヨリ出ツルモノナリ此點ハ
是非先方ニ我方ノ意圖ヲ徹底セシメ置カレ度ク先方カ之
ヲ了解セル上ハ往電第一七六號訓令通り之ヲ書翰ナリ
「イニシアル」セル口上書又ハ議事録ナリ何等カノ書物
ニシ置カレ度シ

尙貴大使ハ「リ」外相ニ對シ參戰云々ヲ言明シ居ラルル
處帝國政府ノ眞意ハ獨伊カ蘇ヲ含マサル英佛ト戰端ヲ開
ク場合ニ於テモ援助ノ精神ニ於テハ變リナキモ如何ナル
程度ノ援助ヲ與フルヤハ一ニ當時ノ情況ニ依リ決定セン
トスルモノナリ殊ニ現在及近キ將來ニ於テハ有效ナル武

力援助ヲ爲シ得サル情況ナルニモ鑑ミ援助ノ程度等ニ付必然のニ義務附ケラルコトハ協定締結ニ於テ之ヲ避ケントスル意向ナリ

然レ共一旦先方ニ對シ參戰云々ヲ言明セラレタル以上其ノ意義ニ付誤解ナカラシメ置クコト必要ナルニ付

帝國ハ「戰爭ニ參加スル」トハ協定第二條ノ「支持」及第三條ノ「助力及援助」ヲナスコトヲ意味シ且第三條ノ「助力及援助」ノ内武力援助ニ關シテハ「現在及近キ將來ニ於テハ有效ニ之ヲ實施スル能ハサル限度ノモノ」ト解釋シ居ルコトヲ明ナラシメ置カレ度シ

而シテ當方解釋ノ如キ「戰爭參加」ノ態様ハ戰爭勃發ノ場合ニ於テ帝國ノ實施スヘキ武力援助ノ程度方法等ノ實際ニ依ルヘキモノニシテ將來戰發生ノ形態等ヲモ併セ考フル時ハ宣戰ヲ布告スル場合モアリ又當時ノ情況ニ應スル如キ宣言乃至聲明ヲ行フニ止ムルヲ可トスル場合モ存スヘク又何等ノ意思表示ヲ行ハス事實上援助ヲ與フルコトモアリ得ヘシ此ノ點御含ミ置キアリ度シ

尙戰爭參加ノ義務ハ片務のナラサルヲ要スルモノナレハ例ヘハ伊國側カ我方ノ對蘇戰爭ノ場合如何ナル義務ヲ負

フヘキヤニ付テモ先方ノ肚ヲ探リ置クコト當然ノコトニ屬スヘシ申迄モナキ儀乍爲念

(二)次ニ我方ノ對英佛關係ガ獨伊ノ對英佛關係ト同一ナラサルハ別電第二一五號ニ詳述セル通ニシテ我方トシテ今日ノ情勢ニ於テ英佛ト全然對立的の關係ニ入ルコトハ之ヲ欲セサルカ故ニ獨伊ト今次協定ヲ締結シ本協定ノ威力ヲ背景トシツツ英佛ニ對シテハ擒縱自在ノ外交ヲ遂行シ得ル如ク或ル程度ノ裕リヲ保存セントスルモノニシテ前電第一七六號再訓令ノ英佛等ノ質疑ニ對スル説明振ハ此ノ觀念ニ基キ立案セラレタルモノナリ依テ本協定ハ「條文通りナルモ現在ノ世界情勢ニ於テ帝國ニ實際脅威ヲ與ヘツツアルモノハ共產「インターナシヨナル」ノ破壞工作ナルヲ以テ帝國ニ關スル限り右以外ハ協定ノ對象トシテ念頭ニ置キ居ラス」ト説明セントスルモノニシテ我國トシテ此點ノ留保亦是非必要トシ後日ノ誤解ヲ避クル爲何等カノ書物ニテ之ヲ明ニセント欲スルモノナリ

以上(一)及(二)ノ點ハ既ニ往電第一七六號ヲ以テ訓令セル所ニ屬スルモ其ノ趣旨ヲ篤ト体シ獨伊側ノ同意ヲ取付クル爲重ネテ御盡力相成度

訓令トシテ在伊大使ニ轉電アリ度シ

(別電)

本省 4月8日發

第二一五號

在伊大使發本大臣宛電報第七九號五ニ關シ

概ネ左記趣旨ヲ考察セラレ適宜説明セラルル様致度

一、獨伊ハ歐洲ノ狹キ地域ニ於テ英佛ト相接近シ居ル關係上其ノ對立ノ深刻サハ帝國ト英佛トノ關係ニ比シ遙ニ大ナルモノアリ

帝國ト雖支那事變處理上將又南方發展上英佛トハ現在ハ勿論將來ニ於テモ對立關係ニ在ルコト勿論ノコトナルモ今日直ニ戰爭ヲ賭シテ迄相爭フ必要性少シ、英佛ハ假令帝國對支施策ニ依リテ其ノ在支權益竝ニ極東政策ニ關シ不安ヲ感スルモ帝國ニ對シテ實力ヲ行使スル迄ノ意圖ハナキモノノ如ク實際問題トシテモ現情勢上帝國ト英佛トノ關係ハ國策上對立スルモ戰爭ニ非サレハ解決不可能ナルモノニハ非サルナリ然ルニ現在ノ獨伊ト英佛トノ關係ハ外交交渉ヲ以テシテハ到底解決ノ餘地ナク又假令一時

の解決ヲ見ルモ其ノ地理的關係ハ宿命的ニ抗爭ヲ繼續スル運命ニ在ルヘシ、之等ノ關係ハ「ソ」聯及支那ヲ同時ニ考フル時ハ容易ニ了解シ得ラル可ク帝國ト「ソ」支トノ關係ハ宛モ獨伊ト英佛トノ關係ニ等シク帝國カ歐洲ノミノ紛爭ニ關與スルヲ常ニ必スシモ得策トセサルコトハ獨伊特ニ伊カ極東ノミノ紛爭ニ捲込マルルヲ欲セサルト同様ノ理ナリ

勿論帝國ト英佛トノ關係モ若シ帝國カ支那事變ヲ解決シ更ニ進ンテ「ソ」國トノ關係ヲ清算シ國力ヲ充實シタル曉ニ於テハ現狀以上ニ切迫シ來ルヘキハ豫想ニ難カラサル所ナルモ少ク共現在ニ於テハ帝國ト英佛トノ關係ヲ獨伊ノ夫ト全然同一視スルコトハ當ヲ得サルモノナリト確信ス

二、尙ホ支那事變ノ處理ニ邁進シ居ル帝國ノ各種經濟的情勢ハ當分英米トノ經濟關係ヲ相當重視スルノ已ムヲ得ザル實情ニ在リ彼等トノ關係惡化カ我國民經濟ヲ混亂セシメ今次事變所期ノ目的達成特ニ長期建設ノ至難ヲ招來スルノ虞多キ次第ナルヲ以テ彼等トノ經濟關係ヲ或程度ニ維持シ度希望ヲ有スル次第ニシテ且又目下着々計畫中ノ物

資動員、生産力擴充計畫等ノ圓滿ナル遂行ノ點ヨリ見ル
モ此點ヲ重要視セサルヲ得ス

三、即チ帝國ハ昭和十四年度ニ於テ軍需品約十三億圓生産力
擴充用品約十億圓輸出用品原料約五億圓ノ輸入ヲ必要ト
シ之ニ圓「ブロック」向ニ對スル供給必要品及民需ヲ加
フルトキハ莫大ノ金額ニ上リ輸出貿易、産金其ノ他金銀
ノ動員等ニヨル輸入力二十億圓ヲ以テシテハ如何トモナ
シ難キ實情ニアリ此ノ點ヨリ見レハ帝國ハ茲二三年間極
メテ困難ナル時期ニ直面シ居ルモノト云フヘク英米トノ
經濟關係ノ惡化ハ忽チ前記諸計畫ノ遂行ニ重大ナル障礙
ヲ與ヘ延イテ支那事變ノ處理ニモ影響スル處甚大ナルヘ
キヲ虞ルルモノナリ本項ハ嚴ニ貴官限り御含ミ迄
伊ニ轉電アリ度シ

58 昭和14年 4月21日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

防共協定強化交渉におけるわが方の態度次第
で独伊は対ソ関係の調整もあり得るとのロッ
ベントロップ内話について

●
第三七〇號(絶對極秘)

大島及白鳥ヨリ

二十日ノ「ヒ」總統誕生日ハ早朝ヨリ深夜ニ至ル迄種々ノ
催シアリ外相トシテハ極メテ多忙ナル一日ナリシニモ拘ラ
ス同外相主催ノ「アドロンホテル」ニ於ケル「レセプション」ノ混雜ノ裡ニアリテ本使等兩人ト懇談致シタシトノ申
立テアリ午前二時ヨリ三時二旦リ別席ヲ設ケテ會談ス要領
左ノ通

「リ」ハ先ツ改メテ今日ノ國際關係ニ於テ日獨伊ノ三國
樞軸カ如何ニ有力ニシテ望マシキカヲ縷々説キ此ノ一角
カ崩ルルコトハ三國ノ爲不幸ナル所以ヲ力説シ問題ハ要
スルニ日本カ本協定ヲ以テ現下世界歴史ノ大轉換機ニ際
シ決定的ノ役割ヲ演スルモノナリトノ高キ見地ヨリ之レ
ヲ觀察スルヤ否ヤニ在リ單ニ三國各々ノ目前ノ必要ト云
フ點ヨリ見レハ本協定ヲ最モ有利ニ利用シ得ルハ日本ナ
ルヘク獨伊ノ關スル限りハ幾度モ云ヘル通り今日「ヨー
ロッパ」ニ於テハ我々ハ優勢ナリ明日ニモ戰爭アラハ疾

ベルリン 4月21日後発
本省 4月22日前着

風迅雷英佛ノ聯合勢力ヲ打破スルノ確信アリ米國ノ如キハ英佛ヲ助ケントスルモ其ノ餘裕ヲ與ヘサル決心ナリ我々カ三國協定ヲ欲スルハ斯クノ如キ目前ノ局面ニ重キヲ置ク次第二アラスシテ世界歴史ノ大轉換人類文明ノ立直シヲ實現シ正シキ世界平和ヲ確立セントスルニ在リ

二、然シナカラ眼前ノ歐洲局面ニ於テ我々カ愈々英佛ト戦ヒヲ覺悟スル段トナレハ「ソヴィエト」ロシアヲ敵ノ陣營ニ走ラシムルコトハ甚タ拙策ニシテ實ハ今日英佛ト獨伊ト何レカ「ソヴィエト」ヲ味方トスルカノ問題カ漸次現實的ノ意義ヲ有シツツアリ、本協定ニ關スル日本ノ回答カ「ノウ」ナラハ我々トシテモ此ノ點考慮セサルヲ得ス、抑々伊太利ハ防共協定ニ加入スル迄ハ蘇聯トハ頗ル良好ナル關係ニアリタル次第ナルカ日獨提携ニ關スル自分ノ確キ信念ト不動ノ政策ニ動カサレ云ハバ心ナラスモ蘇聯ヲ向ニ廻ハシ今日ニ至レルモノニテ「スペイン」問題ノ解決シタル今トナリテハ伊太利政府ハ英佛牽制ノ爲ニモ寧ろ蘇聯トノ親善關係ノ復活ヲ内心欲シ居ルコトハ否ムヘカラス、而シテ蘇聯側ヨリモ頻リニ伊太利ニ働キカケツツアルハ事實ナリ、然ノミナラス蘇聯ハ獨逸ニ對シテ

モ公式ニハアラサルモ色々ノ筋ヲ辿リテ余自身及總統ノ側近ニ兎角ノ申出ヲ爲シツツアリ、彼等ノ云フ所ヲ二三列擧スレハ一切猶太人ヲ蘇聯政府ヨリ排斥スルトカ蘇聯ハ決シテ「デモクラシー」ニハアラスシテ獨伊ト同様ノ政治形態ヲ採ラントシツツアリ經濟上ノ提携ハ勿論軍事上ニ於テモ獨逸ノ教官ヲ入ルル等種々協力ヲ欲スルモノナリトカ又今日蘇聯ニハ「ボルセビキー」ナルモノナシ等云フニアリ、此等ハ何レモ一應肯カルコトニシテ自分モ今日トナリテハ「ヒ」總統トシテ必要止ムナシトアラハ蘇聯トノ諒解ヲ躊躇スヘキ何等理由ナシト思考スルモノナリ、然シテ國內殊ニ財界ニハ蘇聯トノ關係調整ヲ望ム向頗ル多キ次第ナリ固ヨリ自分ハ一旦打建テタル外交政策ヲ變更スルコトハ飽迄モ避ケタキ所存ニシテ今後モ日獨親善關係ノ維持ニ努力スヘキモ我々カ今日迄總ユル努力ヲ傾ケ誠意ヲ盡クシタルニ拘ラス日本側ニ於テ不幸我々ト見解ヲ異ニセラルルナラハ萬策玆ニ盡クル次第ニシテ自分一個ノ力ヲ以テシテハ前陳ノ如キ不愉快ナル局面ノ展開ヲ見ルコトヲ妨ケ得サルヘキヲ恐ル

三、獨伊ノ樞軸ニ加フルニ日本ヲ以テセハ其ノ偉力ハ絶大ナ

ルモノアリ従ツテ「デモクラシー」諸國ハ借款ノ提供等種々日本誘惑ノ手ヲ延ハシツツアルコト想像ニ難カラス、然シナカラ日本ニシテ彼等ノ考ニ乗セラレ此ノ大事ノ問題ノ處理ヲ誤ラルルニ於テハ幾干モナクシテ必ス後悔セラルコトヲ確信ス、實ハ既ニ彼等ノ或者ハ(國名ハ申シ上ケ兼ヌルモ)獨逸ニ對シ十億馬克ノ現金ヲ獨逸銀行ニ前拂スヘキニ付今年末迄ニ右金額ニ相當スル武器軍需品ヲ支那側ニ供給サレタシトノ提議ヲ爲セルモノアリ、日獨伊同盟不成立ト聞カハ今後彼等ノ壓迫力日本ノ對支政策ニ集中セラルヘキハ一點疑ヒナキトコロナリ

四、自分ハ以上申上ケタル諸點ニ關シ未タ「ヒ」總統ニ意見ノ具申ハ爲シ居ラサルモ、伊太利側ヨリハ何時トモ的ノナキ本協定ノ成否ヲ待ツコトナク獨伊樞軸ヲ一層強化スルノ協定締結方ヲ頻リニ督促シ來リ居リ米國大統領ノ提議ニ對シ總統ハ來ル二十八日議會ニ於テ國民ニ訴ヘントセラレ居リ獨逸トシテハ日本政府ノ決定的御意向ヲ此ノ處三四日中ニ是非共承知致度ク若シ何等御回答ナキニ於テハ協定ハ成立ノ見込ナキモノト認メ我々ハ其ノ覺悟ヲ以テ内外ノ處置ヲ進ムルコトト致スヘシ

59

昭和14年4月21日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

独伊側の督促に鑑み現地の交渉状況を踏まえ

た政府方針の至急回示方請訓

ベルリン 4月21日後発

本省 4月22日前着

第三七一號(絶対極秘)

大島及白鳥ヨリ

貴電第一七六號御訓令ニ基キ獨伊ニ對シ接衝ヲ行ヒタル結果ハ當時詳細報告シタル通ニシテ右接衝ノ模様ニ鑑ミ本使等ヨリ改メテ請訓ニ及ヒタル處其ノ後政府ヨリノ御來示ハ貴電第二一四號ノミナルカ右ハ本使等ノ請訓ニ對スル御返答トハ認メ難ク爾來累次往電ニ對シ一言半句ノ御垂示ニ接セス獨伊側ヨリハ其ノ間頻リニ督促アリ本使等トシテハ帝國政府ノ御意向ヲ反映スル何等ノ應答ヲ爲シ得サル次第ニシテ斯クノ如キ事情ニ於テ徒ラニ任地ニ在ルモ何等在外使臣タルノ任務ヲ果シ得ス往電第三七〇號ノ通り獨逸政府トシテモ茲數日中ニ回答アリタシトノ最後の申入レモアルニ鑑ミ至急何分ノ御指令ヲ得タシ

60

昭和14年4月23日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛（電報）

参戦の解釈および従来の訓令に則して交渉方回訓

本省 4月23日発

第二三八號（絶対極秘）

貴電第三六五號ニ關シ

獨伊カ蘇ヲ含マサル第三國ノ攻撃ヲ受ケタル場合帝國トシテ獨伊側ニ立ツコト勿論ナルカ獨伊側ニ立ツトカ「戦争ニ参加スル」トカ云フ意味ハ往電第二一四號回訓ノ通り協定第二條ノ「支持」及第三條ノ「助力及援助」ヲナスコトニシテ且第三條ノ「助力及援助」ノ内武力援助ニ關シテハ之ヲ行フヲ原則トスルモ「現在及近キ將來ニ於テハ有效ニ之ヲ實施スル能ハサル限度ノモノ」即チ當方解釋ノ如キ「戦争参加」ノ態様ハ戦争勃發ノ場合ニ於テ帝國ノ實施スヘキ武力援助ノ程度方法等ノ實際ニ依ルヘキモノニシテ將來戰發生ノ形態等ヲモ併セ考フル時ハ宣戰ヲ布告スル場合モアリ又當時ノ情況ニ應スル如キ宣言乃至聲明ヲ行フニ止ムルヲ可トスル場合モ存スヘク又何等ノ意思表示ヲ行ハス事實上援助ヲ與フルコトモアリ得ヘシト解シ居ル次第ナリ從テ

貴電第三四四號ノ趣旨ハ大體差支ナキヤニ考ヘラルルモ右貴電中ニハ貴使トシテ腑ニ落チ兼ヌル字句等モアリトノコトナルニモ顧ミ右腑ニ落チ兼ヌル點御回示アリ度シ
尙貴電第三七一號ニ關シテハ往電第一七六號及第二一四號訓令ニ依リ交渉セラレ度シ
伊ヘ轉電アリ度シ



61

昭和14年4月24日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛（電報）

防共協定強化交渉の妥結は絶望につき本国召

還方請訓

ベルリン 4月24日前発

本省 4月24日後着

第三七五號（絶対極秘）

白鳥及大島ヨリ

貴電第二三八號ニ關シ

一、帝國政府ニ於テハ依然トシテ武力援助ノ對象ヲ一般的トスルコトヲ躊躇セラレ居リ參戰ノ義務ニ付テハ之ニ特別ノ解釋ヲ附シテ普通ノ意義ノ參戰義務ヲ負フコトヲ避ケ

ントスルノ御方針ナリト認メラルル處此ノ點ハ獨伊側ニ於テ最重要視シ居リ彼等ノ眞意ハ從來幾回モ電報シタル通りニシテ今更貴電ノ如キ申入レヲ爲スモ到底同意ノ見込ナク飽迄モ武力援助ノ對象ハ一般的トシ參戰ハ普通ノ意味ニ於ケルモノナルコトヲ固執スヘキハ明ナリ冒頭貴電ニ依レハ貴電第二一四號ノ趣旨ニ基キ此ノ上交渉ヲ續行スヘシトノコトナルモ事情右ノ如クナル以上全ク成算ナキノミナラス本使等ハ貴電第一七六號ニ基キ此ノ點ニ關シ帝國政府ノ御意向トシテ既ニ先方ニ明確ナル言質ヲ與ヘ獨伊トシテハ右言質ニ基キ條約本文等ヲ鵜呑ニシタル次第ニシテ今ニシテ御來示ノ如キ説明ヲ爲スコトハ曩ノ言質ヲ覆スモノト解スヘク帝國政府ノ信義ニモ關スル儀ニシテ本使等トシテハ到底先方ニ申入ルルノ立場ニ在ラス、ノミナラス同シク交渉ノ決裂ヲ來タストシテモ斯クノ如キ經緯ノ中ニ物別レトナルハ將來ノ爲甚タ面白カラスト存ス

二、往電第三七〇號「リ」外相ノ言ハ彼ノ口ヨリ突如トシテ公言セラレ而モ之ヲ帝國政府ニ報告スヘキコトヲ期待セラルハ甚タ意外ニシテ本使等トシテモ之ヲ電報スルコトニ

躊躇シタル次第ナルカ「リ」ノ態度及言語氣頗ル眞劍ニシテ如何ニ彼カ思ヒ詰メタルカヲ窺ハシメタルヲ以テ率直ニ稟申シタル次第ナルカ先方ヲシテ斯クノ如キ言ヲモ吐カシムルニ至ツテハ問題ハ頗ル險惡ナル段階ニ達シタリト云フヘシ

三、斯クシテ本使等ノ觀ルトコロヲ以テスレハ本件交渉ハ茲ニ絶望トナリ此ノ上何等策ノ施スヘキヲ知ラス斯ル重要國策ノ遂行ニ關シ蹉跌ヲ來タシタルハ本使等ノ不敏ノ致ストコロニシテ恐縮ニ堪エス就テハ直ニ本使等ヲ御召還相成度シ

尙本使等トシテハ本件カ此ノ不幸ナル結末ヲ見ルニ至リタル事情ニ付キテハ獨伊側ニ對シ從來ノ經緯ヲ率直ニ告クルノ外ナカルヘシト認メラルル處其ノ他本使等出發前善後ノ爲執ルヲ適當トスル措置アラハ御訓電相成度シ
伊ニ轉電セリ



62

昭和14年4月26日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

樞軸強化に対する日本の消極姿勢に関する英

国紙報道について

第四二四號

一般的情報

ロンドン 4月26日後發

本省 4月27日前着

二十五日「タイムス」東京特電ハ日本政府ハ最近引續キ重大協議ヲ行ヒ居ル處「ヒットラー」ハ二十八日ノ演説ニ於テ日本カ樞軸國ニ加擔シテ太平洋ニテ戰フヘキ旨ヲ言明スルコト難シカルヘシト報シ所謂樞軸同盟ニ對シテハ國內各方面ニ反對アリ先週末迄ハ政府ノ決定ハ凡ソ豫期シ得タル位ナルカ今以テ協議行ハレ居ル點ヨリ見レハ獨逸側ニ於テ日本ニ壓迫ヲ加ヘ居リ又有力分子ノ支持アル爲右決定ニ再検討行ハレ居ルモノト觀察セラル閣員ノ大多數ハ同盟ニ反對ニシテ議會モ反對ナルハ樞軸強化要求ノ決議上程ヲ否決シタルニ依リ明カナリ同盟賛成者ハ主トシテ陸軍ニシテ右ハ在支軍人ノ意嚮ヲ反映スル所鮮カラス英國ハ蔣政權ヲ支持スルヲ以テ敵國ト同視スヘシトノ極端ナル意見モアル處海軍トシテハ蘇聯ト共ニ大海軍國ヲ敵ニ廻スコトニ反對シ居リ米大統領ノ執レル措置ノ影響モ亦大ナルモノアリ從テ

用語ノ上ノミニテ樞軸ヲ強化スルコトハアリ得ヘキモ一般情勢延イテハ内閣ノ前途モ機微ナルモノアリト報セリ

尙二十六日「エキスプレス」外交記者ハ羅馬ヨリ得タル情報トシテ「チアノ」外相ハ二十八日「ヒットラー」演説ヲ傍聽スル筈ナリシモノヲ取止メタルハ日獨伊軍事同盟發表ニ關スル交渉カ行詰リトナレル爲ナリ「ヒットラー」ハ防共協定ヲ積極化シ二十八日ノ演説中ニ之ヲ發表シテ「チアノ」ハ伯林ニ於テ日本大使ト共ニ之ニ調印スル計畫ナリシモ日本ハ米艦隊ノ太平洋集中ニ鑑ミ躊躇シテ決セス獨逸外交ハ日本政府ノ決意ヲ變更セシムヘク尙最後ノ努力ヲ試ミツツアルモ目下ノ所ハ米海軍ノ威力カ奏效シ居レリト報ス獨伊ニ轉電セリ

63 昭和14年4月28日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本政府は反民主主義同盟には加入しない方針を独伊両国へ伝達する予定との英國紙報道について

第四三五號

一般的情報

ロンドン 4月28日後発
本省 4月29日前着

所謂防共協定強化問題ニ關シ二十七日東京發「タイムス」
特電ハ政府ハ軍事同盟ヲ拒否スヘシトノ觀測專ラニシテ恐
ラク政府ハ東亞ニ於ケル獨立及行動ノ自由ヲ留保シ不脅威
不侵略ノ指導方針ヲ堅持スルコトナルヘク右條件ノ下ニ
防共協定ヲ強化(用語ニ於テノミ)セントスルモノト見ラル
ト報シ同日ノB U P通信(各紙ニ廣ク掲載セラル)ハ官邊ヨ
リ出テタル情報ニ依レハ日本ハ蘇聯參加ノ場合ヲ除キテハ
反民主主義同盟加入ヲ拒否スル方針ヲ決定シ平沼首相ハ獨
伊大使ヲ招致シ右ヲ通達スル筈ナルカ(獨逸側ニ於テハ日
本案ヲ受諾スル模様ナシ)平沼内閣ハ運命ヲ賭シテモ右方
針ヲ堅持スル趣ナリト報シ「ヨークシヤ」、ポスト」社説
ハ日本ハ支那事變ノ初期ニ於テハ蘇聯ノ介入ヲ恐レ獨逸ノ
協力ヲ求メタルモ獨逸ハ寧口冷淡ナリシカ今回ハ獨逸カ積
極的ニ日本ニ勦キ掛ケ英蘇接近及英國ノ蔣政權援助等ヲ理
由ニ防共協定強化方ヲ提議シ居レリ日本軍部ハ之ニ贊成ナ

ルモ政府ハ右協定ヲ字義通りニ解シ蘇聯ノミヲ對象トスヘ
シトノ方針ヲ堅持シ居レリトノ趣旨ヲ述ヘタリ
獨、伊へ郵送セリ

64 昭和14年5月5日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

在本邦独伊大使を通じてヒトラーおよびムツ
ソリーニへ伝達した總理意見を踏まえ防共協
定強化交渉の継続方訓令

別電 昭和十四年五月五日發有田外務大臣より在独

国大島大使宛第二二三号

右總理意見

本省 5月5日發

● 第二二二號(極秘)

貴電第三七五號ニ關シ

一、帝國政府トシテハ既定ノ方針ニ依リ本件交渉ヲ繼續シ協
定ノ成立ヲ期シ居ル次第ナル處現下歐洲ニ於ケル情勢ヨ
リ觀察セハ獨伊側ニ於テモ本件協定ノ成立ヲ希望シ居レ
リト認メラルルニ付我根本精神ヲ諒解スルニ於テハ協定

成立ノ可能性アルヘク又右我方ノ眞意ヲ了得セシムルニハ尙他ニ盡スヘキ手段モ有之様思ハル

二、即チ別電第二六三號平沼總理ノ意見(同佛譯文別電第二六四號ノ通)^(電文ス)ヲ駐日獨伊大使ヲ通シテ獨伊兩國首相ニ傳達スルノ處置ヲ採リ以テ貴兩大使ノ折衝ヲ支援スルコトトセリ

三、貴大使ニ於テモ右帝國ノ根本精神ヲ獨伊兩國ニ了解セシメ協約成立ノ爲此ノ上共一層ノ盡力アランコトヲ切二期待ス

訓令トシテ別電ト共ニ伊ヘ轉電アリ度シ

(別電)

本省 5月5日發

●第二六三號(極秘)

平沼内閣總理大臣ノ意見

余ハ獨伊宰相カ卓越セル先見ト金鐵ノ如キ意思ヲ以テ自國ノ新建設ト正義ニ基ク國際平和ノ建立ニ邁進シツツアル事實ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表スルモノニシテ余モ亦日本國總理大臣トシテ世界平和ト道義ニ基ク東亞ノ新秩序建設ニ全力

ヲ傾倒シ居ル次第ナリ、此ノ時ニ當リ既ニ兩國間ニ存在スル防共協定カ克ク其ノ效力ヲ發揮シ以テ兩國ノ使命遂行ニ資スルコト甚大ナルヲ認ム而シテ今次余カ現有防共協定ヲ強化シ日獨伊三國ノ提携ヲ益緊密ナラシムル目的ヲ以テ協約ヲ締結セントスルハ兩國ノ重大ナル使命ヲ完フシ世界平和ノ維持ニ貢獻セントスルモノニシテ一二道義ヲ基礎トシ利害ノ打算ニ出ツルモノニ非ス

右強化ノ内容ニ關シ日本トシテハ獨伊カソ聯以外ノ第三國ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニモ獨伊側ニ立チ之ニ政治上經濟上ノ援助ヲ與ヘ且ツ可能ナル武力援助ヲモ行フノ決意ヲ有シ居ルモノニシテ右決意ハ不動ノモノナリ

帝國ハ右ノ如ク協約ニ依リ獨伊ニ武力援助ヲ與フルコトヲ原則トスルモ諸般ノ情勢ニ依リ現在及近キ將來ニ於テ有效ナル武力援助ヲ與フルコトヲ得サル實情ニアリ尤モ將來可能ナルニ至リタルトキハ之ヲ與フルハ當然ナリ、其ノ事ニ付獨伊兩國ノ明確ナル了解ヲ得置カント欲スルモノナリ更ニ日本トシテハ其ノ當面スル國際環境ニ顧ミ本件協定發表ニ當リ外部ニナスヘキ説明ニ細心ノ用意ヲ必要トスルモノニシテ此點ニ付テモ獨伊兩國ノ明確ナル了解ヲ得置カム

トスルモノナリ

以上述フルトコロノ余ノ信念ハ道義ヲ基本トスルモノニシテ利害ノ打算ニ依ル論議ノ爲ニ動サルルモノニ非ス萬一我誠意ヲ疑フカ如キコトアラハ協約ノ精神的基礎ヲ動搖スルヲ以テ協約ハ不成立ナラサルヲ得ス

余カ以上ノ如ク卒直ナル所見ヲ披瀝スルハ一二協定ノ満足ナル成立ヲ熱望スルカ爲ナリ



65 昭和14年5月5日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本政府は民主主義國に對抗する一般軍事同盟の締結に難色との英国紙報道について

ロンドン 5月5日後発

本省 5月6日前着

第四六六號

一般的情報

往電第四三五號ニ關シ

其ノ後モ各紙ハ頻リニ東京通信ヲ掲載シ帝國政府ハ依然民主主義國ニ對スル軍事同盟締結ニ難色アリ國內ノ意見岐レ

居リ陸軍ハ贊成ナルモ政界上層部、海軍、資本家並ニ一般國民ハ概ネ反對ナリトノ趣旨ヲ報道シ居ル處四日「バイアス」通信ハ有田大臣カ拜謁後獨伊兩大使ヲ引見セルニ鑑ミ政府ノ方針決定ヲ見タルモノト思ハレ右ハ依然同盟ヲ拒否スルニ在ル模様ナリト報シ同「テレグラフ」通信ハ蘇聯ノ侵略ニ對抗スルコトヲ目的トスル軍事同盟案ヲ御裁可アラセラレタルモ政府部内ニハ民主主義國ニ對スル一般的同盟締結ニ反對スル勢力擴大シツツアリ有田大臣ハ人目ヲ避ケ密カニ「クレーギー」大使ト會見セリ等ノ「ニユース」ヲ報シ居レリ尙六日獨伊軍事同盟發表セラルヘシトノ取沙汰アリ



66 昭和14年5月6日

在上海三浦(義秋)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

防共協定強化問題に對し日本政府は現実的選択を採りつつありとの英字紙論調について

上海 5月6日後発

本省 5月6日後着

第一二二〇號

五日「ノースチャイナデイリーニュース」ハ社説ヲ以テ日本ハ獨伊トノ軍事同盟ヲ對蘇關係ノミニ限定スルコトニ決定シタリトノ東京電報力眞ナリトセハ日本カ獨伊ト共ニ民主國家軍ニ對抗スルヲ拒絕セルヲ意味シ防共樞軸ノ弱點ヲ示スモノナリ獨伊トノ一般の軍事同盟締結ニ關シテハ軍部内ニ相當支持アルモ海軍ニ反對アリタルコトカ拒絕ノ遠因トナリシモノナルヘキモ主要ナル理由ハ防共樞軸ニテ實利ヲ得タルハ獨ノミナルコト獨カ日本ノ外交政策ヲ指揮セントスルコトニ對シ相當ノ不平アルコトニ存スヘシ孤立外交政策ヲ取り最モ利益ヲ得ルハ日本ニテ日本ハ之ニ依リ獨伊ヨリ脅威セラルル惧モナク又民主國軍ノ怨恨ヲ買フコトモナク歐洲戰發生ノ場合多大ノ利益ヲ得ヘキヲ以テ日本カ眞ニ獨伊ト深入リセサルコトニ決セリトセハ日本ハ最モ現實的ナル政策ヲ取りツツアルモノナリト論セリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

67

昭和14年5月8日

在伊国白鳥大使より
有田外務大臣宛(電報)

独伊外相会談において両国の政治的および軍

事的協定の締結が決定した旨のコミニケ公表について

ローマ 5月8日後発

本省 5月9日前着

第一二四號(至急)

「チアノ」「リツペントロツプ」兩外相ノ六、七兩日ニ亘ル「ミラン」會談ニ關シ

本會談ニ於テハ現下ノ一般政情詳カニ檢討セラレ改メテ獨伊兩政府ノ完全ナル意見ノ一致確認セラレ樞軸兩國ノ關係ヲ政治的及軍事的協定ヲ以テ形式的ニモ決定的ニ規定スルニ決シタル旨ノ「コンミニニケ」公表セラレタリ尙八日「メツサゼロ」ハ右協定ノ「テキスト」ハ急速ニ作成セラレ遅クトモ六月初旬ニハ右協定署名ノ爲兩外相ノ再會合ヲ見ルニ至ルヘキ旨ヲ報シ他ノ各紙亦今次ノ會合ハ歐洲ノ平和ニ貢獻スヘキ歴史的ノモノナリトシテ其ノ重要性ヲ大々的二報シ居レリ

在歐各大使へ轉電セリ

68

昭和14年5月8日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本は防共協定を軍事同盟に強化せずとの報道に関する米国紙論調について

ワシントン 5月8日後発

本省 5月9日後着

第三七四號

最近東京ヨリAP、UP其ノ他諸紙ノ特電ニテ日本ハ防共協定ヲ軍事同盟ニ強化セサルコトニ決定セル旨傳ヘ右ハ各方面ノ注目ヲ惹キ居ルモノノ如ク六日紐育「ヘラルド、トリビューン」八日紐育「タイムス」ハ社説ヲ掲ケ日本ニ於テハ民主主義ハ成功セサリシモ決シテ全體主義ヲ採リ居ラス經濟關係ハ遙ニ英米民主國ニ對スル方密接ナル上蘇聯ニ對シテハ絶ヘス備ヘサルヘカラス從テ歐洲問題ニ捲込マルル譯ニ行カサルニ付「タイムス」協定強化ヲ避クルニ決定シ國內輿論竝ニ常識ニ從ヒタルモノナランモ軍ノ一部ニハ支那ニ於ケル征服戰爭ノ挫折ニ焦慮シ右決定ノ變更方運動シ居リ今(後)尙曲折アルヘシ「ヘラルド、トリビューン」ト爲シ居レリ

69

昭和14年5月16日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

独伊との軍事同盟締結問題をめぐる日本政府内の対立状況に関する米国紙報道について

ワシントン 5月16日後発

本省 5月17日後着

第四〇五號

十四日東京發「フライシヤ」ノ紐育「ヘラルドトリビューン」宛電話通信ハ内閣ハ數箇月ニ互ル協議ノ結果約一週間前獨伊ニ對シ軍事同盟ノ代リニ蘇聯ヲ目標トスル相互援助ヲ提議シタルカ時恰モ「チアノ」「リツペントロツプ」ノ「ミラン」會談ニ當リ獨伊ハ日本ヲ加ヘス軍事同盟ヲ締結スルコトニ決スルト同時ニ日本ノ提議ニ對シ不愉快ヲ感シタル旨答ヘ殊ニ獨逸ハ防共協定ノ廢止スラ仄メカシタル趣ナリ此ノ形勢ニ際會シ閣内ニハ軍事同盟ニ贊成ナル板垣陸相、小磯拓相ト之ニ反對ナル米内海相以下ノ閣僚トノ間ニ意見ノ對立ヲ生シ平沼首相ハ内閣ノ運命ヲ賭シ居ル由ナリ去ル九日ノ五相會議後陸海軍首腦部ハ別ニ會合ヲ催シ米内海相ハ翌日海軍ノ反對意向ヲ首相ニ傳ヘ陸軍側ハ未タニ

其ノ結果ヲ報告シ居ラサルモ同盟ニ賛成ナル旨豫想サル若シ陸海軍間ニ意見對立シ陸相又ハ海相ノ辭職トモナラハ内閣瓦解必然ナルニ付首相ハ妥協案ヲ樹テテ内閣延命ニ奔走中ノ趣ナリ政界ニハ總辭職ハ一週間乃至十日ノ問題ナリトテ後繼首相トシテ南、米内、木戸等ヲ舉クル者アリ南内閣トナラハ同盟締結サルヘク米内首相トナラハ反對論ノ勝利確立サレ陸海何レモ讓ラサル場合ハ木戸侯ニ大命降下スルナラン本問題ハ日本ノ將來ニ大ナル影響ヲ齎ス近年ニ無キ大問題トサレ居レルカ現在ノ所政府ノ政策タル反對論ノ趣旨ハ勝敗ノ歸趨不明ナルニ今獨伊側ニ附キ歐洲ノ紛争ニ直ニ捲込マルルコトハ避クヘシトシ殊ニ獨伊ト同盟ヲ結ハハ一旦紛争起ル場合米國ノ英佛側ニ附クコト殆ト確實ナルヲ以テ日本ハ欲セスシテ米國ト戰ハサルヘカラサル羽目トナルヘク支那ノ長期建設等東亞ニ爲スヘキコト多キニ鑑ミ遠隔ノ地ニ手ヲ伸ハスコトハ避クヘシト爲スニ在リ之ニ反シ同盟論者ハ英米佛等ハ日本ノ對支政策ヲ排撃シ居リ獨伊ト袂ヲ分タハ日本ハ孤立ニ陥ルヘシト論ス目下兩派共蘇聯ノ動キ殊ニ英蘇間ノ協定ノ成行ヲ凝視シ居リ「クレীগー」大使ハ日本政府ニ對シ英蘇協定ハ當分ノ間極東ヲ「カバ

ー」セサル旨正式ニ通告シ暗ニ日本ニシテ獨伊ト同盟セハ該協定ヲ極東ニモ延長スヘキヲ仄メカシタルモノト諒解セラルト傳ヘ居レリ尙未タ之ニ關スル論說現ハレ居ラス紐育ヘ暗送セリ



70

昭和14年5月18日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

防共協定強化問題に関する妥協案として平沼

内閣が一般的相互援助協定案を五相會議に提

出したとの米國紙報道について

ワシントン 5月18日後発

本 省 5月19日前着

第四一三號

往電第四〇五號ニ關シ

十七日東京發「フライシヤー」ノ紐育「ヘラルド、トリビ
ュン」宛電話通信ハ日獨伊同盟問題ニ關シ其ノ後平沼首相
ハ直ニ軍事同盟ニ入ルコトヲ避ケ同時ニ閣内及獨伊ノ反對
ヲ緩和スヘク辛フシテ軍事同盟ニ至ラサル程度ノ一般的相
互援助協定案ヲ妥協案トシテ五相會議ニ提出セリ其ノ内容

ハ嚴秘ニ附セラレ居ルモ相互援助協定ヲ防衛的タルノ諒解ノ下ニ蘇聯以外ノ他ノ諸國ニモ對スルモノタラシメントスルモノト信セラレ其ノ效果トシテハ日本ハ軍事同盟ヲ締結セル場合ノ如ク歐洲戰爭ニ直ニ捲込マルルコトナク局外ニ立ツ拔路ヲ見出サントスルモノト解セラル「ヒットラー」

總統ハ約六週間前日本政府カ同盟ニ贊成ナル在獨伊各大使ヲ支持セサルコト明カトナリタル時竝ニ先週在京獨伊大使ニ對シ軍事同盟ニ加ハラサル旨通告セル時(夫レニ引次キ獨伊ハ該同盟ニ入レリ)ト二回防共協定ノ廢棄ヲ脅カシタル趣ナリト報シ更ニ二十六日五相會議前首相ハ五相ト個別的ニ懇談セルコト陸軍首腦部會議アリタルコト從來ノ慣例ヲ破リ參議會カ獨立ニ政府ニ建言セントシ居ルコト其ノ内容ハ同盟反對ト認メラレ居ルコト等ヲ傳ヘ五相中外相及海相ハ同盟ニ反對ニテ陸相ハト言掛カケタル所ニテ本通信ハ切レ「トリビュン」本社ハ「恐ラク檢閲ニ依リ此ノ點ニテ電話切ラレタリ」ト註ヲ附シ居レリ

紐育ヘ暗送セリ

71 昭和14年5月21日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

対米關係への影響の観点から防共協定強化問題につき意見具申

別電 昭和十四年五月二十一日發在米國堀内大使より

有田外務大臣宛第四二四号

対獨伊關係強化の場合に予想される米國の反應について

ワシントン 5月21日前發

本省 5月22日前着

第四二三號(絕對極秘)

一、帝國ガ獨伊トノ間ニ英佛ニモ對抗スル相互援助條約ヲ締結スル場合ニハ帝國參戰ノ義務ハ飽迄蘇聯邦ノ參戰スル場合ニ限定シ且防共ヲ目的トスル結合ナルコトヲ外部ニ明ニスルコト我國策上得策ナルヘキヲ信ス而シテ現下ノ歐洲情勢ニ於テ獨伊、英佛ノ戰爭切迫セリトハ考ヘラレサルモ帝國カ萬一獨伊側ニ立チ參戰スル場合ハ勿論單ニ右參戰ノ決意ヲ豫メ表明スル場合ニ於テモ其ノ帝國ノ國際的地位ニ及ボス影響ニ付キテハ既ニ總ユル觀點ヨリ攻

究ヲ盡クサレタルコトト拜察スルトコロ何レノ場合ニ於
テモ帝國ハ反對陣營ノ諸國家ヨリ受クル壓迫ヲ最モ少ク
スルハ喫緊ノ事ナルヘシ此ノ見地ヨリ見ルニ帝國カ實際
上獨伊ニ對シ與ヘ得ル援助ノ程度ハ大體自主的ニ之レヲ
決定スヘキモ他方右援助殊ニ武力援助ハ當然英佛ニ對ス
ル我敵對行爲ト目サルヘキヲ以テ其ノ結果帝國カ英佛竝
ニ之レニ加擔スル其ノ他ノ國ヨリ如何ナル攻撃乃至對抗
手段ヲ受クルコトアルヘキカノ考察コソ帝國ニトリ極メ
テ緊要ナリト思考ス此ノ點ニ於テ最モ重大ナル關係ニア
ルハ帝國ノ英帝國ニ對スル經濟的依存關係ナルト共ニ米
國ノ執ルヘキ態度如何ノ問題ナリ英國側カ海外決濟ノ七
割ヲ占ムル「ロンドン」金融市場ヲ我ニ閉鎖シ全帝國ヲ
動員シテ物資供給ヲ斷ツカ如キ場合ニ於テモ米國カ中立
ヲ維持スル限り帝國ノ國防經濟ハ相當ノ活路ヲ保チ得ヘ
キモ若シ米國カ英佛ト共ニ對日經濟壓迫ニ出テ更ニ進ン
テ參戰スルカ如キ場合ニ於テハ帝國ノ不利益蓋シ想像ニ
餘リアルヘシ故ニ米國ノ態度コソハ帝國ノ對獨伊關係決
定上最モ慎重ニ檢討スルノ要アリト思考ス

二、歐洲政局ニ對スル米國ノ方針ニ付キテハ累次ノ拙電ニ依

リ既ニ御了悉ノ如ク要スルニ英佛對獨伊戰ノ場合ニハ成
ルヘク參戰ヲ避ケツツモ英佛ニ對シ財政經濟的援助ハ勿
論武器其ノ他軍需品ノ供給ニ於テモ出來得ル限り便宜ヲ
與ヘントスルニ在リ右ハ所謂全體主義國ノ侵略ニ對シテ
「デモクラシー」國ヲ援護シ延イテ米國ノ利益及安全ヲ
確保スル所以ナリトノ認識ヲ國民ニ普及セシムル爲メ政
府ニ於テ百方宣傳ニ力メツツアル實情ナリ故ニ議會内外
ニ於テ孤立主義者ノ主張ハ今尙相當根強キモノアルモ政
府ハ現ニ英佛竝ニ其ノ外廓ト目サルル和蘭等ニ對シ飛行
機其ノ他國防充實ニ必要ナル物資ノ供給上總ユル便宜ヲ
供シツツアリ

然カモ當國輿論ハ概ネ之レヲ是認シ言論界ハ「ハース
ト」系一派ヲ除キテハ殆ンド一齊ニ右英佛ニ組スル政府
ノ措置ヲ以テ當然ト爲シ且ツ既定ノ國策遂行ナルカ如ク
報道シ居レリ從ツテ帝國ハ獨伊トノ間ニ軍事同盟ヲ締結
スルニ至ルヤ否ヤハ今日米國朝野ノ一樣ニ重大關心ヲ示
シ居ル處ニシテ愈々軍事條項ヲ含ム相互援助條約成立ノ
場合ニ米國ノ執ルヘキ態度ハ之レヲ想像スルニ難カラス
三、即チ(イ)右協定ノ結果將來日本カ獨伊ニ組シテ英佛ト戰フ

カ如キ場合ニハ米國ハ差シ向キ出兵以外ノ手段ニ依リ英佛ヲ助ケ日獨伊ヲ牽制スヘク勢ノ赴クトコロ結局ハ參戰ノ已ムナキニ至ルヘシ(ロ)差當リ歐洲戰爭起ラス日本ノ參戰直接ノ問題トナルニ至ラストスルモ開戰ノ場合日本ハ當然獨伊側ニ立チテ參戰スルモノナリトノ決意ヲ表明スルニ於テハ米國ノ對日感情ハ著ルシク惡化シ經濟壓迫ハ益々強化セラルルニ至ルヘキハ當然ナリ

而シテ此ノ場合大体ノ豫測ハ別電第四二四號ノ通りナルカ右ニ關シテハ我方ニ於テ相當深刻ナル影響ヲ覺悟シ豫メ具體的對策ヲ講シ置クコト必要ナルヲ痛感ス

四、尙帝國ノ對獨伊關係強化ヲ公表セラルル場合ニ帝國カ國策上何故獨伊ニ組スルカノ理由ヲ闡明シ大義名分ヲ明ニセラルルコトハ中外ノ輿論指導上極メテ肝要ナリト存ス此ノ點ニ付キ人類ノ公敵タル「コミンターン」ノ破壞工作ハ我國體竝ニ國防ニ對スル重大脅威ナルカ故ニ獨伊ト共ニ之レヲ防壓スルノ要アリトノ當初ヨリノ我方説明ハ少クモ米國有力方面ニ對シ相當ノ效果アリ(尤モ米國ニ在リテハ全体主義ヲ以テ共產主義ニ劣ラサル「デモクラシー」ノ脅威ト考ヘ居ルコトハ御承知ノ如シ)然シナカ

ラ右ノ關係ヲ離レ帝國カ獨伊ヲ助ケテ英佛ニ對抗セサルヘカラサル理由ヲ如何ニ説明スヘキカ勿論英佛カ帝國ノ東亞新秩序建設ヲ^前防害スル場合ハ帝國トシテハ我政策ノ支持者タル獨伊ト共ニ當然之レヲ反擊スルモノナリトノ主張ヲ爲シ得ヘキモタダ英佛カ蘇聯邦ト關係ナク歐洲ノ領土問題ニツキ獨伊ト爭フ場合ニ我ヨリ獨伊ヲ助クヘキ理由如何ハ充分中外ニ徹底セシメラルル必要アルヘク此ノ邊ハ既ニ御攻究済トハ存スルモ氣付ノ儘申添フ

(別電)

第四二四號

往電第四二三號ニ關シ

最近ノ歐洲政局ノ緊迫及支那ニ於ケル我方活動ノ新展開等ニ伴ヒ政府筋ニ於テモ我方ニ對スル經濟制裁措置ヲ講究シ居ル形跡顯著ナルコト累次報告(往電第三五一號第三八八號及第三八九號等御參照)ノ通りニシテ帝國カ對獨伊關係ヲ強化セリトノ事實明トナルニ於テハ當國朝野ノ對日感情

ワシントン 5月21日前發

本 省 5月21日夜着

ハ著ルシク惡化シ其ノ速度ハ俄カニ豫斷シ得サルモ大体左ノ方向ヲ辿ルモノト豫想セラル

(一)重要物資ノ對日禁輸

中立法關係ニテハ如何ナル修正力加ヘラルルニセヨ結局外貨及輸送能力ヲ併有スル英佛ニ都合ヨキモノタルニ相違ナク其ノ點ニ於テハ帝國ニ不利トナルコト萬ナカルベク問題ハ寧ロ「ピットマン」ノ九ヶ國條約違反國ニ對スル通商制限決議案(往電第三四六號及第三四八號御參照)ノ如キモノナルカスル案力議會ヲ通過スルハ日米國交斷絶ノ一步手前ナルヘク直クニ其處迄ノ事態ニ行クモノトハ思考セラレサルモ昨年來行政措置ニ依リ事實上飛行機及同器材ノ對日禁輸ヲ行ヒ居ル遣口ヲ更ニ爾餘ノ武器屑鐵鋼「モーターツラツク」類石油等我國力差シ向キ極度ニ輸入ヲ必要トスル重要物資ニモ及ホシ來ルヘシ(往電第三三八號)右ハ中立法ノ修正乃至通商制限法ノ制定ヲ待タシテ政府ノ内面指導ニ依リ之レヲ實行シ得ルトコロナルニ鑑ミ最實現ノ可能性アル措置ト認メラル

(二)邦品輸入ニ對スル障礙

當國ニ於テ相當規模ノ借款「クレヂット」ノ取付ケ殆ト

不可能ノ現況ニ於テハ主トシテ輸出ノ振興ニ依リ輸入力ヲ培養セサルヲ得サル處當國政府ハ前記對日通商制限案ノ如キ新ナル立法ヲ待ツ迄モナク關稅法ノ諸條項トチホン法ダンピング防止法其ノ他ノ規定ニ基キ些細ノ事實ニ藉口シテ漸次ニ邦品ノ輸入ヲ制限スル措置ヲ執リ得ル立場ニ在リ現ニ關係事務當局間ニ聯絡研究ヲ遂ケツツアル形跡アルコト前述ノ通ナルニ付此等ノ措置ヲ實施シ來ルヘキハ豫想ニ難カラサル處ニシテ特ニ注意ヲ要スルハ本法^(邦)ニ於テ何等カノ形ニ於テ輸出補助金ヲ交付シ居レルコトニツキ米國ノ出先官憲等ニ疑問ノ餘地ヲ與フルカ如キ場合ニハ獨逸ニ對スル相殺關稅ノ附課(往電第四〇七號及第四〇八號)ノ經緯ニ鑑ミ邦品ニ對シ同様ノ措置ヲ誘致スルコトナキヲ保セサルコト之レナリ

(三)金融上ノ措置

最終ニ我方ニ最モ重大ナル影響^(影)ヲ及ボスベキハ紐育市場ニ於ケル金融上ノ便宜差止メノ手段ナリ御承知ノ如ク我國ノ現送金ニ對シ聯邦準備銀行ハ今日迄財務省指圖ノ下ニ我ニ有利ナル値段ニテ買入レヲ爲シ來レルノミナラズ「イヤーマーク」ノ如キ多大ノ便宜ヲ與ヘツツアリ米國

側ニ於テ將來右ノ取扱ヒヲ差止メ又滿洲事變以來既ニ相當窮屈トナリ居ル紐育各主要銀行ノ對本邦銀行金融取引ヲ更ニ一段ト引締ムルニ至リ更ニ一步ヲ進メ「ロンドン」市場ト相呼應シテ右措置ニ出ツルニ於テハ我海外輸出入ハ物々交換ノ外殆ント途ナキニ至ルヘク斯ル場合ノ對策ハ豫メ攻究シ置カルルノ要アリト思考ス

72 昭和14年5月22日

在独国大島大使より
有田外務大臣宛(電報)

独伊友好同盟条約成立について

別電 昭和十四年五月二十二日發在独国大島大使より

り有田外務大臣宛第四八二號

右条約文要訳

付記 昭和十四年五月二十二日

右条約成立に関する情報部長談

ベルリン 5月22日後發

本省 5月23日前着

第四八一號

今二十二日午前十一時當地ニ於テ獨逸伊太利間友好同盟條

約署名セラレ即日效力發生セリ尙右條約ハ本日直ニ發表セラレタルカ其ノ内容別電第四八二號ノ通り別電ト共ニ在歐大使、米へ郵報セリ

(別電)

ベルリン 5月22日後發
本省 5月23日前着

第四八二號

獨逸國宰相及

伊太利及「アルバニヤ」國王「エチオピア」皇帝ハ

國粹社會主義獨逸國及「フアシスト」伊太利國間ニ現存スル友好連帶關係ヲ嚴肅ナル條約ニ依リ強化スルノ秋來レリト認メ

獨逸國及伊太利國間ノ共同ニシテ且永久ニ確定セラレタル綱領ニ依リ相互ノ援助及支持ニ對スル確實ナル連鎖力創設セラレタル後兩國政府ハ其ノ基調及目的ニ於テ既ニ以前ヨリ合意成立シ兩國ノ利益促進竝ニ歐洲ニ於ケル平和昭確保^(和カ)ノ爲有效ナリト證明セラレタル政策ヲ改メテ承認シ

共通ナル世界觀及利害關係ノ總括的連帶性ニ依リ固ク相互

ニ結合セラレ獨逸國民及伊太利國民ハ將來ニ於テモ相竝ヒ
力ヲ併セ其ノ生存區域ノ確保及平和ノ維持ノ爲努力スヘク
決心シ

獨逸及伊太利ハ斯ノ如ク既ニ歴史ニ示サレタル道ニ從ヒ不
安ト破壊ノ世界ノ眞只中ニ歐洲文化ノ根底ヲ確保スルニ役
立タンコトヲ欲シ

是等原則ヲ條約ニ確定センカ爲

獨逸國宰相ハ

外務大臣「ヨヒム・フォン・リッペントロップ」ヲ

伊太利及「アルバニヤ」國王「エチオピア」皇帝ハ

外務大臣伯爵「ガレアツオ、チアノ、デイ、コルテラツツ
オ」ヲ

全權委員ニ任命シ兩全權委員ハ互ニ其ノ良好妥當ナリト認
メラレタル全權委任狀ヲ交渉シタル後左ノ通り協定セリ

第一條 兩締約國ハ絶エス接觸ヲ保チ總テ共同ノ利益若ク
ハ歐洲全體ノ情勢ニ關スル問題ニ付了解ヲ遂クヘシ

第二條 兩締約國ノ共同利益カ何等カノ國際的事件ニ依リ
脅カサレタル場合兩締約國ハ共同利益ノ確保ノ爲執ルヘ
キ措置ニ付直ニ協議スヘシ

締約國ノ一方ノ安全若クハ其ノ他ノ重大ナル利益カ外部
ヨリ脅サレタル場合他ノ締約國ハ此ノ脅威ヲ排除スル爲
右締約國ニ對シ全力ヲ以テ政治上外交上ノ支持ヲ與フヘ
シ

第三條 兩締約國ノ願望及期待ニ反シ締約國ノ一方カ他ノ
一又ハ多數ノ國家ト爭フニ至リタル場合他ノ締約國ハ同
盟國トシテ直ニ右締約國ノ側ニ立チ陸海空軍ノ全力ヲ以
テ之ヲ支持スヘシ

第四條 有時ノ際⁽⁹⁾第三條所定ノ同盟義務ノ迅速ナル實行ヲ
期スル爲兩國政府ハ軍事的及戰時經濟的領域ニ於ケル協
力ヲ強化スヘシ

同様ニ兩國政府ハ本條約規定ノ實施ニ必要ナル他ノ措置
ニ付テモ絶エス相互ニ諒解ヲ遂クヘシ

兩國政府ハ本條第一項及第二項ニ掲クル目的ノ爲常置委
員會ヲ組織スヘシ常置委員會ハ兩國外務大臣ノ指揮ニ屬
ス

第五條 兩締約國ハ共同ニ戰爭ヲ遂行セル場合休戰及講和
ハ相互ノ完全ナル一致ニ依リテノミ之ヲ行フコトヲ約ス
第六條 兩締約國ハ其ノ友邦國ニ對スル共同ノ關係カ有ス

ル意義ヲ意識シ將來ニ於テモ右關係ヲ維持シ兩締約國ト右友邦トヲ結合スル一致セル利益ニ應シ右關係ヲ強壯ニ發展セシムルノ決意ヲナセリ

第七條 本條約ハ署名ト共ニ效力ヲ發生ス兩締約國ハ其ノ最初ノ有効期間ヲ十年ト確定スルニ一致セリ本條ノ協力延長ニ付テハ有効期間ノ經過前適宜諒解ヲ遂クヘシ
右證據トシテ下名ハ本條約ニ署名調印セリ

一九三九年五月二十二日即チ「フアシスト」曆第十七年伯林ニ於テ

獨伊兩國語ヲ以テ同様ノ效力ヲ有スル本證ニ通ヲ作製セリ

(付記)

獨伊友好同盟條約ノ締結ニ關スル外務省情報部長談

(五月二十二日)

本日獨逸ト伊太利トノ間ニ友好及同盟條約カ締結セラレタカ本條約ハ元々兩國ノ隣接關係竝ニ兩國ノ歐洲ニ於ケル特殊ノ地位ニ由來スルモノテアル。

獨伊兩國ハ伯林羅馬樞軸ノ結成以來今日迄多難ナル歐洲國際政局ニ處シテ其ノ強固ナル結合力ヲ發揮シ特ニ昨年カラ

本年ニ亘ツテ發生シタ獨逸合邦「ズデーテン」問題「チエツコ」併合「メーメル」地域回復及「アルバニア」問題等ニ際シテハ兩國互ニ良ク支援シ其ノ要求ヲ貫徹シタコトハ眞ニ驚異ニ値スル事實テアル。是ハ一二兩國カ相互ニ夫々ノ所信目的ニ關シ完全ナル同情ト諒解ヲ有シ殆ント一體トナツテ行動シタカラニ因ルモノト思フ。

抑モ獨伊樞軸ハ之ヲ從來ノ如ク不文ノ儘ニ置カウト又新ニ成文化シヤウト其ノ鞏固サニ於テハ何等異ルトコロナイテアラウカ本條約ノ成立ニ依リ樞軸政策ノ運用上大ナル進歩ヲ見ルニ至ツタトイフコトカ出來ル尙又同樞軸ノ脆弱性ヲ云爲スルカ如キ惡意ノ宣傳等ハコレニ依リ今後全ク地ヲ拂フコトトナルテアラウ。以上ハ歐洲ノ將來ニ重要ナル關係ヲ有スルモノテアツテ本條約ハ歐洲現下ノ危機ニ際シ必スヤ世界ノ平和ト進運トニ貢獻スルトコロ極メテ大ナルモノカアルト信スル。

今ヤ帝國外交ノ基軸ハ共產主義撲滅ヲ目的トスル防共協定ニ置カレテ居リ右協定ノ精神ニ於テ獨伊ト緊密ナル提携ヲ爲スニアルコトハ動カスヘカラサル國策テアル。從テ防共ノ盟邦タル獨伊兩國カ本條約ノ締結ニ依リ其ノ關係ヲ全面

的二完整シ強固ナル陣形ヲ造ルニ至ツタコトハ帝國トシテ
欣幸ニ堪エサル所テアル。此意味ニ於テ吾人ハ本同盟成立
ニ對シ祝意ヲ表スルモノテアル。

~~~~~

73

昭和14年5月22日

在獨国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

防共協定強化交渉の経緯に関する大島大使所感

ベルリン 5月22日發

本省 着

郵送第一號(絶對極秘)

日獨伊三國協定問題ニ關スル交渉ハ貴電第二九七號御訓令  
ニヨリ行詰リ本使トシテ最早策ノ施スヘキモノヲ知ラス往  
電第四七七號ノ通り最後ノ所信ヲ上申セル以上何等意見ヲ  
申スヘキ筋ニ非サルモ本件交渉ニ關シテハ當初ヨリ種々特  
殊ノ經緯アリ之ニ關シ出先トシテノ經驗及其他ノ感想等ヲ  
率直ニ開陳シ置クコトハ將來ノ交渉ノ爲必要ニシテ又參考  
トナルヘキ點アリト信スルヲ以テ左ノ通申進ス

一、客年十月大使ヲ拜命以來本使ハ武官在職中陸軍側ノ意嚮  
ニ從ヒ非公式ニ「リ」外相ト聯絡シ居タル三國協定案ニ

對スル八月二十六日五相會議ノ決議ノ規定ニ從ヒ引續キ  
「リ」外相ト交渉シタル結果十月三十一日ニ至リ獨逸側  
ノ非公式提案(「ミュンヘン」會議ノ際伊太利側ニモ提示  
セラレタルモノ)ヲ入手セリ右條約案文及同案成立ノ經  
緯ニ付テハ當時直ニ詳細外務大臣宛報告セリ

二、五相會議ノ決定ノ趣旨ハ明白ニ一般ニ第三國ニ對抗スル  
協議援助條約ニシテ本使トシテハ武官在職中陸軍側ヨリ  
ノ通知ニ依リ更ニ之ヲ確メ得タルノミナラス大使就任後  
モ宇垣外務大臣發東郷大使宛電報第三一一號及第三二七  
號等ニ依リ帝國政府ノ本件協定締結ノ趣旨カ蘇聯ノミナ  
ラス英佛等ヲモ對象トシ唯前文ニ於テ多少之ヲ「カムフ  
ラージユ」セントスルモノナルコトヲ承知シ確信シ居タ  
ル次第ナリ而シテ政府ハ右趣旨ニ於ケル本使ノ交渉ニ對  
シ何等反對ノ御意嚮ノ訓令モ無ク十一月十二日ニハ本協  
定カ「對蘇關係ヲ主トシ對英牽制ヲ從トスルト同時二時  
局收拾上ノ效果ヲ窺フ所謂一石三鳥の外交工策」ナルコ  
トヲ電報アルト共ニ伊太利カ本件協定ニ付遷延の態度ヲ  
示シツツアル眞意ヲ探知方御訓令アリタリ(貴電第四四  
四號)而シテ他方獨逸側ニ於テモ本使ニ於テ「ムツソリ

「二」首相ト會談シ日本政府ノ本件協定ニ對スル熱意ヲ説明シ伊太利側ノ決心ヲ促進スルコトヲ頻リニ從<sup>(應)</sup>シ本使ハ右ニモ一理アリト認メタルヲ以テ請訓シタルニ御許可ノ電報ニ接シタリ

三、然ル二十一月二十四日ニ至リ突如トシテ政府ヨリ十一月十一日ノ五相會議ニ於テ三國協定締結ノ促進方ヲ議決セラルト共ニ「本協定ハ蘇聯ニ對スルヲ主トシ英佛等ハ蘇聯側ニ參加スル場合ニ於テ對象トナルモノニシテ英佛等ノミニテ對象トナルモノニアラス勿論佛カ赤色化シタル場合ノ如キハ對象タルヘシ」トノ諒解成立セラレタル旨ノ電報(第四六四號)ニ接シタルヲ以テ本使ヨリ右諒解カ八月二十六日ノ五相會議ノ決議ト相違シ居レル旨ヲ指摘シ且本使トシテハ八月二十六日ノ決議ノ趣旨ニ依リ獨逸側ニ我政府ノ意志ヲ通告濟ニシテ右ハ伊太利側ニモ傳達サレ居ル旨ヲ述ヘ至急明確ナル御訓令ヲ請ヒタルモ(往電第七五九號)爾來政府ヨリ杳トシテ何等ノ御回電無カリシ次第ナリ他方本使「ムツソリーニ」トノ會見ノ結果「ム」ハ大イニ乘氣ヲ示シ原則的同意ヲ表明スルト共ニ協定發表ノ時期ニ付テモ<sup>(月)</sup>初メ迄ニ確答ヲ爲スヘシト

ノ積極的の回答ヲ得タルカ帝國政府ヨリハ本使ヨリノ督促ニ拘ハラス右請訓ニ對シ何等ノ御回答ナク十二月末ニ至リ漸ク「根本ノ方針ニ付テモ行違アル様ニテ目下折角詮議中ナルニ付「リ」外相ト之以上餘リ深入リセサル様」トノ訓電ニ接シ當方ヨリ折返シ根本方針ニ關スル行違トハ如何ナル點ナリヤトノ至急請訓ニ對シテハ一週間ヲ經タル後漸クニシテ「協定適用範圍ノ問題ナリ」トノ御回答ニ接シタリ

四、本年初頭伊太利側ヨリ協定即時締結ニ同意ヲ表明其後直ニ獨逸ノ正式提案伊太利ノ右案受諾トナリ獨伊側トシテハ帝國政府ノ希望ヲ多分ニ取容レタルコトニモアリ(殊ニ前文ニ於テ)直ニ御受諾アルモノト豫定シタル模様ナリシニ前記「行違」ノ點ニ關スル政府ノ御審議ハ其ノ後遲々トシテ進マス當方ニハ其ノ間ノ事情ニ付何等ノ御通報モ無ク獨伊側ノ催<sup>(要)</sup>足ニ對シ殆ント應待不可能ノ狀態ニ在リタル處突如トシテ伊藤特使一行ノ御派遣トナリ本使トシテハ少クトモ政府ノ御決定ハ特使到着前ニ豫メ之ヲ承知研究致度キ旨ヲ上申セルモ御同意ヲ得サリシ次第ナリ



五、特使派遣ノ御事情ニ付茲ニ論議スルコトハ之ヲ避クヘキ  
モ特使持參ノ御訓令ハ國內ニ於ケル行違ヲ取纏ムルヲ主  
トシ獨伊側トノ從來ヨリノ交渉經緯ニ付充分ニ之ヲ考慮  
セラレサリシモノト認メサルヲ得ス右御訓令ニ對スル本  
使等意見ハ往電第一七六號ノ通ニシテ茲ニ繰返スノ要無  
キモ其ノ根本ノ要點ハ兵力援助義務ノ點ニ在リ(他ニ協  
定ニ關スル説明振ニ付キ帝國政府トシテ我々ノミニ好都  
合ナル虚偽ヲ用ヒ且獨伊ニモ之ヲ押付ケントスル御方針  
ニ對スル反對モアリタルモ)即獨伊カ攻撃ヲ受ケタル場  
合右攻撃國カ蘇聯以外ノ國ナル場合ニ於テモ帝國トシテ  
一般的武力援助ノ義務ヲ負フコトカ三國協定成立ノ不可  
缺ノ要件タルコトハ本使カ「リ」外相ニ與ヘタル言質ヲ  
別トスルモ先方トノ交渉ノ結果先方ノ意見ヲ確メ當初ヨ  
リ終始上申シ來リタル所ニシテ右ハ其後ノ交渉ノ經緯ニ  
依ルモ正當ナリシコトヲ確信ス

六、而シテ政府ニ於テハ本使等ノ右上申ヲ容レ貴電第一七六  
號ヲ以テ「妥協案」ヲ提示セラレ兵力援助義務ニ付テハ  
同電第二ニ於テ二箇ノ案ヲ示サレ本使トシテハ其ノ第二  
案ヲ以テ交渉ノ基礎ト爲スニ足ルト認メ之ニ基キ先方ト

ノ交渉ヲ再開シ帝國ハ第三國ヨリ獨伊カ攻撃セラレタル  
場合援助ヲ爲シ得ル程度ハ別トシ一般ニ武力援助ノ義務  
ヲ認ムルモノナルコト即一般ニ獨伊側ニ立チ參戰ノ義務  
ヲ負フモノナルコトヲ獨逸側ニ言明シ説得ニ努メタル結  
果「ヒトラー」總統ニ於テモ我方ノ眞意ヲ諒解シ條約文  
ニ關スル我方提案ヲ一字一句モ修正セス鵜呑ミトシタル  
コト御承知ノ通ナリ

七、然ルニ其後政府ニ於テハ本使カ「リ」外相ニ對シ參戰  
云々ヲ言明セルコトニ對シ「政府ノ眞意ハ獨伊カ蘇聯ヲ  
含マサル第三國ト戰端ヲ開ク場合ニ於テモ援助ノ精神ニ  
於テハ變リナキモ如何ナル程度ノ援助ヲ與フルヤハ一ニ  
當時ノ狀況ニ依リ決定セントスルモノ」ナリトノ故ヲ以  
テ本使カ言明セル「參戰」ナル字句ノ意義ニ付帝國政府  
ハ參戰トハ協定第二條ノ「支持」及第三條ノ「助力及援  
助」ヲ爲スコトヲ意味シ且第三條ノ「助力及援助」ノ中  
武力援助ニ關シテハ「現在及近キ將來ニ於テハ有效ニ之  
ヲ實施スル能ハザル限度ノモノ」ト解釋スルモノナルコ  
トヲ獨逸政府ニ説明シ置クヘシ(武力援助モ無ク宣戰布  
告モ無キ「參戰」トノ不可解ナル訓令(貴電第二一四號)



ヲ發セラレ之ニ對シ本使カ參戰ナル字句ヲ使用セルハ獨  
伊ニ對スル第三國ノ攻撃ニ對シ帝國トシテ必ス兵力の援  
助ヲ爲スノ義務ヲ負フ趣旨ニテ話シタルモノニシテ本使  
ノ獨逸側ヘノ右説明ハ政府訓令ニ相違シ居レリヤ否ヤニ  
關シ特ニ明確ナル御回訓ヲ仰キ(往電第三四號)タルニ  
對シテハ「大體差支ヘ無キヤニ考ヘラル」トノ漠然タル  
御回電(貴電第二三八號)ニ接シタルノミニテ政府トシテ  
依然前記ノ如キ「參戰」ニ關スル不可解ナル解釋ヲ固執  
セラレタリ他方本使等トシテハ「ヒ」總統誕生日其他ノ  
機會ニ於ケル獨伊側トノ接觸ヨリスル政府ノ御方針ヲ以  
テシテハ到底交渉ヲ續行スルモ成立ノ見込ナキノミナラ  
ス今ニシテ參戰ニ關スル如キ特殊ノ説明ヲ爲スコト  
ハ帝國政府ノ信條ニ同シク交渉ノ決裂ヲ來ストスル  
モ斯ノ如キ經緯ニテ物分レトナルハ將來ノ爲甚タ面白カ  
ラストノ意見ヲ上申シ交渉斯クシテ絶望トナリタル上ハ  
本使等ヲ直ニ御召還アランコトヲ申請シタル次第ナリ  
(往電第二七四號)

八、右ニ對シ政府ヨリ暫ク御返電ニ接セサリシ處政府ニ於テ  
ハ突如トシテ平沼總理ノ御意見ヲ駐日獨伊大使ヲ通シ獨

伊兩國首相ニ傳達スルノ處置ヲ取ラルルト共ニ本使等ニ  
對シ之ニ基キ交渉ノ續行ヲ命セラレタル處(貴電第二六  
二號)右平沼總理ノ御言明ハ字句明白ナラス殊ニ交渉不  
成立ノ責任ヲ豫メ獨逸側ニ課セントスル趣旨ノ字句アリ  
タル爲獨逸側ニ與ヘタル印象頗ル面白カラサリシモノア  
リタルモ本使トシテハ右平沼首相ノ御意見ハ日本ハ獨伊  
カ一般ニ第三國ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合獨伊側ニ立チテ  
之ニ政治上、經濟上ノ援助及武力援助ヲ與フルノ不動ノ  
決意ヲ有ス唯諸般ノ情勢ニ依リ現在及近キ將來ニ於テハ  
有效ナル武力援助ヲ與フルコトヲ得サル實情ニ在リ尤モ  
可能ナル援助ハ常ニ之ヲ與フルモノナリトノ御趣旨ナリ  
シヲ以テ茲ニ交渉ノ前途ニ再ヒ曙光ヲ認メ獨逸側ヨリノ  
交戰國關係ニ入ルノ覺悟ヲ有セラルルヤノ質問ニ對シ之  
ヲ肯定シ今日ニ及ヒタル次第ナリ

九、然ルニ先般貴電第二九七號御訓令ニ依レハ政府ニ於テハ  
更ニ慎重御審議ノ結果蘇聯ヲ含マサル歐洲戰爭發生ノ場  
合戰爭狀態ニ入ルヤ否ヤハ其ノ當時ノ狀況ニ依リ自主的  
ニ決定セントスルノ方針ヲ決定セラレ本使等ニ對シ帝國  
ハ獨伊カ蘇聯以外ノ國ト戰爭ノ場合ニ於テ獨伊側ニ立ツ

コト當然ナルモ無條件ニ武力行使ヲ義務附ケラルコトハ不可ナリトスルモノナルコトヲ獨伊ニ申入ルヘシトノ御訓令ナル處斯デハ又復事態ハ伊藤公使携行ノ御訓令ト同様ノ事態ニ立返リ帝國政府ニ於テ何ノ爲ニ貴電第一七六號ノ妥協案ヲ提示セラレタリヤ又何ノ爲ニ平沼總理ノ御言明アリタル次第ナリヤ本使トシテ全ク之ヲ理解シ得サル次第ナリ

十、以上ノ如キ經緯ヲ回顧シ考察スルニ本件交渉ハ結局我方ノ決意不明確ナル爲ニ徒ラニ獨伊ニ希望ヲ繋カシメテ事態ヲ遷延シ彼等ノ我方ニ對スル信賴ヲ弱メタル結果ヲ生シタリ「リ」外相ニ於テハ本年初メ頃ヨリ日本ハ協定ヲ欲セス又ハ遷延ヲ望ムニ非サトノ疑念ヲ抱キ始メタルハ當時屢々電報ノ通りニシテ本使ハ政府ノ御訓電ニ從ヒ之ヲ打消スニ努メ來リタルカ今ヤ彼ノ疑ヒタルカ如キ事態トナリタルコトヲ認メサルヲ得ス即帝國政府ニ於テハ元來兵力援助義務ニ關スル諒解ニ付我方力之ヲ文書ニ作成シ置カントスルノ御趣旨ハ帝國カ現在及近キ將來ニ於テ有效ナル援助ヲ爲シ得サルコトニ付獨伊ニ誤解ナカラシムルニ在リ(貴電第二二四號ノ一)トノ御説明ニシテ之

ニ對シ獨伊カ充分ニ了解セルヲ以テ書キ物トスルニ及ハスト答ヘタルニモ拘ラス帝國政府ニ於テ本使等幾度カノ意見上申ニモ拘ラス本使等ニハ不明ナル理由ニ依リ文書ノ作成ヲ固執セラレ之ト併セ元來政府ニ於テ自由ニ爲シ得ル本件協定ニ關スル對外説明ニ付テモ不思議ニモ獨伊ヲシテ政府間ノ約束ノ如キ形ノ文書ヲ作成セシムルコトヲ固執セラレ交渉ノ進行ニ併ヒ結局獨伊ノ臆測セル通り我方ニ於テハ斯ル書キ物ニ依リ協定ノ規定ヲ變更歪曲セントスルモノナルコト明白トナリタルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ元來獨伊ハ協定ノ文句等ニハ餘リ重キヲ置カサルモ彼等トテモ法律的觀念無キニハ非ス字句等ニ依リ精神ヲ誤魔化サントスルノ外交方法ハ今後共成功セサルヘキコトヲ確信ス

二、尙本件交渉ノ經過中本使トシテ最モ當惑ヲ感シタルハ機密漏洩ノ點ニシテ交渉ノ初期ヨリ交渉中ノ案文其ノ他カ「ヂュールナル、ド、モスクー」「ニユース、クロニクル」其ノ他各方面ノ新聞等ニ掲載セラレタルコト再三ニ止マラス固ヨリ之等ノ漏洩カ總テ我方ノ責任ナリト謂フ次第ニハ非ルモ相當我方ヨリ漏洩セル形跡顯著ナルモ

ノアリ又最近ニ至リテハ帝國政府ノ審議進行ノ模様ハ本使等ハ常ニ「アバス」其ノ他ノ通信及新聞電報ニ依リテノミ承知スルカ如キ次第ニテ之等ノ通信ハ屢々相當ニ眞相ヲ穿チ居リ東京ニ於ケル機密ノ漏洩甚タシキヲ想ハシメタリ右ノ結果ハ單ニ本使等ノ交渉上ノ駭引ヲ常ニ頗ル困難ナラシメタルノミナラス本交渉ヲ店晒シトシ帝國ヲシテ所謂引込ミノ附カサル立場ニ置カシメタルハ今後ノ交渉ニ當リテハ最モ戒心スヘキ點ノ一ナリ

伊へ轉送ス

74

昭和14年5月23日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日本は樞軸同盟に深入りする意向なしとの英

國紙觀測記事について

ロンドン 5月23日後発

本省 5月24日前着

第五三六號

一般的情報

二十三日「テレグラフ」ハ重要欄ニ左記要旨ノ「ヘツジ

ス」通信ヲ掲載シ注意ヲ惹キ居レリ

日本ハ決シテ樞軸同盟ニ深入リスル意嚮ナク寧ロ今後一年ヲ出テサル間ニ現在ノ對獨關係ヲ清算セサル迄モ無意味ナルモノニ化スヘシト信スヘキ節アリ防共協定ハ締結當時ヨリ一般ニ頗ル不評ニテ假ニ國民投票ニ附シタリセハ簡單ニ拒否セラルヘシ日支事變突發後日本ハ密ニ獨逸ニ期待スル所アリタルニ拘ラス右ハ無慙ニモ裏切ラレ獨逸ノ軍事顧問ハ蔣ヲ援ケ軍需品モ亦多量ニ供給セラルル様ノ次第ニテ日本ニ於ケル反獨感情ノ擡頭トナリ茲ニ樞軸偏重外交ヲ再檢討スル機運ヲ生シタリ日本ニハ朝野有力者ノ間ニ民主主義トノ協調ニ復歸スヘシトノ強キ意見カ潜在シ居ル處日支時局ノ前途容易ナラサルモノアリ且又歐洲ノ情勢モ獨伊側ニ不利ニ進展シツツアルノミナラス米國ノ立場モ明カナルニ鑑ミ是等ノ反樞軸論者ハ徐々ニ獨伊トノ連繫ヲ清算セシメント試ミツツアリ勿論同盟締結論者ノ執拗ナル努力モ無視シ得サル所ナルカ穩健派ハ差當リ日獨關係ノ波紋ヲ回避シツツ裏面ニ於テ(對?)英工作ヲ進ムルト共ニ歐洲政局ノ推移ヲ注視シ居レリ歐洲戰爭トモナレハ中立ヲ維持シ經濟的立場ヲ改善シ以テ東亞ニ於ケル地歩ヲ確立スヘシト言フハ即

チ此ノ一派ノ主張ナルカ日本ハ間モナク新樞軸ニ依ル外交  
政策ニ乗出スニアラスヤト觀察セラル

75 昭和14年5月23日

在米国堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日本が独伊同盟に参加の場合は世界戦争の勃発  
不可避との米国官辺筋の空氣に関する情報報告

ワシントン 5月23日後發

本 省 5月24日後着

第四三四號

廿二日「ウオルター、リツプマン」ハ須磨ニ對シ左記趣旨  
ヲ内話シタル趣ナル處當國官邊ノ空氣ヲ反映スル資料トモ  
認メラレ御參考迄

一、自分ハ行政部方面トモ密接ノ關係ヲ保持シ居リ政治部内  
ノ意嚮ヲ忖度シ得ル立場ニアル處各般ノ事情ヲ綜合スル  
ニ日本ハ東亞ニ於テ獨力事態收拾ニ當ルモ何レノ國ト雖  
武力ヲ以テ之ヲ阻止シ得サル狀態ニアル處新ニ獨伊同盟  
ニ加盟シテ自ラ歐洲政局ノ紛糾ニ捲込まルルヲ敢テスル  
ニ於テハ右ハ眞ニ遺憾ノ事ニシテ日本ノ爲ニ採ラサル所

ナリ自分ハ右同盟ニ日本ノ參加ヲ見ル場合ニハ結局世界  
戰爭ノ勃發ヲ避ケ難シト見居レリ(同人ハ歐洲ノ情勢視  
察ノ爲近ク渡歐ノ豫定ナル由)此ノ意味ニ於テ世界ノ平  
和ハ日本ノ動向ニ懸ルモノト言フヘク其ノ責任ハ重大ナ  
リ

二、米國識者ハ支那カ名目ハ共和國トシテ近代國家ノ形ヲ裝  
ヒ居ルモ真相ハ遙ニ之ヨリ遠キモノナルコトヲ熟知シ居  
ルモノニシテ米國現在ノ對支態度ハ所詮「センチメンタ  
リズム」ヲ一歩モ出テスト稱シ得ヘク日本カ新シキ事態  
ニ基キ新政權ト協定ヲ結ビ得ハ米國ハ必スシモ「ステイ  
ムソン」當時ノ如キ不承認主義ヲ固執スルモノニアラサ  
ルヘシ唯其ノ際日本カ布哇及比律賓ヲ侵略セサルコトヲ  
確約スルヲ要スヘキ處右ハ米國政府ノ二國間政治協定不  
締結方針ニモ鑑ミ石井「ランシング」協定ノ如キ日米兩  
國間ノ協定トナスノ外ナキモ英國關係ヲモ含メ日米英三  
國ノ協定トスル等ノ方法ヲ講スレハ不可能ニアラサルヘ  
ク斯ル手ヲ用フルコトコソ日本ノ外交ノ勵キ所ナリ云々  
(尙同人ハ日本カ親獨反英ノ方向ニ突進ム場合ニハ米國  
ハ急速ニ現在ノ軍備ヲ倍加スルコトヲ豫想セサルヘカラ

スト附言セリ)

英へ轉電セリ

76

昭和14年5月(27)日

在仏国宮崎(勝太郎)臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独伊同盟への日本の立場に関する仏国紙論説  
について

パリ 発

本省 5月27日後着

特情巴里第八二號

巴里廿六日發電

廿五日ノ「タン」紙ハ獨伊軍事同盟ニ對スル日本ノ立場ニ  
付次ノ如キ社説ヲ掲ケタ

獨伊同盟ノ締結サレタ今日之ニ對スル日本ノ態度如何ハ極  
東ノ重要性ヲ良ク認識スルモノノ注意ヲ強ク惹イテ居ル獨  
伊兩國カ日本ヲ同盟ニ引入レント全力ヲ注イテ居ルコトハ  
周知ノ事實テ之ニ對シ日本ハ未タ決定的態度ヲ執ツテ居ラ  
ス日本ノ政策ノ主眼ハ東亞ニ於ケル「コミンテルン」ノ活  
動ヲ失敗ニ歸セシメ日支協力シテ東亞ニ新秩序ヲ建設スル

ニ在ル日本カ獨伊ト接近シタノハ兩國ノ政治社會形態ニ共  
鳴シタ爲テハナク蘇獨ノ對立カ東亞ニ於ケル「コミンテル  
ン」ノ牽制ニ役立つト考ヘタカ爲テアル他方日本ハ東亞ニ  
多大ノ權益ヲ有シ之ヲ共同防衛セントスル英佛ニ對シテモ  
斟酌ヲ加ヘサルヲ得ヌ立場ニ在リ是等諸國カ租界ニ對スル  
一方的變革ヲ肯セヌコトハ最近ノ鼓浪嶼事件及上海ノ租  
界問題ニ關スル米國ノ回答ニ依ルモ明カニサレタ數日前ノ  
五相會議決定ノ内容ハ未タ明カテハナイカ日本消息通ニ依  
レハ獨伊ニ對シ好意的中立ヲ保ツニ止メ從ツテ獨伊同盟ニ  
對スル積極的參加ハ差控ヘルコトナツタラシイ今日英佛  
蘇相互援助條約ノ成立セントスルコトカ日本ノ此ノ態度ヲ  
變更サセ獨伊同盟ニ參加サセルタラウトハ決ツテ居ナイ何  
トナレハ英佛蘇三國協定ハ蘇聯ノ西部國境ノミニ關シ東亞  
ニ於ケル其ノ地位ニハ全然觸レテ居ラヌカタ日本ノ關心  
ハ後者ノミニ在リ日本側ノ見地ヨリスレハ自國ノ安全及利  
益ニ影響ノナイ純粹ノ歐洲問題ニ其ノ全力ヲ注ク決心ラス  
ルコトハ有り得ヌ様ニ思ハレル

77 昭和14年6月6日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日本が独伊に対する好意的中立方針を決定と  
の英國紙報道について

ロンドン 6月6日後発

本省 6月7日前着

第五九四號

一般的情報

一、六日各紙ハUP東京通信ニ基キ日本政府ハ五月二十日獨伊ニ對スル好意的中立ノ方針ヲ決定シ在獨伊大使ヲシテ蘇聯力參戰セサル場合ニハ歐洲ニ於ケル義務ヲ負擔シ得サル旨通報セシムルコトトセル處右ハ獨伊ニ對シ友好的立場ヲ執ルモ援助ニ付テハ自主的ニ決定ストノ意味ナリ然ルニ兩大使ハ右通告ニ先立チ本國政府ニ對シ或種ノ說明ヲ求メタルニ依リ政府ハ更ニ協議ヲ行ヒタル後本五日外相ヨリ訓令ヲ發シタルモノナリトノ趣旨ヲ報ス

二、五日「テレグラフ」伯林通信ハ大島大使ハ近日中ニ「リ」外相ヲ往訪シ日本政府ノ態度ヲ通報スヘキ處日本ハ蘇聯參戰ノ場合ニハ軍事行動ヲ執ル用意アルモ正式條

約ニ依リ拘束ヲ受クルコトヲ欲セス即チ獨伊軍事同盟ニ參加ノ意ナシトノ態度ナリ同大使ハ同盟參加ノ主張者ニシテ政府カ右ニ同意セサル場合ハ辭職スヘシト申出テタルカ更ニ政府ニ對シ意見上申ヲ爲ス模様ナリト報ス  
獨伊ニ轉電セリ

~~~~~

78 昭和14年6月13日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

防共協定への第三国参加に際して事前通報を求
めるハンガリーの要望につき日独協議について

本省 6月13日後9時30分発

第三三八號

三日在京「ボルツェ」獨參事官井上歐亞局長ヲ來訪シ本國ヨリノ訓電ニ依ル趣ヲ以テ最近洪牙利政府ハ獨逸國政府ニ對シ今後防共協定第三國加入ノ場合ハ洪牙利ニ對シ事前ニ「インフォーム」セラレ度キ旨要望シ越シタル次第ヲ述ベ獨トシテハ右ニ異存ナキモ之ニ對スル帝國ノ意見如何ヲ質シタルニ付同局長ハ右洪國ノ要望ハ政府トシテモ原則トシテ異存ナカルベキモ防共協定參加ノ形式ハ貴電第七九七號

第一一二號第一八九號等ニヨリ既ニ特別ノ必要ナキ限り三原署名國ヨリ第三國ニ對シテ加入勸誘ヲ行ヒ右第三國加入後之ヲ滿洪其ノ他既加入國ニ通告スル事ニ纏リタル經緯アリ從テ右獨國政府ノ意向ハ之ヲ改ムルモノト了解スベキヤノ點及滿洲國ガ曾テ西班牙ノ加入ニ際シ右洪國ト同様ノ要望ヲ爲シタルコトアリ從テ同國トモ話合ヲ要スベキ點ヲ述べ右洪國ニ對スル事前ノ「インフォーム」ニ對シ同國トシテ諾否ヲ要スベキ筋合ナリヤ將又第三國加入勸誘ハ何國ガ之ヲ爲スベキヤ等ノ技術的問題モ存スベキガ右等ニ付テハ獨政府ノ意向如何ト尋ネタルニ「ボ」ハ電文簡ニシテ明瞭ナラザルモ本國ニ大体ノ點ハ申送ルベシト答ヘタリ

尙何故ニ今日洪國ガカカル要望ヲナセルヤノ點ヲ質シタルニ「ボ」ハソノ間ノ事情明瞭ナラザルモ多分「ユーゴスラビヤ」攝政「ボール」ノ「ベルリン」訪問中ニモアリ何カ洪牙利側ニ於テ考慮シ居ルニアラズヤト答ヘタリ

獨ヨリ伊太利、西班牙、洪牙利ヘ轉電アリタシ

79 昭和14年6月22日

在ウィーン山路(章)総領事より
有田外務大臣宛

独ソ接近およびドイツによる対ポーランド措置
置發動の可能性に関する情報報告

機密第一〇三號

(接受日不明)

昭和十四年六月二十二日

在維納總領事 山路 章

外務大臣 有田 八郎殿

獨蘇關係ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ五月中旬電報ヲ以テ報告致置キタル處其後更ニ左ノ事項ヲ知ルヲ得タリ

一、「シロウイ」將軍ノ動靜ニ關シ在「プラーク」帝國總領事館ニ照會シタル處同將軍ハ近來國外旅行ヲ爲シタルコトナク依然保護領ニ居住シ居ル趣ナリ。

二、獨蘇關係ニ關シ別紙ノ如キ諜報ニ接シタリ。

三、六月十二日當館雇外國人タル元帝國名譽領事「ドクトル・チンメルマン」ハ更ニ諸方面ニ於テ獨蘇間ニ波蘭分割ニ關シ話行ハレ居ル旨ノ噂依然存スルコト及獨逸當局ニ於テハ新聞方面ニ對シ露骨ナル反蘇宣傳ヲ中止スル様指令セル旨聞込ミタリト語レリ。

四、「ケルン」市ニ於テ發行セラレ居ル「ナチ」黨竝ニ各官

廳ノ機關紙タル(紙名カ) 紙五月二十六日ノ朝刊ニ於テ頗

ル親蘇の論說ヲ掲ケタルカ就中獨伊同盟カ蘇聯ノ政策ノ結果生シタルモノニアラスシテ英佛ノ政策ニ因ルモノナルコト等ヲ述ヘ居ル點ハ注目ニ値ヒス(附カ) (別信普通一〇二號參照)

五、諜報トシテ入手セル蘇聯政局(「ジュダーフ」署名)發主要國駐在ノ蘇聯使臣ニ宛テタル公文中文中ニハ英國ヲ目標トスル獨蘇同盟ハ英國カ亞細亞ニ植民地ヲ有シ居ル點ノミヨリスルモ蘇聯ニトリ有利ニシテ從テ右同盟ノ成立ハ其ノ希望スル所ナルモ在外共產黨員ノ憤懣及防共協定等ノ爲實現上困難アル旨記載セラレ居レリ(委曲六月二十一日附往信機密第九九號附屬中段口、參照)

六、諜報トシテ入手セル在佛「ユーゴー」公使發本國政府宛報告中ニハ佛國政府ハ信スヘキ情報トシテ獨逸政府カ波蘭領タル「ポーゼン」、「ソルン」及「ダンチヒ」ヲ獨逸領トナシ又波蘭ノ南部及東部ノ「ウクライナ」方面ニ獨逸保護領ヲ設定シ大「ウクライナ」國發生ノ足場トセン計劃ヲ有シ居ル旨ヲ波蘭側ニ内報セル趣ナリ(委細五月廿一日附往信機密第八一號參照)

七、諜報トシテ入手セル在波蘇大使發蘇聯人民委員會議宛報告中ニハ在波英國大使ノ言トシテ英國側ハ獨逸カ波蘭ニ對シ攻撃ヲ準備シ居ルヲ確信シ居ル旨ヲ記載シ居レリ(委細六月廿一日附往信機密第九五號參照)

之ヲ要スルニ果シテ獨蘇間ニ何等カ政治的話合カ實際行ハレ居ルヤハ頗ル疑問ナリト思考スルモ現下ノ急迫セル歐洲情勢ニ鑑ミ獨蘇兩國共政治的及經濟的理由ヨリシテ相互ニ他方ヲ乘リ(利カ)刺戟セス寧ロ經濟的關係ヲ進メントスル氣持ノ存スルコトハ之ヲ肯定シ得ヘク、殊ニ獨逸側ニ於テ大体今秋ヲ期シ波蘭ニ對シ何等カ重大ナル措置(策カ)ニ出ツル俱アルコトハ諸方面トノ接觸ニ依リテ本官ノ大体相違ナシト信シ居ル所ナリ

(別紙)

(「ソフィア」ヨリノ報告、五月二十五日當館入手)

獨蘇間秘密交渉ニ關シ取調ヘノ結果差當リ左ノ如シ獨蘇間ニ於ケル最初ノ意見交換ハ一九三八年十一月「コペンハーゲン」竝ニ「ストックホルム」ニ於テ行ハレタルモノナルカ兩國密使會談ノ目的ハ先ツ極秘裡ニ非公式ナル意

見ノ交換ヲ行ヒ以テ將來ノ交渉ノ準備ヲ爲サントスルニ在リタリ

其ノ後「ゲーリング」ハ最後ニ伊太利ニ滞在セル際在羅馬蘇聯大使「スタイン」トノ間ニ獨蘇不侵略條約締結ニ關聯シ意見ノ交換ヲ行ヘリ

之ト同時ニ獨逸政府ハ獨逸新聞本部ニ對シ今後蘇聯ニ關シ一切ノ攻撃の記事ヲ掲クルヲ中止スヘク又差當リ一切ノ蘇聯政權ニ對スル反對宣傳ヲ罷ムヘキ旨ノ命令ヲ發セリ

右交渉ハ本年四月二十四日ニ至リ具體的形ヲ爲スニ至レリ。即チ同日在伯林蘇聯大使「メリカロフ」及蘇聯大使館

公使館參事官「アスタホフ」ヲ一方トシ獨逸外相代理「ワイツゼツカー」ヲ他方トスル兩者間ニ直接交渉行ハレタリ其ノ結果ハ直ニ「メリカロフ」ノ莫斯科行及獨逸政府ノ要求ニ依ル「リトウイノフ」ノ辭任トナリテ現ハレタリ

右交渉ハ獨逸案ヲ基礎トシテ行ハレ居レルモノナルカ同案ニ依ルニ蘇聯ハ獨逸カ他國トノ間ニ戰爭ヲ行フ場合嚴正中立ヲ守ルヘキコトヲ聲明シ又更ニ右ノ如キ場合獨逸ノ敵(波蘭、羅馬尼亞等)ニ對シ軍需品及食料品ノ供給ニ依リ間接的ノ援助ヲモ行ハサルノ義務ヲ負フコトトナリ居レリ。

又蘇聯ハ既ニ獨逸カ行ヒ居レルト同様「リスニア」及「エストニア」ノ保全ニ對スル保障聲明ヲ爲スヘキコトトナリ居レリ。但シ右兩國ヲ經由スル獨蘇間ノ物資交換ハ確保スヘキモノトス

此ノ點ニ關スル莫斯科ヨリノ信憑スヘキ情報ニ依レハ人民委員會議ハ獨逸側ノ對蘇要求カ過大トナル場合ニ之ヲ押付ケントスルノ見地ヨリ目下進行中ナル對英交渉ヲ完全ニハ斷絶セシメサル旨ノ決議ヲ爲スト同時ニ近キ將來ニ於ケル蘇聯ノ外交方針ヲ平和政策竝ニ孤立政策(危險ナル連繫ヨリ無關係ニ止マルコト)ノ上ニ置キ且之カ爲獨逸案ニ對シ讓歩的態度ヲ示スコト適當ナル旨ノ方針ヲ決定セル趣ナリ尙「スターリン」ハ「リトウイノフ」ノ後任タル「モロトフ」ニ對シ、資本主義諸國間ノ啗合ハ勝手タルヘキモ吾人ハ此ノ爭ヲ冷靜ニ傍觀セサルヘカラス、吾人ハ一切ノ外國ニ對シ平和ヲ必要トシ又我カ經濟及我カ近隣トノ交易ヲ出來得ル限り發展セシメ且其ノ際思想的相違ハ之ヲ顧慮セスト告ケタル由ナリ

80

昭和14年6月23日

有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

防共協定への第三国の参加に際して日独伊以
外の署名国にも事前通報を行うことにわが方
同意について

本省 6月23日後8時25分発

第三五八號

往電第三三八號ニ關シ

二十一日「ボルツェ」獨參事官三谷條約局長ヲ來訪シ先般
井上歐亞局長トノ話ニ基キ本國政府ニ問合中ナリシ處今般
本國政府ヨリ將來防共協定ニ對スル第三國加入ノ勧誘ハ三
原署名國ニテ行フモノナルガ原署名國ハ右加入ノ勧誘ヲ行
フ前之ヲ他ノ既加入國ニ「インフォーム」ストノ意味ナル
旨同電越シタリト述ベタルニ付同局長ハ夫レナラバ帝國政
府トシテモ異存ナキ旨答ヘ置キタリ

獨ヨリ伊太利、西班牙、洪牙利ヘ轉電アリタシ

~~~~~

81

昭和14年7月11日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ヒトラーが独ソ同盟締結をソ連側へ提議との  
英國紙記事について

ロンドン 7月11日後発

本省 7月12日前着

第七六九號

十一日「クロニクル」紙上例ノ「カミングス」ハ左ノ通り  
述ヘ居レリ

「ヒトラー」ハ最近非公式ニ且間接ニ蘇聯ニ對シ(一)蘇聯及  
「ウクライナ」ニ對スル脅威ナキ限リ蘇聯ハ東歐ニ於ケル  
獨逸行動ノ自由ヲ認ム(二)波蘭ヲ分割ス(三)獨逸ハ亞細亞及極  
東ニ於ケル蘇聯ノ行動ノ自由ヲ全面的ニ支持ス(四)獨逸ハ日  
本トノ協力ヲ撤退シ日本ヲ樞軸側ヨリ「ドロツプ」ス(五)以  
上ノ「ライン」ニテ蘇獨同盟ヲ締結ストノ提議ヲ爲シタリ  
此ノ種提議ハ本年ニ入り既ニ二回モ試ミラレ蘇側ノ拒否ス  
ル所トナリタルカ今又右提案ヲ見タルハ如何ニ「ヒトラ  
ー」カ英佛蘇三國協定ヲ恐レ居ルヤノ證左ナリ最近獨逸ニ  
於テハ全然反蘇宣傳ヲ見サリシハ事實ニシテ若シ今回ノ提  
案ニシテ成功ノ希望ヲ見ルニ於テハ「ゲツベルス」ニ於テ  
「スターリン」ハ「ボルセビズム」ヲ清算シ國家社會主義

國トナリツツアリトテ獨蘇友好關係設定ノ正當ナルコトヲ  
宣傳シ始ムヘシ

蘇、獨、伊ニ郵送セリ



82 昭和14年7月22日

在ベルギー來栖大使より  
有田外務大臣宛(電報)

事變處理および對ソ・對米關係の観点から防  
共協定強化交渉を慎重解決すべき意見具申

ブリュッセル 7月22日發

本 省 着

第一四一號

(一)

日獨伊關係強化ノ問題ハ懸案久シキニ亘リ且ツ案件ノ性質上國民中相當事理ヲ解スベキ方面迄モ交渉ノ内容及帝國政府力難キヲ忍ンテ讓歩ヲ重ネ來レル經緯ヲ承知セス漫然防共協定強化ヲ高唱シ居ル有様ニシテ一面既ニ重大ナル內政問題ト化シ政情ニ陰鬱ナル壓迫ヲ加ヘ居ルヤニ見受ケラルルノミナラズ獨伊兩國ノ蘇聯邦ニ對スル態度モ最近大体伊發往電第一九二號ノ(二)ノ通り變化シ來リツツアルヤニ觀測セラルルヲ以テ我國トシテモ當面ノ最重

要國策タル事變處理及對蘇工作ノ見地ヨリ改メテ本件ニ  
慎重ナル檢討ヲ加フルノ必要ニ迫ラレツツアルヤニ思考  
ス

二、蘇聯邦國策ノ大本カ世界赤化ニ存シ一方資本主義國家群  
ト全体主義國家群トカ相戰ヒ双方疲弊困憊スルヲ切望ス  
ルト同時ニ他方對外戰爭ニヨリ來ルベキ自國々內破綻ノ  
危險ヲモ考慮シ極力之カ渦中ニ投スルヲ避ケントシツツ  
アルハ御承知ノ通りナルノミナラズ蘇聯邦トシテハ英佛  
ノ對波蘭及羅馬尼保償<sup>(電)</sup>ニヨリ事實上既ニ或程度迄西部國  
境ヲ保償セラレツツアル關係モ有之對英佛交渉ニ於テモ  
出來得ル限り相手方ヲ操リ其ノ間英佛ト獨伊トヲ競爭セ  
シメ以テ外交上有利ナル地位ヲ占ムルニ努メツツアルヤ  
ニ見受ケラレ從テ通商取極等ノ問題ヲ除キ兩交渉共蘇聯  
邦ニトリ余程ノ利益ヲ與ヘザル限り急速ニ顯著ナル成果  
ヲ擧ケ得可シトモ觀測スル能ハズ

三、又假リニ獨伊ガ我國トノ協定成立ニ先立チ蘇聯邦ニ工作  
ノ結果蘇聯邦ヨリ中立ノ約束ヲ取付ケ得タリトスルモ萬  
一ノ場合右中立ガ何處迄當ニナルヘキカモ問題ナルベキ  
ニ鑑ミ獨伊トシテハ更ニ我國トノ協定ニヨリ此ノ點ニ對

スルニ重保償<sup>(附)</sup>ヲ得ルコト望ミシカルベク且ツ我國ノ態度  
カ米國ノ向背ニ或程度迄關係アルベキ事實ヲモ考慮シ右  
兩國ノ對蘇工作成功ノ曉ニ於テモ獨乙トシテハ俄カニ我  
國ヲ袖ニシ難キ事情存スルヤニ思考セラルルヲ以テ我國  
トシテ獨伊ノ對蘇工作開始セラレタル事實ノミヲ以テ此  
際特ニ焦慮ノ氣勢ヲ示サルルノ要ナカルベシト信ス

四、事態今日ニ至リ我國カ今俄カニ無條件無留保ニテ對獨伊  
協定締結ヲ申入レタリトスルモ獨伊トシテハ對蘇關係ノ  
關スル限り前項ノ二重保障トシテ之ヲ受付クル迄ニシテ  
第一保障即チ現ニ彼等ノ行ヒツツアル對蘇工作ヲ直チニ  
打切ルベキヤハ頗ル疑問アルノミナラズ寧ロ獨伊トシテ  
ハ滿蘇滿蒙國境ニ於ケル緊張セル事態及ビ漁業問題其ノ  
他常ニ重大紛爭ヲ繰返シツツアル日蘇關係ノ現狀ニモ鑑  
ミ日蘇ノ國交遂ニ破レ遠カラズ協定發動ヲ余儀ナクセラ  
ルル事態ノ發生スルガ如キヤヲ懸念シ恐ラク其點ニ關シ  
相當ノ條件ヲ提出スベシト觀測ス

五、右條件カ獨伊ノ斡旋ニヨル日蘇關係調整ノ形ヲトリタル  
場合ニ於テ獨伊トシテハ一應我國ヲ支持スベキ筋合ナル  
モ現ニ中立問題ニ關シ蘇聯邦ヲ口説キ落サントシツツア

ル弱味モ有之又日蘇關係ニ多少ノ不安ヲ殘シ置クニアラ  
サレバ我國ヲ獨伊ニ引付ケ置クヘキ重大要因ノ一ヲ失フ  
ニ至ルベキヲ充分承知セル彼等トシテ其支持ノ程度ニモ  
一定ノ限界アルベク殊ニ我國カ天津問題交渉ヲ遮ニ無ニ  
打壞シ獨伊ニ依存スルノ外ニ活路ナキカ如キ境地ニ自ラ  
陥リ來ルガ如キ場合ニハ獨伊トシテハ支持不足ニ對スル  
我國ノ不平ニ應酬シ得ル次第ナルベシ、又假令強力ナル  
支持ヲ與ヘタリトスルモ蘇聯邦トシテハ少クトモ其協力  
ナクシテハ實行至難ナル對波對羅保障ニヨリ英國ノ弱キ  
尻ヲ摑ミ居ル關係上獨伊ノ態度如何ニヨリテハ何時ニテ  
モ英佛ヲ操リ得ル地位ニアルニ鑑カミ强硬ニ對抗シ來ル  
ベク結局我國ノ希望通り双方國境撤兵ニヨリ日蘇關係ヲ  
根本的ニ調整スルガ如キハ甚ダ覺束ナキ所ナルベシト觀  
測ス

六、次ニ米國ノ態度ニ至ツテハ日獨伊共ニ多大ノ關心ヲ有ス  
ベキ處最近米國議會ノ中立法改正問題ニ於ケル孤立主義  
者ノ勝利ハ其票差僅少ナルト共ニ幾多内政上ノ要因ヲ含  
ミ居ルハ御承知ノ通りニシテ殊ニ同案下院裁決ノ直前  
Daladierノナシタル演説カ所謂逆效果ヲ生シタルヤニ

觀測セラレツツアルハ日獨伊トシ特ニ留意スベキ點ニシテ從テ今直チニ三國協定強化ヲ見ルニ於テハ中立問題ニ關スル現政府擁護派ハ之ヲ以テ中立法審議延期ノ結果ナリトシ何時勢力ヲ盛リ返シ來ルヤモ測リ難ク獨伊トシテモ慎重考慮ヲ要スベク今夏大統領ノ西部地方遊説ニ際シ協定強化ヲ特ニ西部ノ關心ヲ有スル日米問題ニ結付ケ論議宣傳スル等ノコトナキヤハ曾テ山東問題ヲ米國々內政爭ノ具ニ供セラレタル苦キ經驗ヲ有スル我國トシテ充分戒心ノ要アルベシ

蓋シ大戰當時「ウイルソン」ガ He kept us out of war ノ旗印ヲ以テ大統領ニ再選セラレ其後間モナク米國ノ參戰ヲ見タル事實ニ徴スルモ歐洲大陸流ノ尺度ヲ以テ米國ノ向背ヲ斷定スルハ頗ル危險ニシテ右ハ大戰當時駐米獨逸大使「ベルンストルフ」伯モ其回顧錄中ニ於テ痛歎シ居ル所ナリ

七、如上ノ現勢ニ鑑ミ協定強化ノ時期方式ニ關シテハ慎重ナル考察ヲ要スヘキモ既ニ帝國政府トシテ決意ヲ固メラレ且ツ先方ニモ「コムミット」セラレ居ル以上此際伊發往電第一九二號(二)白鳥大使私案ノ趣旨ヲ參照セラルト共

ニ本來三國協定ハ根本ニ於テ世界平和確立ヲ目的トスルモノナルニ鑑ミ締約各國力其特ニ利害關係ヲ有スル地域ニ於テ關係各國トノ國交ヲ調整シ親善ヲ増進セシムル爲必要ニ應シ締約國相互ニ協力スルヲ妨ケサルモノナル趣旨ヲ協定中ニ高調明示スルコトトシ以テ本件ヲ解決シ我國トシテハ公正ナル事變處理ニ邁進スルト共ニ米國ノ情勢如何ニヨリテハ過般「グルー」大使ニ托セラレタル平沼「メッセージ」ト同趣旨ヲ擴充シ米國ヲ誘ヒテ英佛獨伊關係ノ調整ヲ試ムルガ如キ大國日本ニ相應ハシキ積極且ツ<sup>?</sup> 的方途ヲ考慮セラレ(過般「ロペンハーゲン」ニ開カレタル國際商業會議所會議ノ討議參照)陰鬱ナル現下政情ヲ一新セラルルコト此際切望ニ堪ヘズ「自主即孤立」モ勿論問題ナルベキモ支那ノ外力依存ヲ攻撃シ來レル日本カ相手ノ英佛タルト獨伊タルトヲ問ハズ自ラ外力依存ノ態度ヲトラルルガ如キハ東亞新秩序建設ノ上ヨリ見テ三思ノ要アルヘシト思考ス

蘇米ヘ轉電セリ

在歐各大使ヘ暗送セリ

編注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資料」中の「来栖三郎関係文書」より採録。

83 昭和14年7月29日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

防共協定強化交渉に対するわが方態度にリッ  
ベントロップが強い疑念を表明について

ベルリン 7月29日夜発  
本省 7月30日前着

第七六三號(絶対極秘)

二十八日「リ」外相「ヒ」總統ト打合セノ爲避暑地「ザルツブルグ」ヨリ一時歸伯シ本使ニ會見ヲ求メ來リタルニ付往訪會談セリ「リ」ハ三國協定締結ニ關スル獨逸側ノ態度ニハ變化ナキコトヲ述ヘタルカ既ニ六週間餘ヲ經過シ尙我方ヨリ何等ノ返答ナキコトニ關シ種々疑念ヲ抱キ居リ會談間ニ得タル印象ニ依レハ「リ」ハ我方カ本件交渉ノ意思ナク引延シ策ニ出テ居ルニアラスヤ又日英會談成立ニ伴ヒ我方ノ對獨政策ニ變化ヲ生シタルニアラスヤ等ノ疑惑ヲ深クシ居ルモノノ如クアリシヲ以テ本使ヨリ累次ノ貴電ニ基キ

我方態度ヲ説明シ特ニ日英會談ニ關シテハ同會談ニ於テ歐洲問題ニ言及セラレタルコト全然ナキ趣旨ヲ貴電ニ基キ説明シ其ノ疑惑ヲ解クニ努メ置キタルモ既ニ稟申セル如ク協定問題ノ遷延カ日獨關係ニ及ホス影響ニ付テハ深憂ニ堪エス

伊ヘ轉電セリ

84 昭和14年8月4日

在伊国白鳥大使より  
有田外務大臣宛(電報)

防共協定強化交渉に対するわが方の最終的態  
度につき大至急回示方請訓

ローマ 8月4日後発  
本省 8月5日前着

第二二四號(絶対極秘)

大島白鳥ヨリ

三國協定問題ニ關シテハ六月中旬本使等ヨリ最後の訓令ヲ仰キタルニ對シ爾來一ヶ月ニ垂ントスルノ今日ニ至ル迄何等ノ御指示ニ接セス斯クノ如キ國家重大案件ニ關シ政府ノ執ラレツツアル態度ハ我外交史上前例ナキトコロニシテ相

手國ニ對シ極メテ禮ヲ失スルノミナラス第一在外使臣ニ對スル處置トシテ到底本使等ノ承服シ得サル處ナリ問題ハ既ニ論議ニ論議ヲ盡クシ檢討ニ檢討ヲ重ネタル上ノコトニシテ政府ノ御決定ハ諾否ノ唯一言ニ盡クル次第ナリ國際ノ狀態ハ日ニ二急變シツツアリ相手國トシテモ其ノ對外關係ノ決定上帝國ノ最終的決意ヲ一日モ速カニ知ラント欲シツツアリ將又我國民トシテモ帝國ノ對外關係頗ル重大ナル今日此ノ大問題ニ對スル政府ノ御決定如何ニツキ最大ノ關心ヲ有スル次第ナリ然ルニ此ノ期ニ及ンテモ荏苒時日ヲ空費セラルル政府ノ御措置ハ斷シテ内外ニ對スル責任ヲ自覺セラルルモノト認ムルヲ得ス本使等トシテモ此ノ上のモナク御垂示ヲ待ツコトハ邦家ニ忠ナル所以ニアラスト思考スルカ故ニ敢テ茲ニ苦言ヲ呈シ最後ノ訓令ヲ仰ク次第ナリ、何分ノ儀大至急御回示アリタシ

85

昭和14年8月22日

在独国外務大臣宛(電報)

独ノ不可侵条約の締結決定につきリッペン

ロップより通報について

●第八二四號(大至急、絶対極秘)

ベルリン 8月22日前発  
本省 8月22日夜着

二十一日午後十一時「リ」外相ハ「オーバーザルツブルグ」ノ「ヒ」總統山莊ヨリ電話シ來リ最近獨波關係益々緊張シ來リ諸般ノ情勢上ソ國ト不可侵條約ヲ締結スルコトニ決定セリ「ヒ」總統モ自分モ日獨親善ニ盡シ來リタル者ニシテ今後モ右關係ヲ繼續スル意志ニ毛頭變リナシ唯波蘭ニ對スル獨逸ノ既定方針ヲ遂行セントスルニ際シ對英佛波關係逼迫シ獨逸ノ外交的立場極メテ困難トナリ此ノ窮境ヲ脱センカ爲ニハ日獨伊三國同盟成立ノ望ミ殆ント無シト見ラルル今日已ム無ク蘇聯ト結フ以外ニ途無シト考フルニ至リタルモノナリト述ヘタリ之ニ對シ本使ヨリ今回ノ獨逸政府ノ措置ハ防共協定附屬祕密協定ニ違反スルモノニシテ日本政府及國民ハ之ヲ絕對ニ承服セサルヘシ斯ル措置ヨリ生スル憂フヘキ事態一切ニ對シテハ獨乙政府トシテ責任ヲ負フヘキモノナリト抗議シタルニ「リ」ハ日本カ獨乙ノ苦シキ立場ヲ諒察シ法理論ヲ離レテ獨乙今次ノ措置ヲ容認セラレタシト繰返シ語り居リタリ



尙右會談ノ際「リ」ハ電話ニテハ詳細申上ケ兼ヌルニ付「ワイゼツカー」次官ヨリ詳細御聽取相成度シト云ヒタルヲ以テ「リ」ト話シタル後「ワ」次官ヲ往訪本件經緯ヲ質問シタルニ「ワ」次官ハ前記「リ」外相ノ話ト同様ノ趣旨ノコトヲ述ヘタル外「ダンチヒ」問題緊迫ニ伴ヒ在波蘭獨乙人迫害激化シタル爲今日ニ於テ對波蘭係ノ處理ハ「ダンチヒ」問題ノ解決ニ止ムルヲ許サス「コリドール」ニ關スル問題及在波獨乙人ノ保護問題ニ延長セサルヲ得サルニ至リ此ノ情勢ニ於テ波蘭力起ツ可能性ハ茲ニ、三日顯著トナリタリ英佛力起ツ可能性ハ現在五十「パーセント」ト觀察スルモ獨乙トシテハ波蘭力起ツ場合英佛ハ起ツモノト覺悟シテ準備セサルヘカラス依テ急ニ蘇聯トノ關係調整ニ乘リ出シタル次第ナリト答ヘタリ之ニ對シ本使ヨリ「リ」外相ニ對シ述ヘタル所ト同様ノ趣旨ニテ抗議シ右「リ」外相ヘ傳達方依頼セリ

伊ヘ轉電セリ

86 昭和14年8月22日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約締結の報道に対する英国内の  
反応について

ロンドン 8月22日後発

本 省 8月23日前着

第九七五號

往電第九七三號ニ關シ

「獨蘇不侵略條約締結ノ報道ハ青天霹靂ノ感アリ事ノ意外ナルニ朝野ヲ舉ケテ啞然タルモノアリ政府筋ヲ始メ一般ニ平和戰線結成ノ蹉跌ニ普ク失望スルト共ニ頻リニ蘇聯ノ不信ヲ鳴シ蘇ノ態度ヲ怪ミ居ル處右ニ依リ獨逸ノ立場大イニ有利トナレル反面波蘭ハ愈苦境ニ立ツニ至リ英佛ニ於テ之力救援ニ赴クコト亦至難トナルヲ以テ獨逸ハ此ノ好機ヲ逸セス一氣ニ事ヲ決スヘク危機ノ突發ハ茲數日ニ迫リ居レリトノ觀察有力ニテ反對黨ハ議會召集ヲ要求シ居リ新聞モ大體之ヲ支持ス

二、新聞ハ「ヘラルド」「クロニクル」等ノ左翼迄何レモ痛烈ニ蘇聯ヲ糾彈シ一方ニ英佛交渉ヲシ乍ラ他方密ニ獨逸ト結フカ如キコトハ獨逸ノ對波侵略ヲ獎勵スルニ等シト述ヘタルカ豫メ蘇聯ト了解ヲ遂ケスシテ東歐ノ「コミツ



トメント」ニ應シタルコトカ仰々ノ誤ナリ(「エクスプレス」)トテ政府ヲ非難スルモノアリ又獨蘇接近ノ結果蘇佛條約ハ無效トナレルカ同時ニ防共協定モ亦死文ト化セルニ等シキニ付日本ハ今ヤ獨力ヲ以テ蘇聯ト對抗セサルヘカラス(「メイル」)ト云フモノアリ尙路透社東京電報ハ日本ニ於テハ獨逸ノ行動ヲ以テ防共協定ノ精神ニ違反スルモノナリトシテ不滿ノ聲アル旨ヲ報シタルカ右ハ「Japan's bitter lesson」ト云フカ如キ見出ヲ以テ掲載セラレ居レリ

87 昭和14年8月22日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約締結に関する米國紙報道振りに  
について

ワシントン 8月22日後発  
本省 8月23日前着

第八五五號

二十二日各紙ハ獨蘇不侵略協定問題ニ關スル歐洲電報ヲ第一面ニ掲ケ居ル處紐育「タイムス」及紐育「ヘラルドトリビューン」華府通信ハ國務省筋ハ在外使臣ヨリノ公報ナキ

爲公ニ意見ヲ述フルヲ差控ヘ居ルモ蘇聯カ英佛ノ反「ヒットラー」陣營ニ投セサリシコトニ付テノ失望ノ色ハ明瞭ニテ一般ニ今回ノ通商條約二次キ不侵略協定締結計畫ハ日本ノ支那侵略カ獨逸ノ通商ト威信等ヲ他列國ノ夫レト同様ニ毀損シ又日本カ事變ニ餘リ没頭シ蘇聯ニ取リ殆ト脅威タサルニ至レル爲獨ノ蘇聯ニ對スル侵略計畫實行不能トナリタルコトニ對スル憤懣ニ原因シ蘇聯亦歐洲政局ニ於テ出來得ヘクハ消極的役割ヲ取ランコトヲ望ミ居リ從テ獨蘇政治協定ハ攻撃的性質ヲ有セス寧口消極的的目的ヲ有スヘク今回ノ舉ハ「ヒットラー」カ東歐制覇ノ計畫ヲ棄テ寧口英帝國打倒ノ決意ヲ固メタルモノナリトノ觀測ヲ裏書スルモノニシテ右ハ當然極東ノ事態ヲ變化セシメ日本ノ地位ヲ弱ムルモノナリトノ意見廣ク行ハレ居レリ外交官邊ニ於テハ右ハ歐洲全局ニ取リ最モ重大ナル結果ヲ齎スヘキ大轉期ニシテ獨蘇兩國ノ波瀾ニ對スル壓力ハ愈々重加シ「ウクライナ」ノ獨立要望ハ之ニ依リ再ヒ紛碎セラレタルモノニシテ若シ英佛蘇軍事協定成ラス獨蘇不侵略協定成ラハ戰後歐洲ニ於ケル最モ重大ナル外交的勝利ナラン他方之ニ依リ日獨伊間ノ結束ハ弛ミ蘇聯ハ極東ニ於テ自由ナル立場ヲ獲得シ其ノ

政策ヲ強化スヘシト觀測セラレ居ル趣ヲ報シ居レリ  
英ニ轉電セリ

英ヨリ獨、蘇、佛ヘ轉電アリタシ

~~~~~

88

昭和14年8月23日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約調印のためリッペン
がモスクワ訪問予定との情報

モスクワ 8月23日前発

本 省 8月23日後着

第九七七號(至急、極秘)

在當地獨伊大使館側ヨリノ聞込左ノ通り

(一)「リッペントロップ」ハ二十三日午後四(時)?飛行機ニテ

來莫直ニ「モロトフ」ト會見シ調印済ミ次第二十五(日)

朝當地發ノ豫定但シ交渉ノ進捗如何ニ依リテハ其ノ前日

又ハ翌日トナルヘシ

(二)本件交渉ハ約十日前ヨリ柏林ニ於テ獨逸側ト在獨蘇聯邦

代理大使「アスタホフ」トノ間ニ行ハレ略妥決セルモノ、

二明確ニスルヲ要スル點アリ之ニ付テハ「リッペン」自

身蘇政府ト打合ノ必要アリ自ラ來莫スルコトナリタル
モノナリ

(三)從テ當地獨大使館ニ於テモ何等其ノ内容ヲ承知セス(現
ニ伊國大使ハ今朝「タス」發表ヲ見テ驚キ早速獨逸大使
ヲ往訪セルモ前記(一)、(二)ノ點ヲ聽キ取リタルニ過キサリ
シ趣ナリ)

尚在當地伊太利大使館ノ一館員ハ過般「ザルツブルグ」獨
伊兩外相會談ノ際本件交渉開始ヲ決定セルコト略確實ナリ
ト語レリ

在歐米各大使ヘ轉電セリ

~~~~~

89

昭和14年8月23日

在独国大島大使より  
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約の締結事情に関するリッペン  
トロップの説明について

ベルリン 8月23日前発

本 省 8月23日夜着

第<sup>●</sup>八三二號(至急、絶対極秘)

往電第八二四號ニ關シ

「リ」外相ヨリ本使ト會談ノ爲二十二日夕刻「ザルツブルグ」ヨリ莫斯科ヘ飛行ノ途中伯林ニ立寄ルヘキ旨通知越シタルヲ以テ會談セリ其ノ要領左ノ通り

一、「リ」ハ今回ノ獨蘇不侵略條約締結ノコトハ事態切迫シ至急ノ内ニ決定セラレタル爲事前ニ御話シ出來サリシハ洵ニ遺憾ナリト前提シタル後昨日モ御話シタル通り英佛ノ獨逸包圍政策ハ最近獨逸ノ爭ニ關聯シ愈々猛烈トナリ獨逸トシテハ生死ヲ賭シテモ英佛ト抗爭ノ態勢ヲ整フル必要アリ日獨伊三國協定不成立ノ今日獨伊トシテハ今回ノ不侵略條約締結ニ依リ至急蘇聯ヲ中立化セシムル外ナカリシ次第ナリ自分トシテハ日獨蘇三國間ニ不侵略ノ約束ヲ作り英國ニ對抗スルコト最モ得策ナリト信スルモノニシテ今回ノ交渉ニ當リ蘇聯ノ代表者モ蘇聯カ日本トノ妥協ヲ欲スル旨ヲ繰返シ述ヘ居リタリ自分ハ蘇聯側ニ對シ不侵略條約ヲ締結スルモ獨逸トシテ日本トノ親善ノ方針ニハ全ク變更ナキ旨ヲ明言シ來リタル次第ニシテ此ノコトハ莫斯科「スターリン」「モロトフ」ニモ告クル積リナリ又日本ニシテ御希望ナラハ日蘇間ノ仲介ヲナスノ用意アリト述ヘタリ

二、次ニ「リ」ハ日獨伊三國協定問題ニ關シテハ久シキニ亘リ期待シテ話合ヲ續ケ來リ共同シテ「ムソリニ」ノ說得ニ努メタル經緯アリ四月ニハ獨伊側ハ日本ノ案文其ノ儘同意シタルカ其ノ後日本政府ノ態度不明確ニテ最近ニ至リテハ二箇月餘ニ亘リ何等ノ意思表示ニモ接シ得サルニ至レリ斯ルコトトナリタルハ最モ殘念ナルカ自分トシテハ今回ノ波蘭トノ紛爭解決ノ上ハ別ノ形式ニ依リ日獨關係ノ緊密化ヲ圖リタキ考ナリト述ヘタリ

三、之ニ對シ本使ハ未タ政府ヨリ何等訓令ヲ接受シ居ラサルモ自分ハ貴大臣カ昨日電話ニテ「法理論ヲ離レ」云々ト述ヘラレタルニ反シ本問題ヲ重大ナル德義問題ナリト信スルモノナリ日本政府及日本國民ハ獨逸カ如何ニ苦境ニ在リトハ言ヘ日獨關係ノ基礎ヲ爲シ來レル防共協定ヲ無效タラシムルカ如キ措置ヲ何等ノ相談モ無ク一方的ニ執リタルコトニ對シ深キ不滿ヲ抱クヘシ日獨伊三國協定問題ニ關スル日本ノ回答遅レタルコトハ防共協定違反ノ理由トナルモノニアラス又日獨蘇三國ノ不可侵協定云々ト言フカ如キ貴大臣ノ意見ニハ自分トシテ何等御返事スヘキ限りニアラスト述ヘタル上今日ハ時間モ無キ趣ナレハ

簡單ニ質問ヲ致度シト前提シ

(イ) 不可侵條約ノ内容ハ如何ナルモノナリヤ「テキスト」

既ニ決定セラレタリヤト質問セルニ「リ」ハ「テキスト」ハ決定シ居レルモ莫斯科ヨリ歸來ノ上御説明スルコトト致度シト答ヘタルヲ以テ本使ハ更ニ極東問題ニ關スル規定アリヤ又ハ祕密條項ヲ存スルヤト質問セル處極東問題ニハ何等關聯ナシ祕密條項ノコトニ付テハ何レ歸來後御話シスルコトトスヘシト答ヘタリ

(ロ) 次ニ本使ヨリ今回ノ不侵略ト防共協定トノ關係ヲ如何ニ考ヘラルルヤト質問セルニ明確ナル回答ヲ爲シ得サリシヲ以テ防共協定參加諸國トノ關係ヲ如何ニセラルル所存ナリヤト質問セルニ何レモ別ニ解決ノ方法ヲ考フル所存ナリト答ヘタリ

(ハ) 本使ヨリ日獨伊三國協定ニ關スル從來ノ交渉ハ當然之ニテ打切リトナルモノト考ヘラルルコトナルヘシト質問セルニ「リ」ハ蘇聯ヲ對象トスルモノハ打切リナルカ日獨ノ關係ニ付テハ別ノ形式ニ依リ更ニ緊密化ヲ圖リタシト考ヘ居レリト述ヘタリ

(ニ) 次ニ本使ヨリ「ヒ」總統以下「ナチス」獨逸ハ蘇聯ヲ

妥協スヘカラサル仇敵ト目シ來リ日本トシテモ蘇聯ヲ目標トシテ諸般ノ工作ヲ共同シテ行ヒ來リタル次第ナル處獨逸ノ右根本國策ハ變更セラレタルモノナリヤト質問セルニ「リ」ハ新事態ニ應シ修正セラレタル(Neue Revision)譯ナリト答ヘタリ

四、同外相ハ本使トノ會見後直ニ「ケーニヒスベルグ」ヲ經テ莫斯科ニ向フ豫定ノ趣ニテ急キ居リ充分會談ノ時間無カリシカ別レニ臨ミ廿五日迄ニハ伯林ニ歸來ノ豫定ナレハ其ノ上ハ更ニ會見シタシト述ヘ居リタリ

~~~~~

90

昭和14年8月(24)日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵條約が極東に及ぼす影響を重視し

た米國紙論調について

ワシントン

発

本 省 8月24日後着

特情華府第一一七號

華府各紙ハ連日獨蘇不可侵條約ニ關スル論說ヲ掲ケテ居ルカ孰レモ獨蘇兩國今回ノ提携力極東ニ及ホス影響ヲ特ニ重

視シ日本カ孤立スル結果蘇聯カ極東ニ於イテ自由ニ振舞フコトカ出來ルト共ニ一方英國ハ歐洲ニ重壓ヲ感スル爲極東ニ於イテハ日本ノ要求ニ讓步セサルヲ得ナクナル點ヲ指摘シテ居ル主ナル華府各紙ノ論調左ノ通り

華府「ボスト」紙(廿三日)

獨蘇不可侵條約ハ日獨兩國カ相携ヘテ蘇聯ニ當ル可能性ヲ消滅シ其ノ結果蘇聯ハ極東ニ關心ヲ集中シ得ルコトナラウスクテ日本ハ其ノ政策ヲ建直ス必要ニ迫ラレルニ至ツタ最近ノ事態ノ發展ハ英佛側ノ力ヲ弱メルモノタカ他方日本ヲモ孤立セシメルモノヲ獨逸ハ今ヤ日本ヲ必要トセス之ニ反シ蘇聯ハ極東ニ於イテ自由ニ振舞フコトカ出來ルコトニナツタ日本ハ事態ヲ氣ニ病ンテ居ルカ日本ノ執ルヘキ道ハ蘇聯ト和解スルカ若クハ北部國境ニ更ニ兵力ヲ増派スルカノ孰レカテアルカ之ハ支那ノ戰線ヲ弱メル結果トナル孰レニスルモ獨蘇不可侵條約ハ之迄極東テ勝手ニ振舞ツテ居タ日本ニ大キナ影響ヲ與ヘヨウ

華府「スター」紙(廿二日)

獨蘇不可侵條約ハ英佛蘇同盟ニ對スル努力ヲ無効ナラシメ英佛及波蘭カ「ヒットラ」總統ノ領土の野心ヲ封スル爲作

リ上ケ様トシテ居タ平和戰線ニ對スル大打撃テアル「ヒットラー」總統ノ外交の一撃ハ單ニ波蘭ノ後門ノ守リヲ粉碎シタノミナラス獨逸ハ蘇聯トノ通商協定ニ依リ平時戰時トモニ必須ノ原料品ヲ獲得スル道ヲ開イタ之ニ依ツテ波蘭ハ全ク侵略ノ危機ニ曝サレルコトニナツタノテアル「ヒットラー」總統カ現在ノ要求ヲ更ニ擴大スル可能性ハ濃厚デアリ英佛兩國ノ援助ヲ確約サレテ居ル波蘭ハ獨逸ニ徹底的ニ支配サレルヨリモ敢テ一戰ヲ賭スルタラウカ獨逸軍カ波蘭ヲ粉碎スルコトニナレハ獨逸ハ更ニ方向ヲ轉シ蘇聯ヲ對英佛戰ニ利用シ得ルコトニナリ獨逸ヲ長期戰ニ依ツテ屈服セシメルコトハ殆ト不可能トナラウ蘇聯カ斯ノ如ク獨逸側ニ加擔シタ以上戰爭ノ形勢カ獨逸ニ不利トナレハ武力援助ヲ與ヘル可能性スラ生シテ來ル獨蘇兩國ノ和解ハ日本ニ取リ重大打撃デアリ蘇聯カ歐洲テ獨逸ノ脅威ヲ受ケテ居ル限り日本ハ極東テ比較的自由ニ極東制覇ヲ遂行シ得ルカ不可侵條約カ獨蘇兩國間ニ出來レハ蘇聯ハ極東權益擁護ノ立場ヲ強化シ得ルコトナラウ

然シ英國ハ右條約ノ結果日本人ノ要求ヲ退ケルノニ一層困難ヲ感スルコトナリ支那ニ於ケル日本ノ立場ハ強化サレ

ルタラウ

昭和14年8月(24)日

在英国重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約に関する英国紙論調について

ロンドン 発

本省 8月24日後着

特情倫敦第九二號

廿三日ノ倫敦各紙ハ何レモ獨蘇不可侵條約ニ關スル論評ヲ
掲載シテ居ルカ各紙共ニ獨蘇接近ニ依ツテ英國ノ對波援助
決意ハ微動タニセヌ旨強調スルト共ニ獨逸ノ不信ヲ攻撃、
獨逸ハ極東ノ盟邦ヲ失フコトニナラウト論シテ居ル主ナル
論調左ノ通り

「タイムス」

獨蘇不可侵條約締結ノ報道ハ英國輿論ニ一大衝擊ヲ與ヘタ
カ冷靜ニ之ヲ考察スレハ英佛及波蘭ハ必スシモ甚大ナ打撃
ヲ蒙ツタ譯テハナイ今回ノ條約締結カ英佛兩國ヲ驚愕セシ
メ以テ波蘭ヲ見棄テシメントスル企圖ナルニ於テハ明白ナ
ル失敗ト言フヘキテアル何故トナレハ英國ハ飽迄モ波蘭援

助ノ協定ヲ履行スル決意ヲ有シ波蘭トテモ一見直接的打撃
ヲ蒙ツタ感カアルカ波蘭カ元來蘇聯ノ援助ヲ歡迎シナカツ
タコトヲ想起スレハ夫レ程ニ重大事テモナイカラテアル寧
ロ獨蘇接近ハ獨逸自身ニ對スル精神の打撃テ獨逸國民ハ判
斷ニ迷フヘク諸外國モ獨逸ニ對スル信賴ヲ失フタラウ現ニ
日本ハ明白ニ不滿ヲ表明シテ居ルノテハナイカ斯克テ日本
ハ極東戰爭ノ際ノ有力ナル支持者ヲ失ツタカ西班牙モ亦同
様不安ヲ感シテ居ル併シ何ト言ツテモ蘇聯ノ二重外交ハ許
シ難イ尤モ本條約ノ結果蘇聯カ獨逸カガ侵略ヲ行フ際一方
國力中立ノ義務ヲ負フモノナリヤ否ヤニ依ツテ現在ノ英佛
蘇三國交渉繼續ノ可否カ決定サレヨウ

「デーリー・テレグラフ」紙

獨蘇不可侵條約ハ締約國ノ一方カ侵略ヲ行ツタ際ハ失效ス
ヘキ旨ノ條項ヲ含ムト傳ヘラレルカ此ノ點カ最モ重大デア
ル獨蘇接近ナルモノハ從來不可能ト解サレテ居タノニ之カ
實現シタノハ驚異ニ値スルカ英國及其ノ輿論ノ決意ハ本條
約成立ニ依リ何等動搖シナイ寧ロ獨逸ハ歐洲ニ於テ得ル所
ヲ極東ニ於テ失フ惧カアル

92 昭和14年8月24日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約の調印完了について

モスクワ 8月24日前発
本 省 8月24日夜着

第九八五號(至急)

本二十四日午前一時獨蘇不可侵條約調印ヲ了セリ期限十箇年但シ右期限終了一箇年前ノ豫告ヲ以テ五箇年延長スルヲ得條約中兩締約國ハ反對ノ「グループ」ニ加入セサルヘキ旨ノ條項アリ

尙「リツペン」ハ本朝三時迄「スターリン」、「モロトフ」等ト會談セリ「リツペン」ハ本日農業博覽會參觀ノ後午後三時飛行機ニ依リ歸獨ノ豫定委細追電ス
在歐大公使、米、壽府ニ轉電セリ

93 昭和14年8月24日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵条約調印に関するソ連政府発表に

ついて

別電

昭和十四年八月二十四日發在ソ連邦東郷大使
より有田外務大臣宛第九八九號

右条約文

モスクワ 8月24日後発
本 省 8月25日前着

第九八八號

二十四日蘇聯政府發表左ノ通り
八月二十三日午後三時三十分「モロトフ」「リツペントロツプ」間ニ不可侵條約締結問題ニ關シ第一次會談行ハレタリ右會談ハ「スターリン」及「シューレンブルグ」大使出席ノ下ニ約三時間ニ亘リ行ハレ一旦打切ノ後午後十時ヨリ會談ヲ再開シ別電第九八九號不可侵條約ノ調印ヲ見タリ
在歐各大使、米、壽府ヘ轉電セリ

(別電)

モスクワ 8月24日後発
本 省 8月25日前着

第九八九號

⁽¹⁾蘇聯政府及獨逸政府ハ兩國間ニ於ケル平和事業ヲ鞏固ナラ

シムル希望ニ促カサレ且一九二六年四月兩國間ニ締結セラレタル中立條約ノ根本義ヨリ出發シ左ノ協定ニ到達セリ

第一條、兩締約國ハ單獨或ハ他國ト共同シ互ニ一方ニ對シ

一切ノ強力、侵略行爲及攻撃ニ出テサルノ義務ヲ有ス

第二條、締約國ノ一方カ第三國ヨリノ軍事行動ノ對象トナ

ル場合ニハ他ノ一方ハ如何ナル形式ニ於テモ右第三國ヲ

支持セサルヘシ

第三條、兩締約國政府ハ兩國政府間ニ共通ノ利害問題ニ關

シ情報ヲ交換シ協議スル爲將來相互ニ緊密ナル關係ヲ保

持スヘシ

第四條、兩締約國ノ孰レノ一方モ他ノ一方ニ直接又ハ間接

ニ對抗スル如何ナル國家「グループ」ニモ參加セサルヘ

シ

第五條、兩締約國間ニ何等カノ問題ニ關シ意見ノ相違又ハ

紛爭ヲ生シタルトキハ友好的意見ノ交換或ハ必要ニ應シ

紛爭處理委員會ノ設置ニ依リ専ラ平和的方法ヲ以テ右意

見ノ相違若クハ紛爭ヲ解決スヘシ

第六條、本條約ノ期間ハ十箇年トシ若シ締約國ノ一方カ期

間滿了一箇年前ニ本條約ノ廢棄ノ通告ヲ爲ササルトキハ

本條約ノ有効期間ハ更ニ五箇年間自動的ニ延長セラレタルモノトナサルヘシ

第七條、本條約ハ成ルヘク短期間内ニ批准セラルヘシ

批准書交換ハ伯林ニ於テ之ヲ行フ本條約ハ調印後直ニ效

力ヲ發生ス

本條約ハ一九三九年八月二十三日莫斯科ニ於テ獨文、露文

ニ通ヲ以テ作成ス

蘇聯邦政府ノ委任ニ依リ「モロトフ」

獨逸政府ノ爲ニ「リツペントロップ」



94 昭和14年8月24日

在独国外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵條約調印後のリツペントロップ声明

ベルリン 8月24日後発

本省 8月25日前着

第八四四號

二十四日「リ」外相ハ莫斯科出發前獨蘇不可侵條約ニ關シ

DNB特派員ニ對シ左ノ聲明ヲ發表セリ

獨蘇關係ハ過去ニ於テ兩國力敵對關係ニアリシ時ハ惡ク友

邦タリシ時ハ良好ナリシナリ昨日ハ兩國民ニ取り運命ニ關スル日タリ「ヒ」總統ト「スターリン」ハ兩國ノ友好關係ヲ決定セリ昨夜余ト「モロトフ」トノ間ニ署名ヲ了シタル不可侵條約ハ兩國力建設的ニ且緊密の協力ヲ樹立スヘキ確乎不動ノ基礎ナリ右ハ恐ラク兩國民ノ歷史上最モ重大ナル轉換期タリ獨蘇ニ對シテ包圍セントノ試ミ行ハレタルカ此ノ包圍政策コソ茲ニ獨蘇了解ヲ成立セシムルニ到ラシメタルナリ余ハ本不可侵條約カ日蘇關係竝ニ日獨友好關係ニ好影響ヲ與フヘキコトヲ確信ス

在歐各大使(蘇ヲ除ク)及壽府へ轉電セリ

95 昭和14年8月24日 在ニューヨーク若杉(要)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

獨ソ不可侵條約成立の重慶政權における反響
に関する報道について

ニューヨーク 8月24日後發
本省 8月25日前着

第三〇二號

獨蘇不可侵條約成立ノ支那側反響ニ關スル重慶二十三日

「タイムス」「ダーデイン」發電要旨左ノ通り

一、本件條約ノ成立ハ當地ニテモ全ク豫期セサリシコトトテ朝野ヲ驚愕セシメタルカ官邊筋ハ未タ公式「コメント」ヲ發表シ居ラサルモ一般ニハ蘇聯ノ對支援助ヲ強化セシメ重慶政府ノ地位ヲ改善セシムルモノトシテ歡迎シ居レリ(「ダーデイン」ハ此ノ點ニ關シ蘇聯ハ過般ノ通商條約締結以來對支「クレヂット」設定、飛行機及操縱者ノ供給等積極の對支援助ヲ既ニ強化シツアル旨ヲ指摘シ居レリ)

二、本件條約成立ノ結果蘇聯ノ對支武器供給ハ獨リ蘇聯飛行機ノミナラス獨蘇通商條約ニ依リ蘇聯原料品ト交換セラルヘキ獨逸製軍需品ノ對支流入スラ見ルニ至ルヘク近ク重慶、伯林間航空路ノ開設ヲ豫想スルモノアリ

三、但シ本件條約ノ成立カ支那ヲ有利ナラシムルヤ否ヤハ歐洲ニ戰爭勃發スルヤ否ヤ及日本今後ノ出方如何ニ依ルモノトナシ日英接近ノ可能性ハ未タ消滅セスト警戒的態度ヲ取ルモノ亦少カラス

米ニ郵送セリ

96

昭和14年8月25日
有田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

防共協定強化交渉は打切りと了解する旨独側
へ申入れ方訓令

本省 8月25日発

●獨蘇不侵略條約ノ締結ニ依リ從來行ハレ來タリタル日獨伊
三國協定ニ關スル交渉ハ自然全般的ニ打切りトナリタルモ
ノト了解スル旨帝國政府ノ訓令トシテ獨逸側ニ申入レラレ
タシ

伊へ轉電アリタシ

編注 本電報は電報番号不明。

97

昭和14年8月25日
在伊国白鳥大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵條約成立に關し伊国外相の機関紙
論說にて日本の態度に言及について

ローマ 8月25日前発

本省 8月25日夜着

第二四八號

二十四日「テレグラフ」紙(「チアノ」外相ノ機関紙)ハ獨
蘇不侵略條約ニ關スル論說中ニ於テ日本ノ態度ニ言及シ獨
蘇條約ハ日本ヲ自動的ニ樞軸政策ヨリ遠サクルモノトセル
英佛ノ觀測ハ全ク幻覺ニ終レリ新條約ノ成立ハ日本ト樞軸
國トノ緊密ナル關係ヲ阻害スルモノニアラストスル日本官
邊ノ聲明ハ極メテ當然ナリ太平洋ニ於テ英ト根本的ニ爭ハ
ントスル日本ハ歐洲ニ於テ英ノ蒙ムル打撃ヲ悅ヒ英カ若シ
歐洲ニ於テ事ヲ構フルニ於テハ日本ハ亞細亞ニ於テ直ニ之
ヲ攻撃スヘク斯クテ日本ハ何等形式的ノ同盟ヲ要セスシテ
實際的ニ樞軸國ニ參加スヘシト述ヘ居レリ
在歐各大使へ轉電セリ

98

昭和14年8月25日
在スイス天羽(英二)公使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵條約締結に關する独ソ両国の思惑
につき觀測報告

ベルン 8月25日後発

本省 8月25日夜着

第一一三號

獨蘇不可侵條約ハ各方面ニ衝動ヲ與ヘ種々ノ論議ヲ起シ居ル處之ニ對スル獨蘇双方ノ意中ヲ付度スルニ左ノ如シ

(一)獨逸トシテ

(イ)事態急迫シ波蘭延イテ英佛トノ戰爭ニ備ヘサルヘカサル情勢トナリタルカ獨ハ曩ニ日本ト軍事同盟ヲ結ビテ日本ヲ引入レントシタルモ日本ニ於テハ動カシ得サル障害アリト見テ之ヲ斷念シ蘇聯ヲ中立セシメテ英佛包圍陣ノ有力ナル一角ヲ挫キ更ニ蘇聯トノ提携ニ依リテ土耳其ヲ抑ヘ(英土提携ハ英外交ノ大成功タルト同時ニ獨ニ對シテハ大打撃)羅馬尼ニ強壓ヲ加ヘ希臘ヲシテ逡巡セシメントス他方蘇聯トノ通商條約信用供與協定ノ成立ニ依リ物資(既ニ昨今ノ新聞ニハ宣傳カモ知レサルモ獨ハ蘇聯ヨリ石油、綿、小麥等ヲ輸入セリト傳ヘラル)ヲ得ントス

(ロ)「ヒトラー」トシテ波蘭問題ハ出來ルナラハ平和の手段ニ依リ解決セントスルカ波蘭カ強硬ナル態度ニ出テ居ルハ英佛ノ援助ヲ頼ミトシ場合ニ依リテハ蘇聯カ英佛ト締結スルコトヲ豫想シ居ルニ基クモノナルカ故ニ

蘇聯ニシテ中立ヲ守リ英蘇ノ波蘭ニ對スル援助困難ト

ナラハ波蘭ハ獨ニ抵抗セスシテ屈服スルコトアルヘク少クトモ波蘭ノ態度ヲ緩和セシメ得ヘシトナス(但シ往電第一〇八號波蘭公使ノ内話及波蘭方面ヨリノ新聞情報ハ波蘭ハ最初ヨリ蘇聯ノ援助ヲ期待シ居ラサルカ故ニ蘇聯ノ中立ハ影響少シトナシ出來得ル限り獨蘇不可侵條約ノ效果ヲ少クセント努メ居ルモノノ如シ)

(ハ)日本及西班牙ニ對スル影響ニ付テハ獨逸ニ於テハ或ハ西班牙ハ現下ノ國情ヨリ獨蘇不可侵條約ニモ拘ラス伊獨ニハ追隨スヘク日本カ尙此ノ上獨伊ト舊來ノ關係ヲ維持スルコトニハ望ヲ囑シ難シトスルモ少クトモ日本ハ中立ヲ守ルヘク最近日本ノ反英氣分ヨリ見レハ如何ナル場合モ獨逸ノ反對ニ廻ルコトハナカルヘシト觀測シ居ルナルヘシ

(二)⁽²⁾蘇聯トシテ

(イ)最モ欲スルハ戰爭ニ引入レラレサルコトナルカ故ニ獨波戰爭延イテハ歐洲ノ戰爭ニ中立トナラントスルカ蘇聯ハ英佛ト獨伊トカ戰ツテ双方疲勞スルコトヲ欲スルカ英佛カ波蘭援助ヲ約束セル以上獨逸ヲシテ之ニ對抗

スル戦争ヲ決意セシムルニハ日本カ参加セサルコト明白トナリタル今日ニ於テハ蘇聯ノ中立カ必至條件タルコトヲ看取シ獨逸ニ不可侵ヲ約シテ戦争ヲ促進スルモノナルヘシ

(ロ) 蘇聯ニ取りテ最モ危険ナルハ日本ト獨逸ニシテ蘇聯ノ最モ恐れ居ルハ獨逸(蘇聯ノ獨逸ニ對スル恐怖ハ傳來的ニシテ想像外ナリ)ト日本ナリ蘇聯ノ對外政策ハ常ニ日本ト獨逸トノ關係ニ依リテ支配セラレ居ルカ故ニ蘇聯ハ特ニ日獨伊軍事同盟成立スレハ英佛ノ陣營ニ投セントセシモ今ヤ獨逸カ三國軍事同盟ヲ斷念シテ蘇聯ト不可侵條約ヲ締結スル以上日本ハ獨逸ニ對シテ中立トナルコト明瞭ナルヲ以テ蘇聯モ亦中立トナラントス

(ハ) 蘇聯ニ取りテハ日獨伊防共協定ハ蘇聯ヲ包圍スル痛手ナリシカ獨逸カ蘇聯ト不可侵條約ヲ締結スル以上日獨伊防共協定ハ無意義トナルヘク而シテ伊ハ獨逸ト結合シ西班牙ハ又早晚獨逸ニ引摺ラルルヲ以テ蘇聯ハ専心日本ニ當ルコトヲ得ヘシ殊ニ日本ハ軍事同盟問題ヲ繞リテ國內ニ意見對立シ居ルヤニ傳ヘラルルカ此ノ上獨蘇不可侵條約ノ締結ニ依リテ獨蘇關係ニ急變ヲ來サハ日本

國內ノ輿論ハ更ニ紛糾スヘシト觀測ス他方最近日本ニハ反英氣分横溢シ親獨氣分ハ急ニハ冷却セサルカ故ニ蘇聯カ獨逸ト組メハ日本ノ反蘇氣分ヲ緩和シ場合ニ依リテハ日本モ獨逸ノ提携ニ引入レ得ヘシト想像ス

「リッペントロップ」ハ莫斯科ニ於テ新聞記者ニ對シ蘇獨關係ノ改善ハ日蘇關係ノ改善ヲ伴フヘシト言ヘル由傳ヘタルカ當國新聞中ニハ日本カ極東ニ於テ蘇聯ト勢力範圍ヲ協定シテ妥協スルコトアルヘシト見居ルモアリ外交團中ニハ之ニ對シテ眞面目ニ質問セル者アリ

(三)³⁾ 尙本協定ニ付テハ左ノ事實ヲ看過シ得ス

(イ) 「ヒットラー」ハ如何ナルコトアルモ其ノ根本政策タル東方政策ヲ棄テサルヘク其ノ爲ニハ先ツ波蘭內舊獨領ヲ回復シテ蘇聯ニ對スル足場ヲ作ル必要アルヲ以テ現在蘇聯ノ波蘭問題ニ對スル立場ハ恰モ「チエツコ」事件ノ場合ニ於ケル波蘭ノ立場ト等シク獨逸カ波蘭ニ成功スレハ獨逸ノ鉾先ハ聽テ蘇聯ニ向フコトハ覺悟セサルヘカラス

(ロ) 又獨逸トシテモ蘇聯ト提携スルハ「ナチ」年來ノ主義

主張ニ反スルモノニシテ曩ノ「チエツコ」民族合併同
様「ヒットラー」政策ハ無主義無節操ナリトノ謗ヲ免
レス又獨逸ノ急轉廻ハ特殊ノ友邦タル日本及西班牙ニ
對シテ重大ナル不信義ヲ懷カスモノナルカ世界ニ對シ
テモ其ノ聲望ヲ墜スコト明カナリ

(ハ)蘇聯ハ英佛トノ交渉ニ於テ極東ヲ引入レントシテ成功
セサリシモノノ如ク又獨逸ハ三國軍事同盟ニ成功セス
斯クテ獨蘇双方其ノ年來ノ主義、主張ヲ棄テ現實ノ必
要ノ爲ニ結合シタルモノナルカ而モ双方其他國ト交渉
中ニ於テ豫メ關係國ニ知ラサスシテ既存ノ條約トハ矛
盾スル協約ヲ拔打的ニ結ヒタリ

此等ノ事實ニ鑑ミルモ如何ニ時局ハ急迫シ又獨逸ハ如何
ニ背水ノ陣ヲ布ケルヤヲ看取シ得ヘシ

在歐各大使、壽府へ暗送セリ

99

昭和14年8月29日

在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

独ソ不可侵條約が欧州諸国および日本に与え
る影響につき観測報告

第五二〇號

往電第四七二號ニ關シ

蘇聯邦カ佛英ヲ獨ニ乗換ヘ獨カ日本ヲ蘇聯邦ニ乗換ヘタル
結果獨ハ東方ニ大ナル兵站基地(蘇聯邦カ之ヲ承諾シ居ル
限リ)ヲ有スルニ至レルト共ニ東歐ニ於ケル軍事上ノ立場
ヲ強化セルカ他方日本西班牙始メ全世界輿論ノ非難不信ヲ
買フニ至レル政治的不利益ハ今直ニ明カナラストスルモ漸
次獨ニ不利ニ働キ來ルヘキ外日本カ必スシモ佛ヘノ敵タラ
サルニ至リ英佛ハ對日關係ヲ改善スルニ成功セハ力ヲ歐洲
ニ集メ得ヘク米モ對日關係ヲ安心シテ歐洲ニ向キ得ルコト
トナリ英佛援助ヲ増大シ得ヘキニ付西歐、地中海、阿弗利
加方面ニ於ケル獨伊ノ立場ハ却テ弱クナル可能性ヲ生シ殊
ニ伊ノ困難ノ増大スル可能性アリ例ヘハ日本ノ牽制ナクナ
レル英佛ハ印度洋太平洋方面ノ兵力ヲ「エチオピア」ニ集
メ得ヘク「エ」死地ニ陥ラハ之ヲ救ハントテ伊ハ地中海、
阿弗利加方面ニ無理ナ作戦ヲ爲スコトモアリ得ヘク之國防
ノ脆弱性ト相俟チテ軍事の立場ニ破綻ヲサヘ來スコトナシ

パリ 8月29日前發
本省 8月29日夜着

トセス少クトモ英佛ハ此ノ弱點ヲ突クヘク伊トシテハ獨ニ益々隸屬のトナルカ獨ヲ捨ツルカノ可能性ヲ生シ得ヘシ蘇聯邦ハ戰爭殊ニ日獨挾繫^(緊)ノ危險ヲ賭スルヲ免レ三方ニ於テ一應安全ヲ増シ又自ラ放火セル歐洲大戰力愈燃上リタル場合ニハ局外ニ立チ双方ノ消耗ヲ待ツ姿勢ヲ取り得ヘキモ他方獨ニ對スル物資供給者タル蘇聯邦ト海外トノ交通々商ハ獨ノ敵力阻止スヘク蘇ハ獨伊側戰時經濟「ブロック」内ニ閉込メラレ獨ト不和トナル可能性モ多ク蘇聯邦カ戰爭ニ堪ヘサル國內ノ脆弱性ト相俟ツテ我方ニ對スル壓力モ餘リ恐ルルニハ當ラサルヘキカト想像セララル

蘇獨新關係カ國際關係ニ及ホス影響ハ未タ明カナラサルモ前述ノ如キ種々ノ可能性ハ看取シ得ヘク我方ハ自由獨立不羈ノ立場ヲ維持シツツ右種々ノ可能性ヲ發展誘導利用シ得ヘキ有利ナル地位ニ在ルモノト存ス時局柄不取敢御參考迄

100

昭和14年8月31日

在ベルギー來栖大使より
阿部(信行)外務大臣宛(電報)

独ノ不可侵條約の成立に焦慮することなく事

變處理に邁進すべき旨意見具申

ブリュッセル 8月31日 発
本 省 着

第一八八號

一、獨蘇不可條約^(密約)調印ニ關シ我國一部ニ於テモ獨(伊)側ノ弁明ヲ其儘受入レ之ガ主タル原因ヲ我方ノ態度遷延ニ歸シ之ヲ誹議シ居ルヤニ印象セラルル處本來國際約束上ノ義務ヲ眞劍ニ考ヘ容易ニ態度ヲ決セサルト迅速ニ約束シ迅速ニ違約スルトハ國際信義ノ觀念ニ於テ多大ノ逕庭アルノミナラズ假リニ日獨伊關係カ既ニ強化セラレ居タリトスルモ右ハ獨逸ノ排除セントスル英佛蘇接近ヲ促進スル迄ニシテ事態急迫セル場合獨トシテハ事變ヲ控ヘ居ル我國トノ緊密關係ノミヲ以テシテハ長鞭馬腹ニ及ハサルノ感ヲ懷キ焦眉ノ急タル蘇聯邦ノ中立確保ノ爲恐ラク大体今回同様ノ方途ニ出テ來リタルベシト觀測セラルルニ付我方自ラ上述遷延ヲ云々シ責ヲ負ハントスルガ如キハ嚴ニ戒シムベキ所ナルベシト思考ス

二、又一部ニハ我方ノ孤立ヲ云々スル者アルヤニ見受ケラルルモ冒頭條約調印後ニ於ケル獨伊ノ我ニ對スル態度ハ豫テ往電第一四一號(三)ヲ以テ具申ノ通りニシテ且ツ蘇聯邦

ノ態度ニ關シテモ獨逸ノ波蘭征服カ短期間ニ達成セラレ
(當國軍事専門家ハ三週間乃至二箇月ト觀測シ居レリ)
愈々蘇獨境ヲ接スル場合ノ事態ヲ考ヘ蘇カ一片ノ不可侵
條約ヲ信賴シ歐洲方面ヲ閑却シ遽カニ武力ヲ極東方面ニ
傾倒シ來ルベシト見ルガ如キハ些カ早計ナルヤニ觀測セ
ラルノミナラズ從來赤化ノ危險ニ冷淡ナリシ諸國ノ對
蘇感情ガ蘇獨接近ノ結果著シク變化シツツアル空氣(例
ヘバ佛ノ共產黨紙發行停止、黨員ノ檢束等)モ我國トシ
テ看過スヘカラサル所ナルベシ

三、次ニ當面ノ「ダンチヒ」問題カ假リニ和平解決ヲ見、之
ヲ契機トシテ英獨關係調整ノ商議開始セラレタリトスル
モ右和平ハ体裁ヨキ英ノ後退ニ終ル可^(能)性鮮カラサルヲ
以テ英國輿論ノ現狀、英國ノ國民性及英獨佛伊ノ復雜ナ
ル關係ニ鑑ミ英獨ノ妥協ハ少クトモ容易ナラサルベク更
ニ從來米國一部ニ於テ唱ヘラレタル一般的國際平和會議
ノ如キモ例ノ大風呂敷ニ失シ軍縮ハ勿論世界經濟、日支
事變等ヲ持込ミ來ルノ惧アリ旁以テ一朝一夕ニ其開催乃
至妥結ヲ見ルニ至ラサルヘシト觀測ス

四、以上ノ形勢ニ鑑ミ我國トシテハ自主的立場ニ於テ其間充

分外交工作ヲ行フ余地アリト思考セラルルニツキ此ノ際
我國自ラ孤立ヲ云々シテ焦慮シ又ハ他國ノ「重壓」來ル
ベシト稱ヘテ從來ヨリ一層硬直ナル態度ヲ執ルノ要ナク
最近新聞報等ノ傳フルガ如ク支那中央政權ノ確立ニ依リ
事變ノ公正ナル處理ニ邁進スルコト此ノ際トシテ第一義
ナリト思考ス

在歐米各大使ヘ轉電セリ

編 注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資

料」中の「來栖三郎關係文書」より採録。

~~~~~

101 昭和14年9月7日

在独国大島大使より  
阿部外務大臣宛(電報)

日ソ国交調整にドイツは側面的援助を惜しま  
ずとのリップントロップ見解について

ベルリン 9月7日前発

本省 9月7日夜着

第九四五號(極秘)

五日早朝東部戰線大本營ニ在ル「リ」外相會見ヲ求メ來リ



タルヲ以テ同地ニ赴キ同日午後十時ヨリ本六日朝一時迄「リ」ト會談セリ「リ」ハ自分ノ伯林歸還未定ナルニ付御足勞ヲ煩ハシタル次第ナリト斷リ主トシテ蘇聯問題ニ關シ所見ヲ述ヘタリ會談ノ要旨左ノ通り

一、「リ」ハ獨蘇不可侵條約締結ニ付テ日本側ニ多大ノ不滿ヲ生セシメタルヲ謝シタル後獨逸ハ今次戰爭ニ於テ必勝ヲ確信シ居レルモ萬一獨逸カ敗北スルコトアラハ英、佛、米ノ合同勢力ハ遠カラス日本ニ向フヘシ日本ノ支那事變解決ニ當リ最大ノ妨害ヲ爲スハ英國ナルヲ以テ獨逸カ英國ヲ叩キノメスコトハ結局日本ノ爲ニモ不利ニアラサルヘク日本ニ於テモ此ノ點充分考慮セラレ獨逸ノ執リタル措置ヲ御諒解相成度シト又繰返シテ述ヘタリ

二、「リ」ハ先般來申上ケタル通り日本トシテモ此ノ際蘇聯トノ國交調整ヲ考ヘラルルコト可然ニアラスヤ獨逸トシテハ今後共日獨親善關係ヲ維持シタク且日蘇國交ノ調整ハ獨逸人ノ利益トモナルヘク以テ日蘇國交調整ニ關シテハ出來ル限りノ側面的援助ヲ惜マス若シ夫レ日蘇間ニ不可侵條約締結セラルルコトトモナラハ日獨蘇ノ統一戰線ニテ英帝國打倒ノ爲進ミ得ルコトトナリ日獨ノ爲極メテ

有利ナルコトト存ス

自分ハ今日「スターリン」ト隨時聯絡ヲ取り得ル狀況ニ在リ若シ日本カ御希望ナラハ日本ヨリ依頼セラレタルモノナルコトヲ絶對ニ現ハサス全ク非公式ニ先方ノ意向ヲ探ル用意アリト述ヘタリ之ニ對シ本使ハ本使個人ノ意見トシテハ日蘇國交ノ調整ハ結構トハ存スルモ蘇聯ノ「コミンテルン」政策ニ對スル國民ノ反感ハ極メテ根強く且蘇聯ノ對支援助、支那ノ赤化工作ハ日本ノ對支政策ヲ妨害シ居ルヲ以テ本問題ハ爾ク簡單ナルモノニアラス先ツ蘇聯ヨリ如實ニ誠意ヲ示シ來ルニアラサレハ日本國民ハ蘇聯トノ接近ニ傾カサルヘシト答ヘタルニ「リ」ハ繰返し日本カ希望セラルルニ於テハ本問題ニ關シ盡力致度シト述ヘタリ

三、「リ」ハ自分カ「スターリン」ト話シタル印象ニ依レハ「ス」ハ極メテ「リアリスト」ノ政治家ニシテ今日彼ノ命令ハ直ニ全蘇聯ニ實行セラルル地位ニ在リ彼ノ一言ニテ蘇聯新聞ノ獨逸攻撃ハ直ニ中止セラレタルカ如キ其一例ナリ又「ス」ハ猶太人ヲ嫌ヒ他面西班牙戰爭以來世界赤化ノ無益、無效ナルヲ充分了解シ來レルコト明カニ



シテ彼ハ「ロシア」人ノ露西亞國家建設ヲ企圖シ居リ  
「コミンテルン」政策ハ有害無益ナリトナシ居ル模様ナ  
リ自分ハ「ス」ト話ス迄ハ蘇聯ニ行ハルル極端ナル肅清  
工作ノ如キ全ク了解シ得サリシカ「ス」トノ會談ニ於テ  
「ス」ノ現在執リツツアル政策ヨリ見テ相當ノ反對者ア  
ルハ當然ニシテ彼ノ政策實現ノ爲ニハ之モ無理カラヌモ  
ノト感シタリスルコトハ「ピーター」大帝ノ時モ行ハレ  
タルコトニテ露西亞ノ政治ニハ附キ物ナリトモ考ヘ居レ  
リト述ヘタリ

蘇ヘ轉電セリ

102

昭和14年9月10日

在伊國白鳥大使より  
阿部外務大臣宛(電報)

離任に際し第二次欧州大戦の勃發をめぐる欧  
州情勢の観測と日本の執るべき外交方針につ  
き具申

第二九九號(絶對極秘)

ローマ 9月10日後発  
本省 9月11日前着

離任ニ際シ更メテ左ノ通り卑見具申ス

一、其ノ後ノ推移ニ徴スルニ愈々全面的長期ノ戰爭トナル前  
ニ今一度平和ノ運動カ試ミラルヘキハ疑ナキモノノ如ク  
獨逸カ何等カ提議ヲ爲スヘシトノ「チアノ」外相ノ言ハ  
相當的確ナル根據ニ基クモノノ如キ印象ヲ受ケタリ伊太  
利カ之ト呼應シテ新シク活動ヲ始ムヘキコトモ疑ナシ實  
ハ伊太利ハ其ノ後モ裏面ニ於テ大イニ活躍シツツアルモ  
ノト認ムヘキ理由アリ英佛トノ間ニ頻リニ往復ヲ重ネ居  
ルノミナラス米國トモ協力シツツアルヤニ察セラレ而シ  
テ波蘭カ意外ニ脆ク敗レ軍國トシテノ獨逸ノ眞價カ再ヒ  
發揮セラレタルコトハ却テ平和ヲ促進スルノ效果アルヘ  
シト認メラル

二、佛國ニ關シテハ問題ナキモ英國カ強硬ナリトノ「チア  
ノ」ノ言ハ必スシモ其ノ儘ニハ受取ル能ハスト思料ス今  
次英國ノ態度ニハ幾多疑ハシキ節アリ彼カ表面ノ強ガリ  
ノミヲ見テ戰意動カスヘカラストナスハ或ハ早計ニハア  
ラサルヘキカ獨伊ノ提携カ一朝ニシテ搖クヘクモナキハ  
英國トシテモ充分承知ノ筈ナルニ早晚敵側ニ廻ルヘキ伊  
太利ニ對シ頻リニ媚ヲ呈シ殊ニ「ムツソリニ」ノ平和ノ

努力ニ對シ英佛首相會議ニ於テ特別鄭重ニ敬意ヲ表シタルカ如キハ今後ノ「ム」ノ平和斡旋ヲ期待スルカ爲ナルヘシ昨今當地英國大使力頻々「チ」外相ヲ訪問スルモ無論平和ノ問題ニ關聯アルモノト見サルヘカラス開戰既二十日ニ及ハントスルモ英佛側カ何等目覺シキ活動ヲ示ササルハ之亦彼等ノ心理力戰爭ト平和トノ間ヲ彷徨スルカ爲ト考ヘラレサルニアラス他面伊太利カ國際列車ヲ運轉シ米國航路其ノ他ヲ再ヒ開キ國內ニ於テモ強テ平和ノ氣分ヲ濃厚ナラシムルト共ニ獨波戰爭ニ關シテモ獨逸ノ戰勝ニ熱狂スヘキ筈ノ民心ヲ抑ヘ新聞等ニモ努メテ公平ヲ裝ハシメ居ルハ戰爭ニ捲込マルルコトヲ惧ルルカ爲ヨリモ平和ノ斡旋ニ備フルカ爲ト思考セラル(戰爭ニ加ハルモ伊太利ノ地位ハ世間想像ノ如ク脆弱ニアラスト存ス)

三、兎モ角モ平和ニ對スル最後ノ試ミカ爲サルヘキコトニ付テハ今日識者ノ豫想ハ一致シ居リ而シテ其ノ成否ハ一ニ懸テ獨逸ト英國トノ態度ニ存スルコトモ衆目ノ見ル所ナリ

波蘭ヲ征服シタル後獨逸カ果シテ如何ナル提議ヲ爲スヘ

キカハ知ルニ由ナキモ蘇聯邦トノ密約等アリテ獨蘇ノ間ニ波蘭ヲ分割スルカ如キ解決ハ英國トシテ勿論問題ニシ得サルヘシ然レトモ波蘭ノ獨立ヲ認ムル以上假令其ノ領土ハ削ラルルモ他ノ條件タニ備ハラハ英國トシテ必スシモ無下ニ斥クルコトヲ爲ササルヤモ測ラレス他ノ條件トハ之ニ依リテ長キニ亘リ歐洲ノ平和カ維持セラレ幾百萬ノ人命カ救ハレ波蘭ノ犠牲ハ之ヨリ大ナル人類ノ福祉ノ爲之ヲ忍フコトカ正義ナリト自他ヲシテ信セシムルニ至ル程ノモノナラサルヘカラス些カ穿チ過キタルモ英國トシテハ當初ヨリ第二ノ「ミュンヘン」ノ變形トシテ一度大膽ニ戰爭ヲ開始シタル上ニテ此ノ種早期ノ講和會議ヲ開クコトヲ豫想シ居リタルヤモ測ラレス戰前交渉以來ノ英國ノ態度ハ餘リニ強硬ニ過キ英國外交ノ傳統ニ背クノ嫌アリ彼トシテハ特ニ今日ノ時期ヲ選ヒテ戰爭スヘキ必要モ自信モナキ筈ナレハ自ラ以上ノ如キ憶測モ生シ得ル次第ナリ

四、日本ノ立場ヨリスレハ斯ノ如キ平和會議而モ「チアノ」ノ言フカ如ク日本、米國、蘇聯邦ヲ含ム世界的平和會議ノ如キハ甚タ面白カラス此ノ儘歐洲ノ諸國カ死ヌカ生キ

ルカノ戰爭ヲ續クルコトカ新亞建設ノ我使命達成ニ便ナルハ勿論ナルモ我トシテハ徒ニ樂觀シテ何等工作ヲ爲サルハ斷シテ不可ナリ都合好キ場合ト共ニ惡シキ場合ヲモ考慮シ豫メ之ニ備フルコト肝要ト存ス殊ニ如何ニシテ前陳ノ如キ國際會議ヲ未然ニ防クヘキカ又防キ得サル場合ハ如何ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムカ、如何ナル事前ノ外交工作ヲ要スヘキカ等ニ付充分ナル御檢討アランコトヲ切望ス東洋ノ犠牲ニ於テ白人ノ問題ヲ解決セラルルノ危険ハ極メテ警戒ヲ要ス而シテ英獨妥協ノ成ル場合其ノ虞最モ大ナリ問題ハ案外切迫セル様ニモ思料セラルル處本使差當リノ意見ハ矢張り此ノ際獨伊トノ合作ヲ第一義トシ蘇聯邦トモ至急懸案ヲ解決シテ一層良好ナル關係ヲ作り置クコト適當ナリト存ス而シテ之ハ支那事變ノ解決ヲ眼目トスル以上何レノ途日本ノ執ルヘキ態度ナリ